

３ 地域活動と就業について

３－１ 地域活動の参加について

問６ 現在、どのような地域活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。（回答はアとイの項目ごとにあてはまるものすべて）

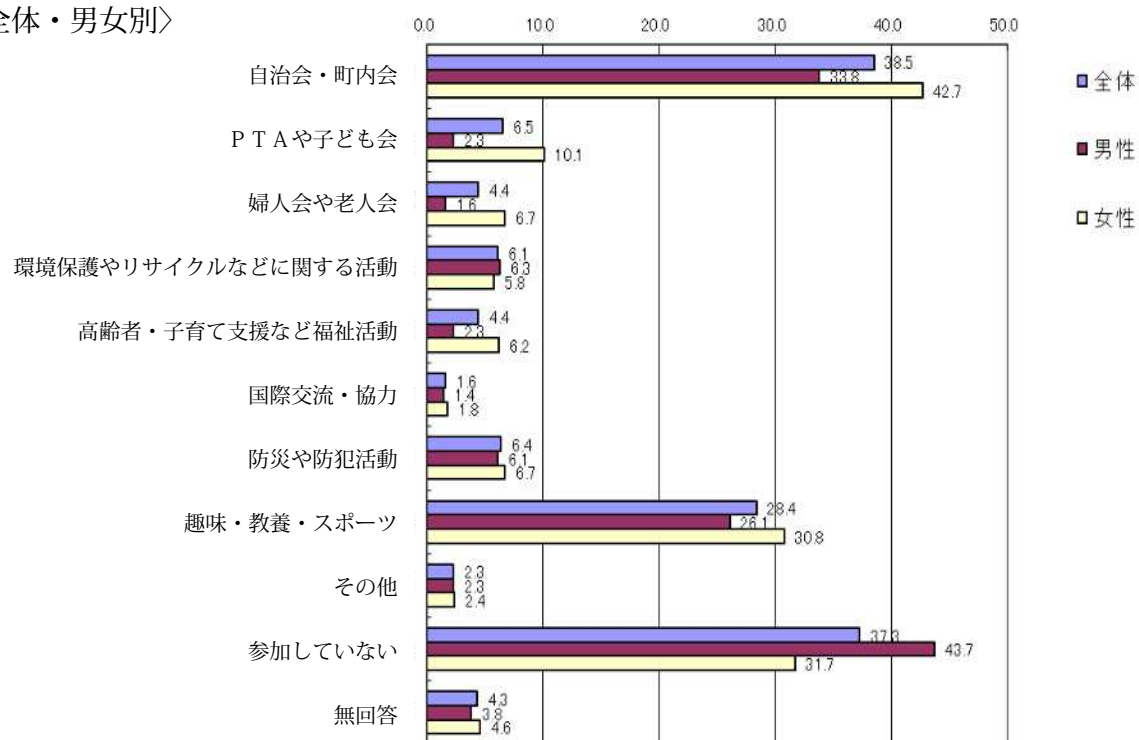
ア 現在参加している

(人：％)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 自治会・町内会	362	38.5	144	33.8	215	42.7
2 P T Aや子ども会	61	6.5	10	2.3	51	10.1
3 婦人会や老人会	41	4.4	7	1.6	34	6.7
4 環境保護やリサイクルなどに関する活動	57	6.1	27	6.3	29	5.8
5 高齢者・子育て支援など福祉活動	41	4.4	10	2.3	31	6.2
6 国際交流・協力	15	1.6	6	1.4	9	1.8
7 防災や防犯活動	60	6.4	26	6.1	34	6.7
8 趣味・教養・スポーツ	267	28.4	111	26.1	155	30.8
9 その他	22	2.3	10	2.3	12	2.4
10 参加していない	350	37.3	186	43.7	160	31.7
無回答	40	4.3	16	3.8	23	4.6

(全体N＝939 男性n＝426 女性n＝504)

〈全体・男女別〉



全体では、「自治会・町内会」(38.5%)、「参加していない」(37.3%)、「趣味・教養・スポーツ」(28.4%)の順となっています。男女で比較すると、男性は女性に比べ、「環境保護やリサイクルなどに関する活動」への参加率が高く、女性は男性に比べ「自治会・町内会」や「P T Aや子ども会」への参加率が高い傾向にあります。

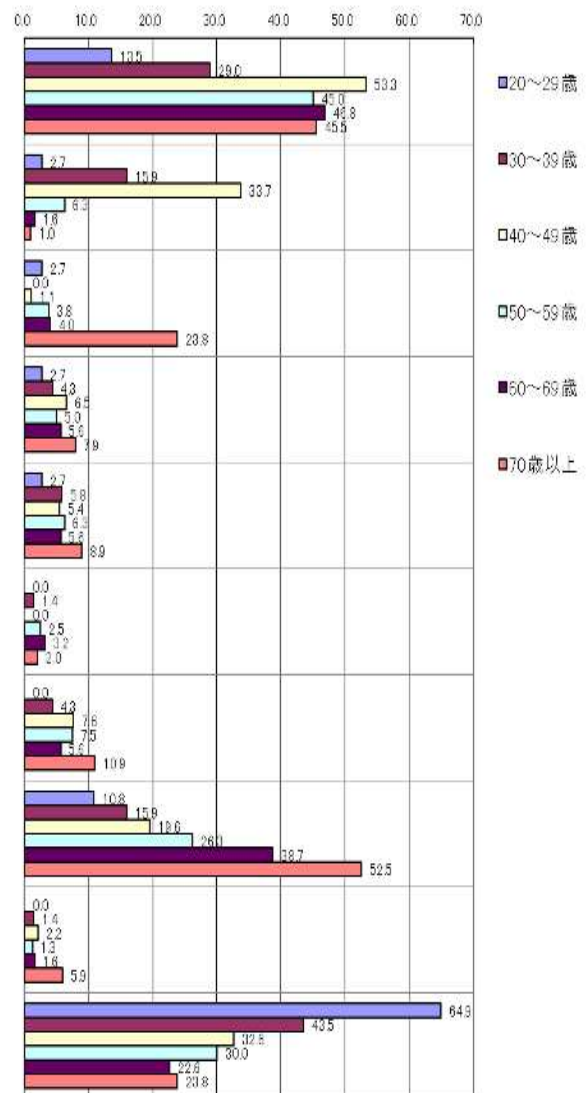
Ⅲ－３ 地域活動と就業

男女別・年齢別

男性



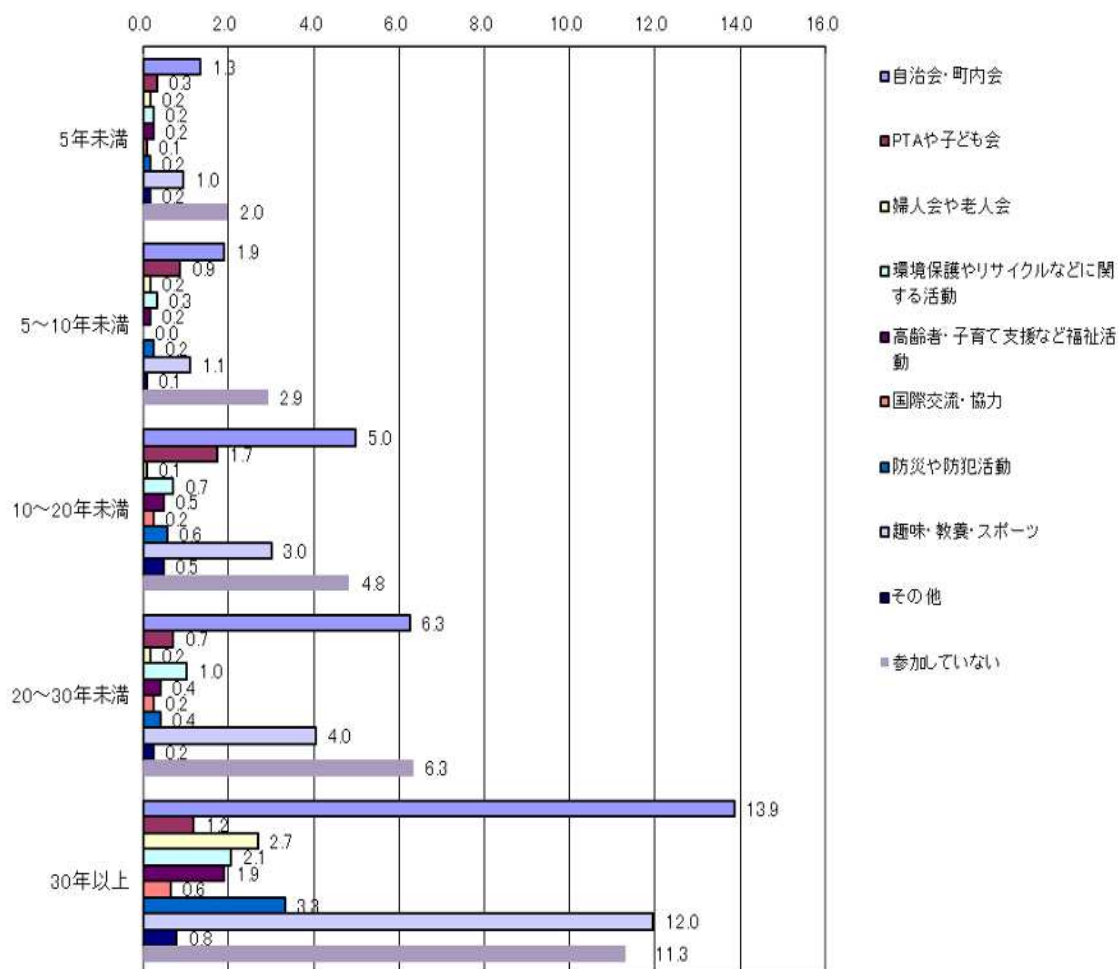
女性



男女・年齢別でみると、男性は、20 歳代で「趣味・教養・スポーツ」（16.7％）とした割合が最も高く、30 歳代以上は「自治会・町内会」とした割合が最も高くなっています。

女性は、70 歳以上を除く他の年齢層で「自治会・町内会」とした割合が最も高くなっています。70 歳以上は、「趣味・教養・スポーツ」とした割合が最も高くなっています。

居住年数別



居住年数別にみると、居住年数が長いほど地域活動に参加しています。

イ 今後参加したい

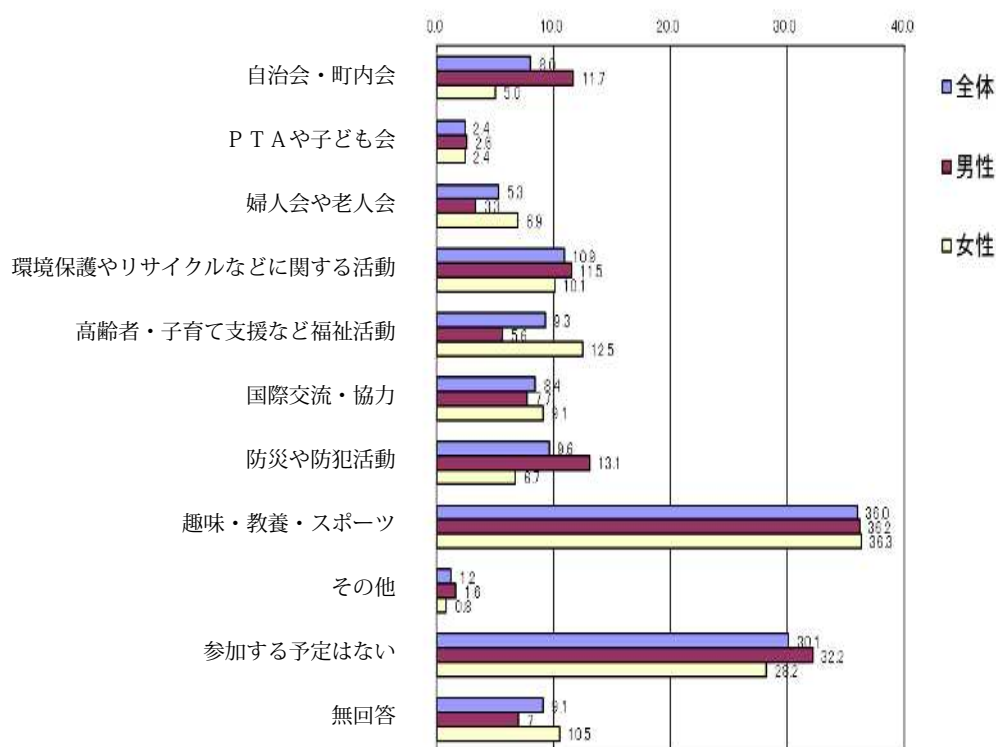
(人：%)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 自治会・町内会	75	8	50	11.7	25	5.0
2 P T Aや子ども会	23	2.4	11	2.6	12	2.4
3 婦人会や老人会	50	5.3	14	3.3	35	6.9
4 環境保護やリサイクルなどに関する活動	102	10.9	49	11.5	51	10.1
5 高齢者・子育て支援など福祉活動	87	9.3	24	5.6	63	12.5
6 国際交流・協力	79	8.4	33	7.7	46	9.1
7 防災や防犯活動	90	9.6	56	13.1	34	6.7
8 趣味・教養・スポーツ	338	36.0	154	36.2	183	36.3
9 その他	11	1.2	7	1.6	4	0.8
10 参加する予定はない	283	30.1	137	32.2	142	28.2
無回答	85	9.1	30	7.0	53	10.5

(全体N = 939 男性 n = 426 女性 n = 504)

Ⅲ－３ 地域活動と就業

全体・男女別



全体をみると、「趣味・教養・スポーツ」とした割合が最も高くなっています。現在参加している活動と比較すると、「環境保護やリサイクル等に関する活動」（10.9％）、「防災や防犯活動」（9.6％）「高齢者・子育て支援など福祉活動」（9.3％）の割合が高くなっています。一方、「自治会・町内会」（8.0％）の割合が低くなっています。

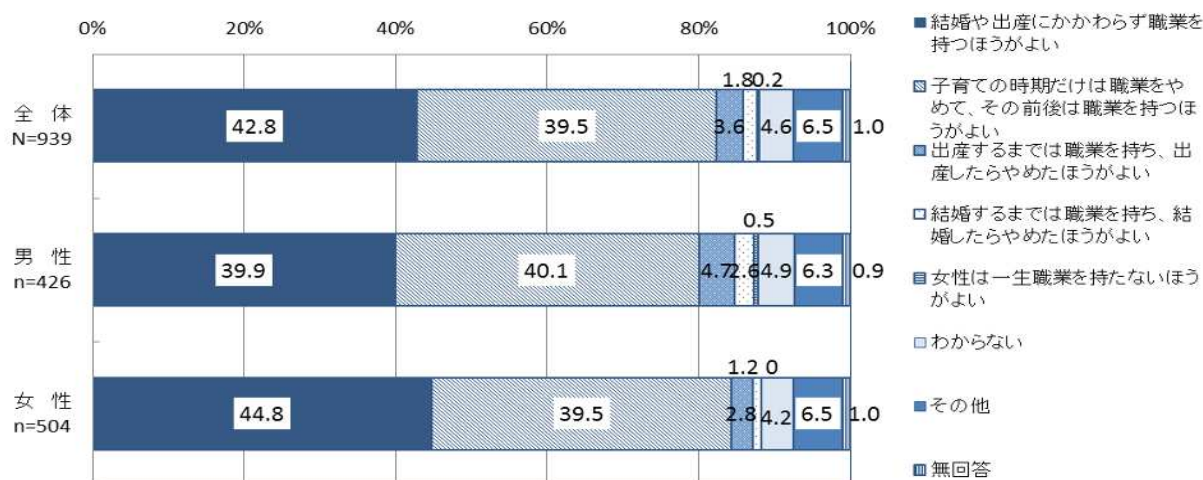
3－2 女性が職業を持つことについて

問7 女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。（回答は1つ）

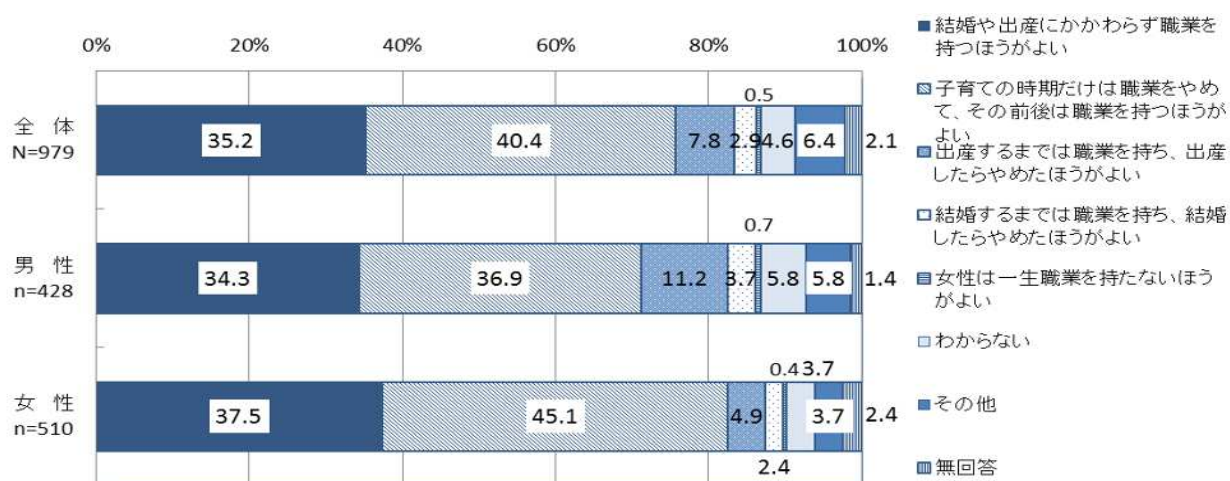
（人：％）

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい	402	42.8	170	38.9	226	44.8
2 子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい	371	39.5	171	40.1	199	39.5
3 出産するまでは職業を持ち、出産したらやめたほうがよい	34	3.6	20	4.7	14	2.8
4 結婚するまでは職業を持ち、結婚したらやめたほうがよい	17	1.8	11	2.6	6	1.2
5 女性は一生職業を持たないほうがよい	2	0.2	2	0.5	0	0
6 わからない	43	4.6	21	4.9	21	4.2
7 その他	61	6.5	27	6.3	33	6.5
無回答	9	1.0	4	0.9	5	1.0
合 計	939	100	426	98.9	504	100

平成 27 年調査 全体・男女別



〈平成 22 年調査 全体・男女別〉

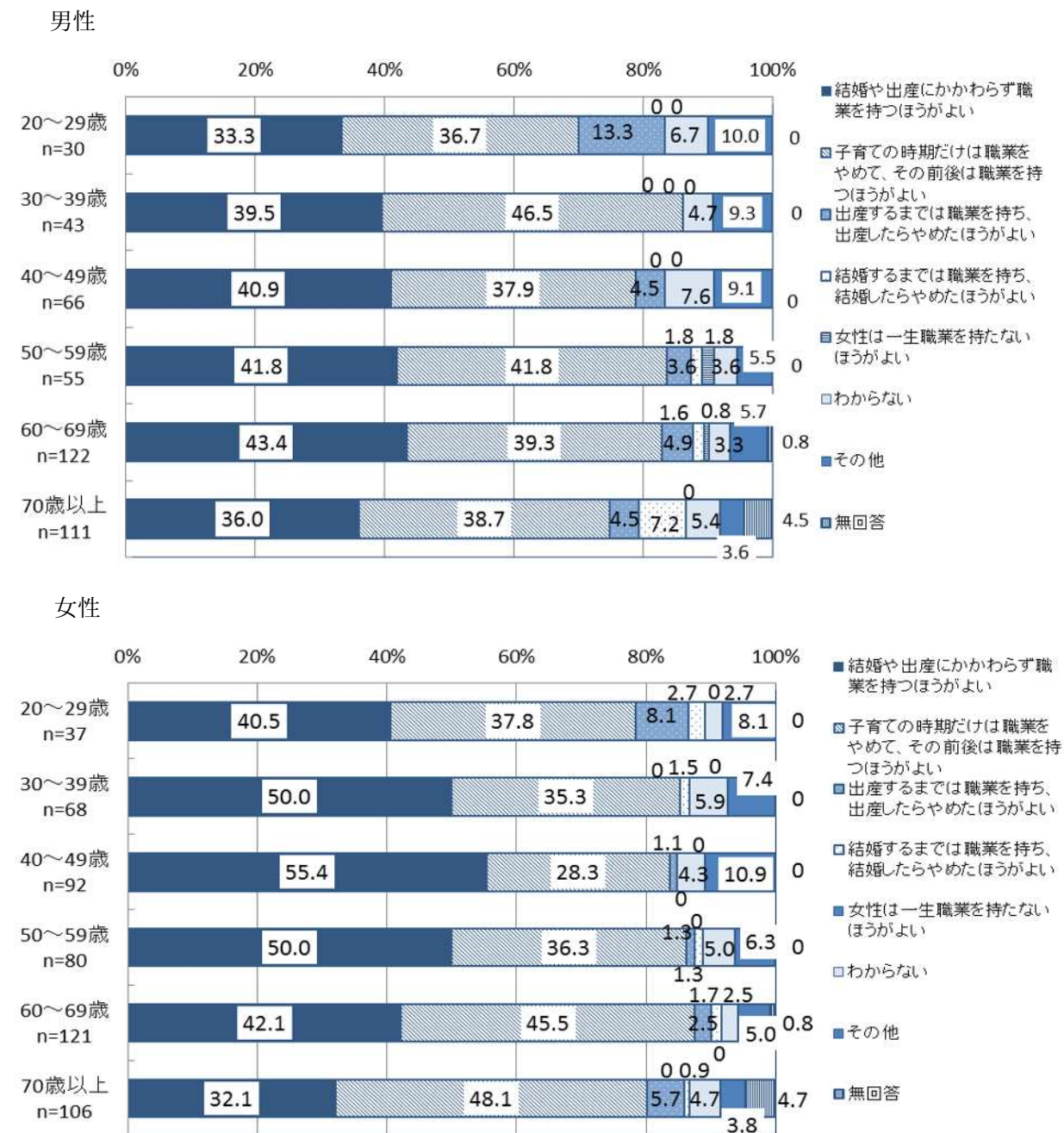


「結婚や出産にかかわらず職業をもつほうがよい」（42.8%）とした割合が最も高く、次いで、「子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい」（39.5%）の順になっています。女性が生涯にわたって職業を持つことを肯定する人が大半となっています。男女別に見ると、「結婚や出産にかかわらず職業をもつほうがよい」が男性に比べ女性のほうの選択割合が高くなっています。逆に「子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい」、「出産するまでは職業を持ち出産したらやめたほうがよい」では男性の方の割合が高くなっています。

平成 22 年調査と比べると「子育ての時期だけは職業をやめて、その前後は職業を持つほうがよい」、「出産するまでは職業を持ち出産したらやめたほうがよい」の割合が減少、「結婚や出産にかかわらず職業をもつほうがよい」が増加し、1 位、2 位の順位が入れ替わりしました。

Ⅲ－３ 地域活動と就業

男女別・年齢別



男女別年齢別でみると、男女共にどの年代も「結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい」、「子育ての時期だけ職業をやめて、その前後は職業をもつほうがよい」とした割合が高くなっています。「結婚や出産にかかわらず職業を持つほうがよい」とした割合の最も高い年代は、男性では60歳代（43.4%）、女性では40歳代（55.4%）です。また、「子育ての時期だけ職業をやめて、その前後は職業をもつほうがよい」とした割合の最も高い年代は、男性では30歳代（46.5%）女性では70歳代（48.1%）となっています。

３－３ 職場における男女の平等について

問８ 【問８は、現在働いている方への質問】あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか。（回答はアからキの項目ごとに１つ）

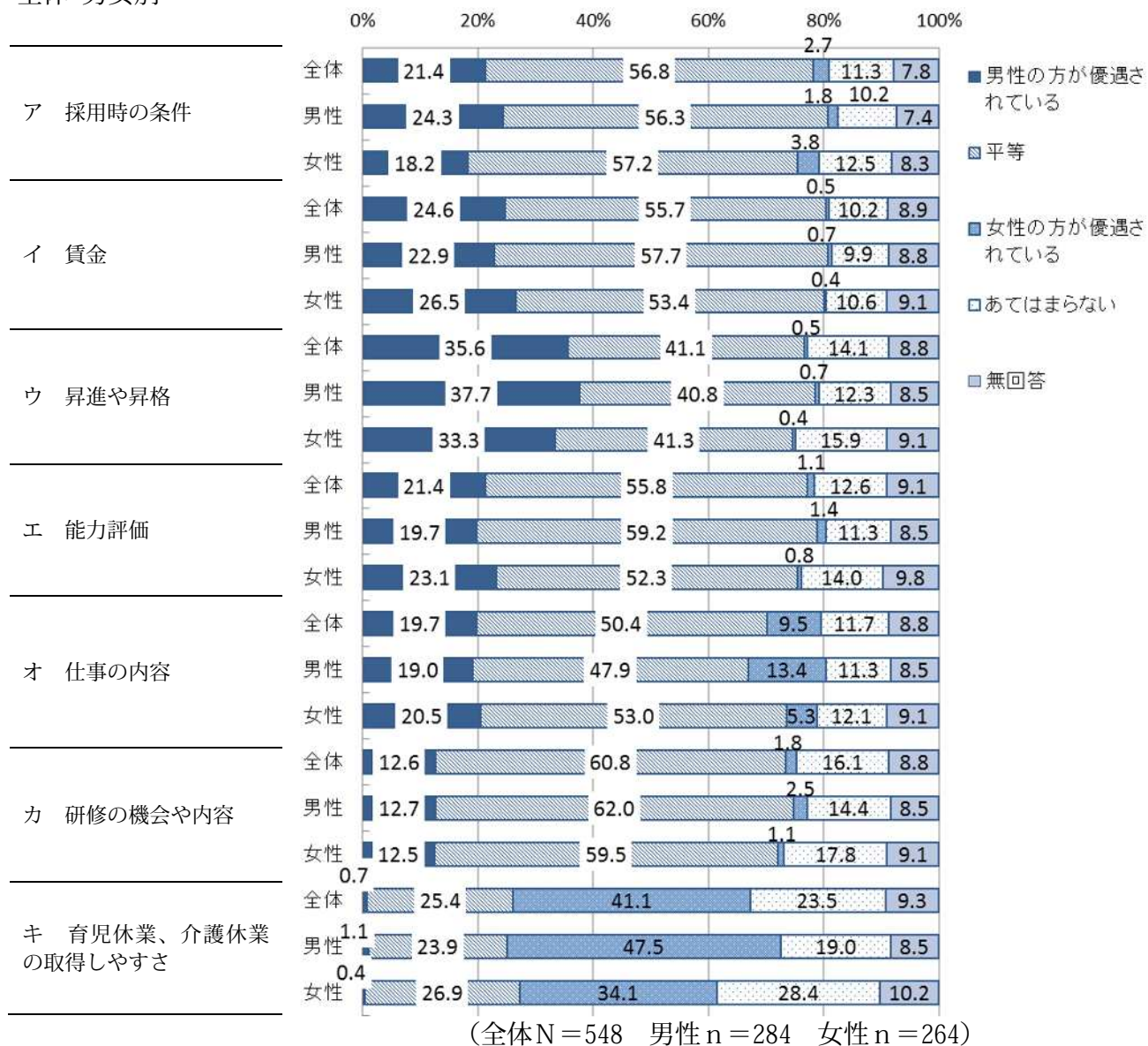
（人：％）

項 目	性別	男性の方が 優遇されて いる		平等		女性の方が 優遇されて いる		あてはまら ない		無回答	
		人数	構成 比	人数	構成 比	人数	構成 比	人数	構成 比	人数	構成 比
ア 採用時の条件	全体	117	21.4	311	56.8	15	2.7	62	11.3	43	7.8
	男性	69	24.3	160	56.3	5	1.8	29	10.2	21	7.4
	女性	48	18.2	151	57.2	10	3.8	33	12.5	22	8.3
イ 賃金	全体	135	24.6	305	55.7	3	0.5	56	10.2	49	8.9
	男性	65	22.9	164	57.7	2	0.7	28	9.9	25	8.8
	女性	70	26.5	141	53.4	1	0.4	28	10.6	24	9.1
ウ 昇進や昇格	全体	195	35.6	225	41.1	3	0.5	77	14.1	48	8.8
	男性	107	37.7	116	40.8	2	0.7	35	12.3	24	8.5
	女性	88	33.3	109	41.3	1	0.4	42	15.9	24	9.1
エ 能力評価	全体	117	21.4	306	55.8	6	1.1	69	12.6	50	9.1
	男性	56	19.7	168	59.2	4	1.4	32	11.3	24	8.5
	女性	61	23.1	138	52.3	2	0.8	37	14.0	26	9.8
オ 仕事の内容	全体	108	19.7	276	50.4	52	9.5	64	11.7	48	8.8
	男性	54	19.0	136	47.9	38	13.4	32	11.3	24	8.5
	女性	54	20.5	140	53.0	14	5.3	32	12.1	24	9.1
カ 研修の機会や 内容	全体	69	12.6	333	60.8	10	1.8	88	16.1	48	8.8
	男性	36	12.7	176	62.0	7	2.5	41	14.4	24	8.5
	女性	33	12.5	157	59.5	3	1.1	47	17.8	24	9.1
キ 育児休業、介 護休業の取得しやす さ	全体	4	0.7	139	25.4	225	41.1	129	23.5	51	9.3
	男性	3	1.1	68	23.9	135	47.5	54	19.0	24	8.5
	女性	1	0.4	71	26.9	90	34.1	75	28.4	27	10.2

（全体N＝548 男性n＝284 女性n＝264）

Ⅲ－３ 地域活動と就業

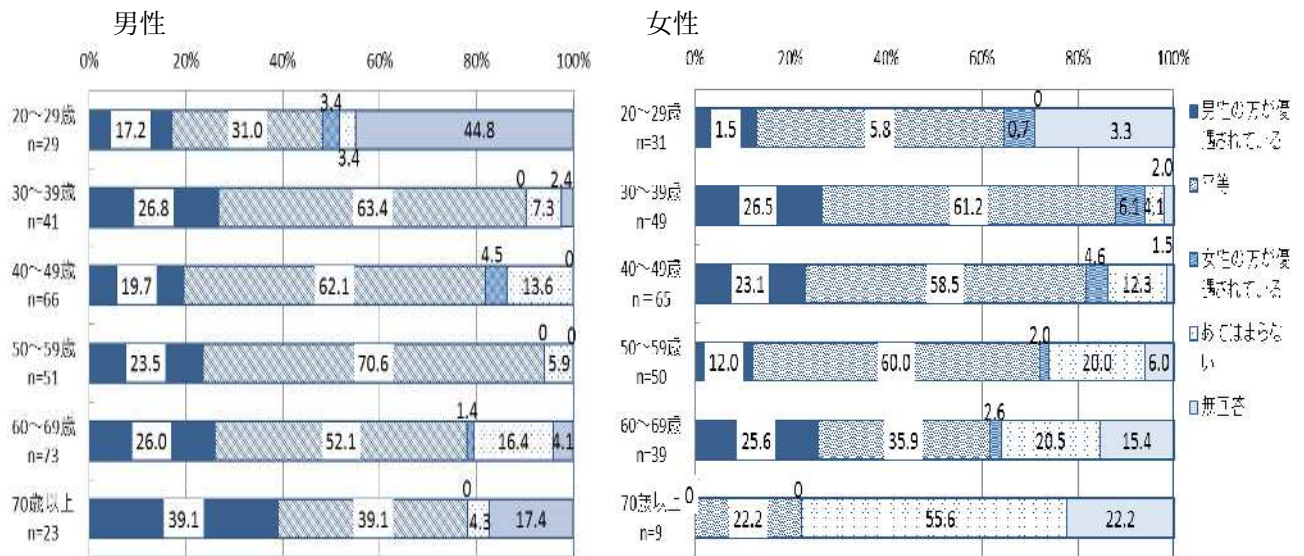
全体・男女別



全体をみると、「男性の方が優遇されている」と回答している割合が高いのは、「昇進や昇格」(35.6%)、次いで「賃金」(24.6%)となっています。一方「女性の方が優遇されている」と回答している割合が高いのは「育児休業、介護休業の取得しやすさ」(41.1%)となっています。

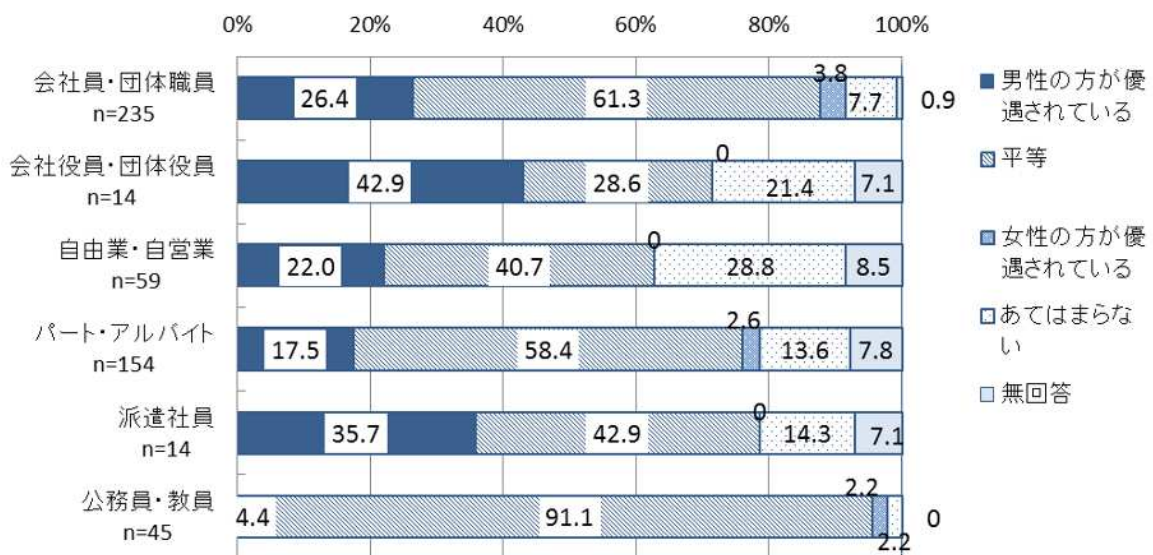
ア 採用時の条件

男女別・年齢別



男女年齢別にみると男女共に 20 歳代から 50 歳代まで（男性は 60 歳代まで）で「平等」としている割合が、5 割を超えています。「平等」とした割合が最も高いのは、男性では 50 歳代（70.6%）、女性では 30 歳代（61.2%）となっています。

＜職業別＞

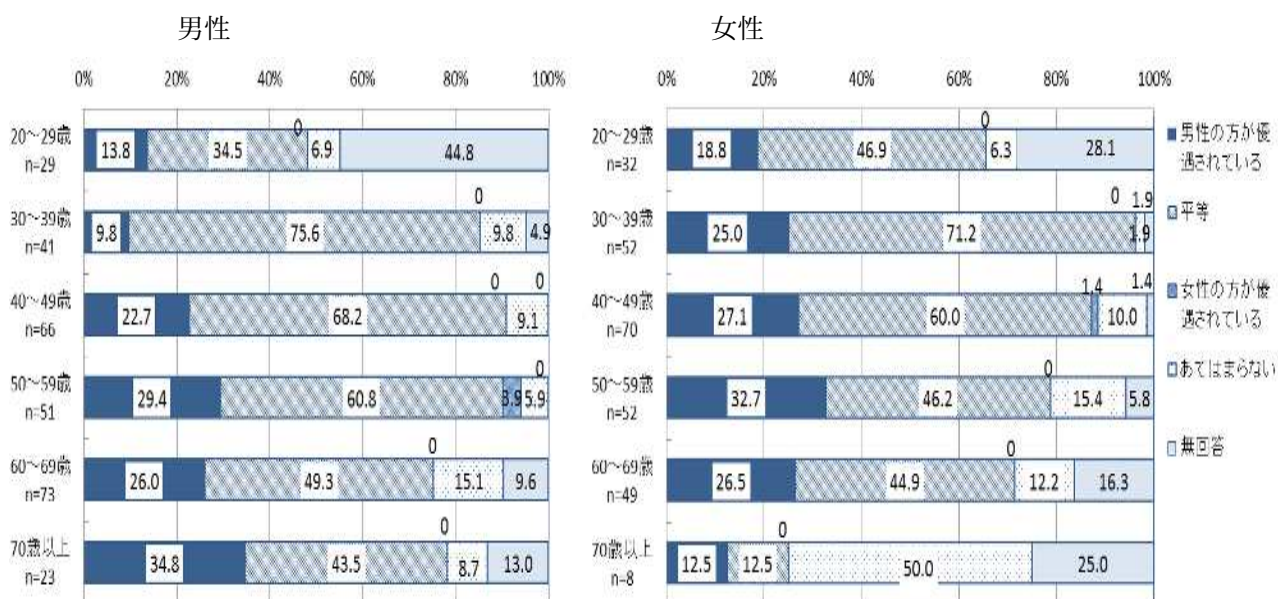


職業別にみると「平等」とした割合が最も高いのは「公務員・教員」（91.1%）であり、最も低いのは「会社役員・団体役員」（28.6%）です。

Ⅲ－３ 地域活動と就業

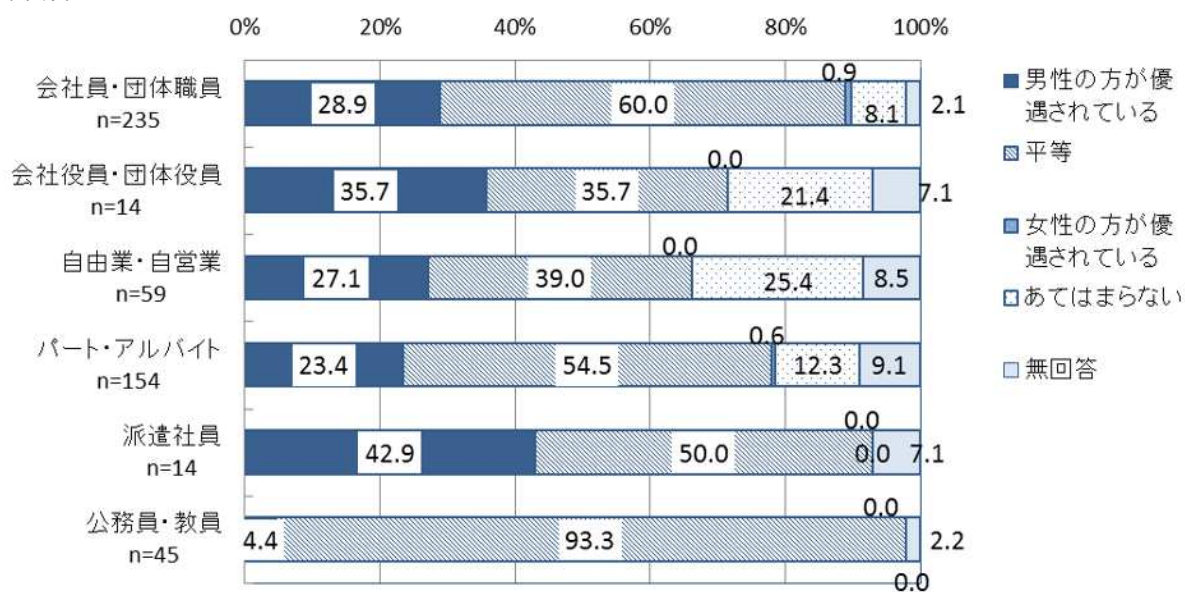
イ 賃金

男女別・年齢別



男女・年齢別にみると、「平等」とした割合が最も高いのは、男女共に、30 歳代であり、男性（75.6%）、女性（71.2%）です。また、男女共に年齢層が高くなるに従い、「平等」とする割合は低くなっています。

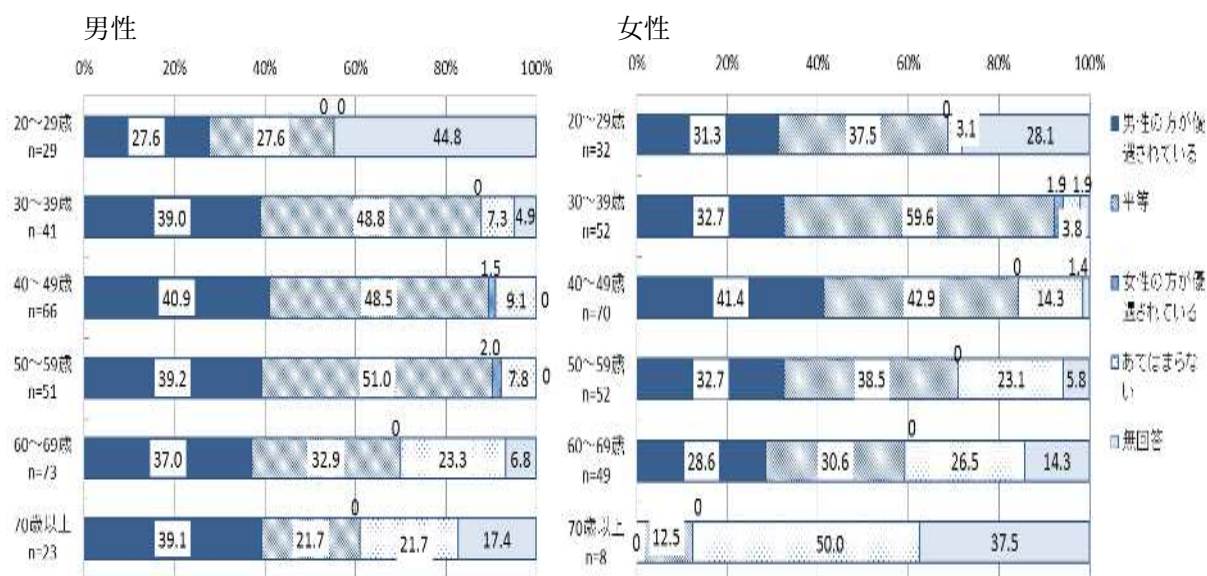
職業別



職業別にみると、「平等」とした割合が最も高いのは、「公務員・教員」（93.3%）です。

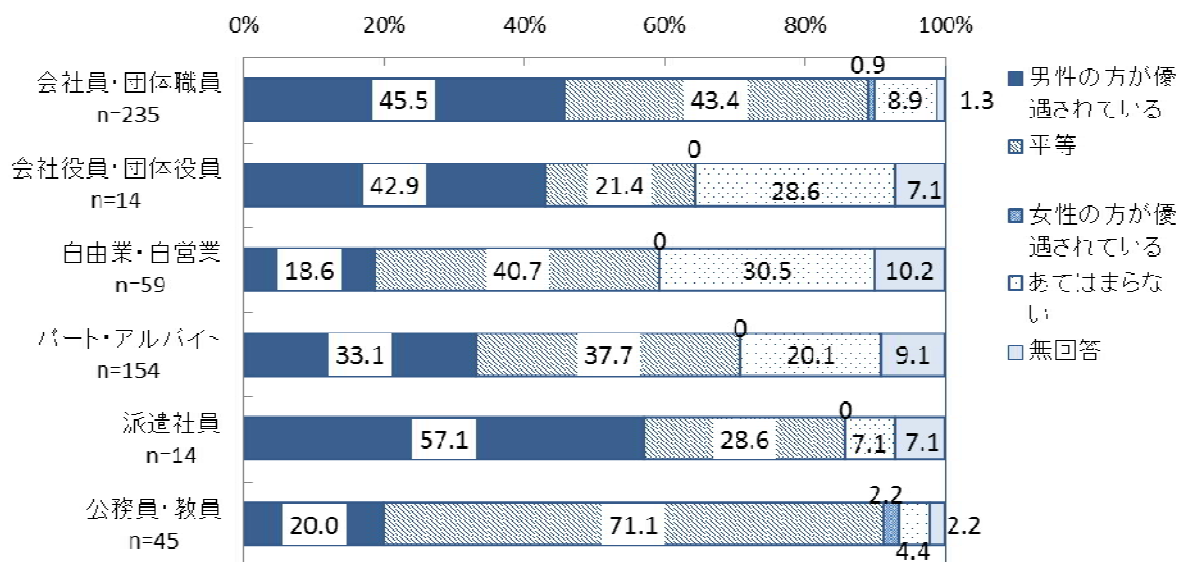
ウ 昇進や昇格

男女別・年齢別



男女年齢別にみると男性は 30 歳代から 50 歳代が「平等」としている割合が高く、50 歳代で 51.0%となっています。女性は「平等」とした割合が最も高いのは 30 歳代 (59.6%) で、「男性が優遇されている」とした割合が最も高いのは 40 歳代 (41.4%) です。

職業別

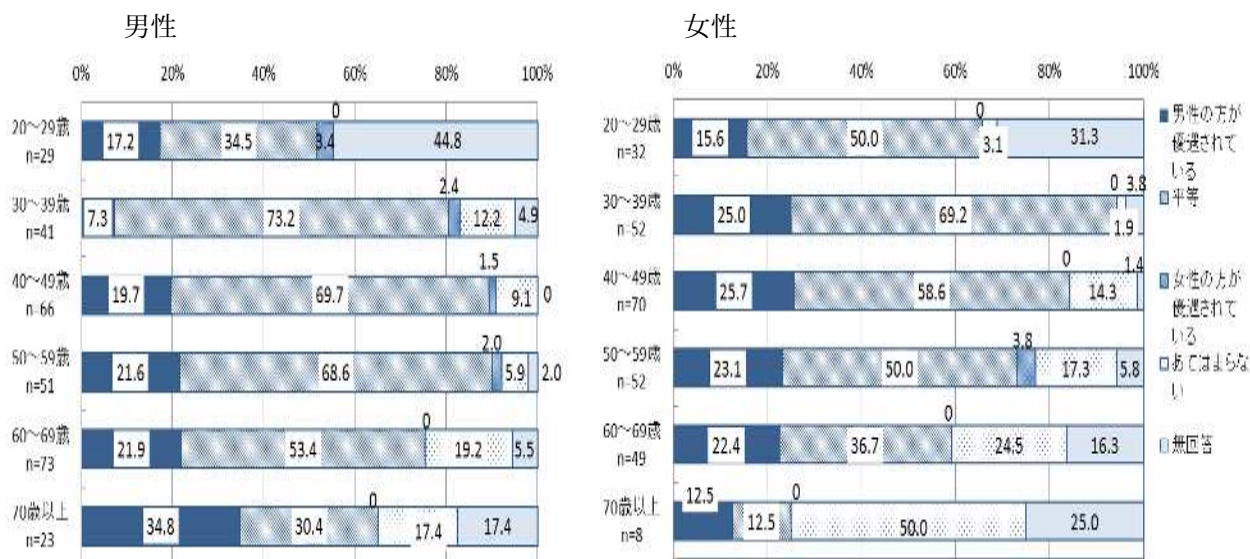


「平等」とした割合が最も高いのは、「公務員・教員」です。「男性の方が優遇されている」とした割合が最も高いのは「派遣社員」(57.1%) となっています。

Ⅲ－３ 地域活動と就業

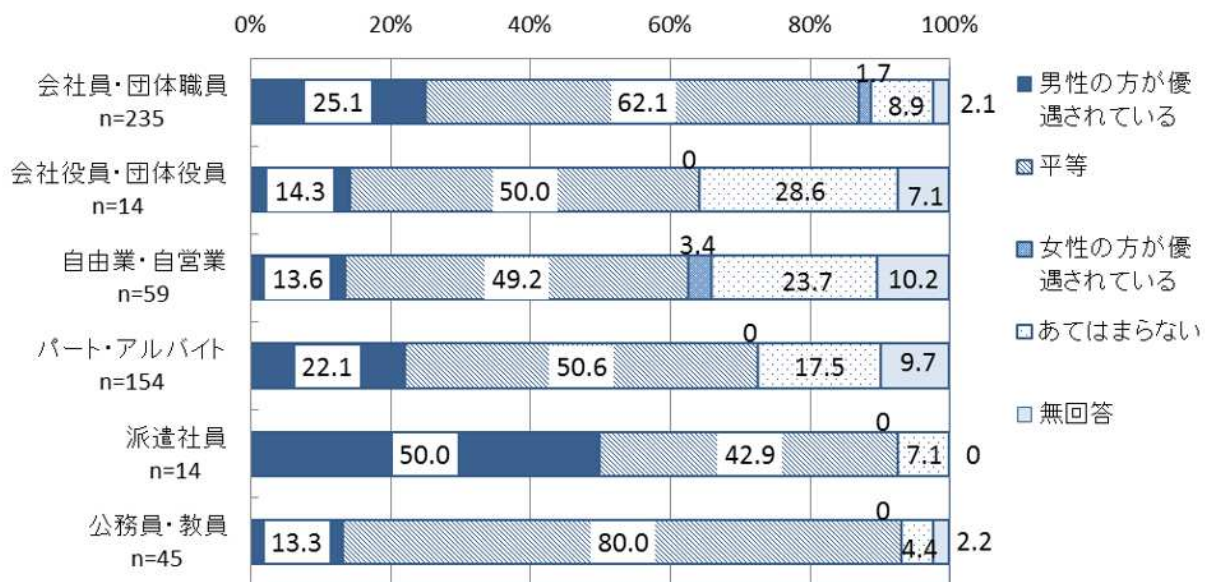
エ 能力評価

男女別・年齢別



男女年齢別にみると、男性は、30 歳代から 60 歳代までで「平等」とした割合が高く、5 割を超えています。女性は、20 歳代から 50 歳代以上で「平等」とした割合が高く、5 割を超えています。「平等」とした割合が最も高いのは、男女共に 30 歳代（男性 69.7%・女性 69.2%）である。

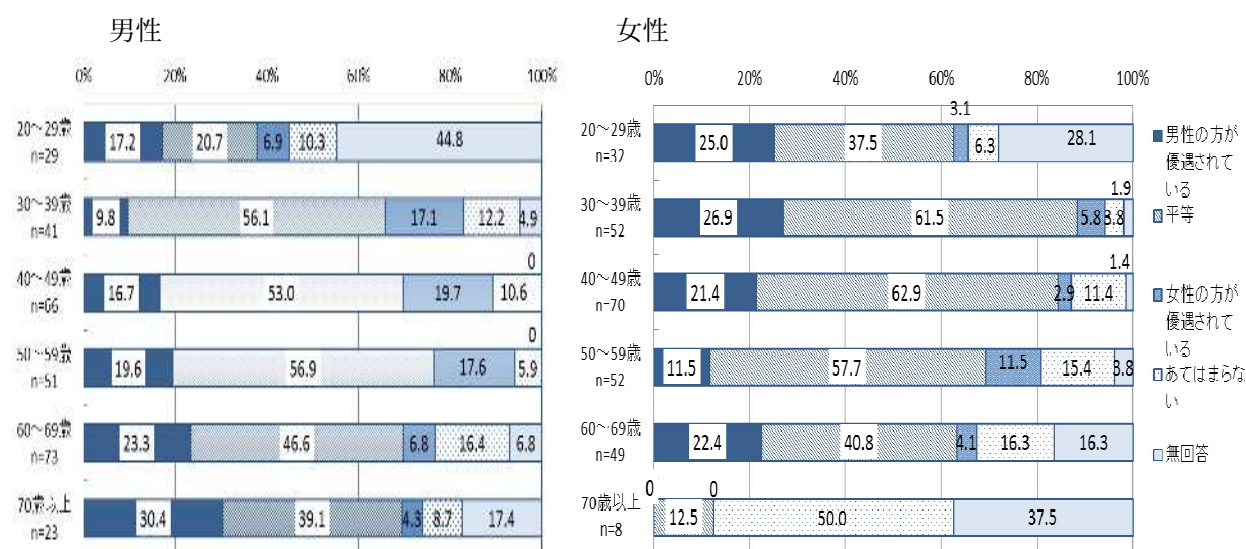
職業別



職業別にみると、「自由業・自営業」と「派遣社員」を除き、「平等」とした割合が 5 割を超えています。「平等」とした割合が最も高いのは「公務員・教員」（80.0%）となっています。

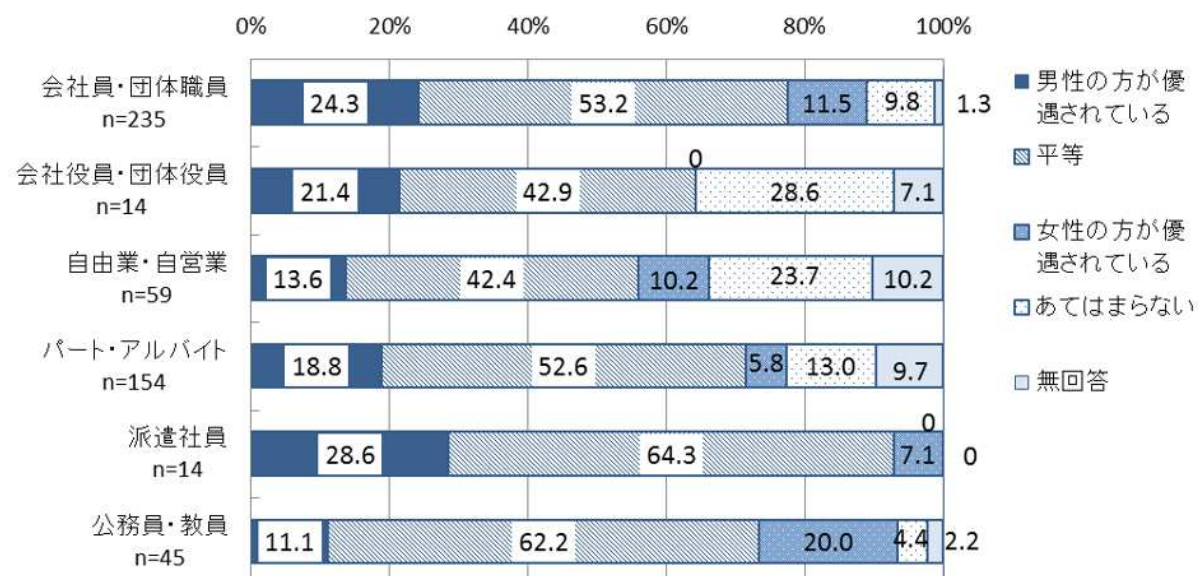
オ 仕事の内容

男女別・年齢別



男女年齢別にみると、男性は、30 歳代から 50 歳代で「平等」とした割合が半数を超えています。女性は、30 歳代から 50 歳代で「平等」とした割合が 5 割を超えています。「平等」とした割合が最も高いのは、男性は 40 歳代（56.9%）、女性は 40 歳代（62.9%）となっています。

職業別

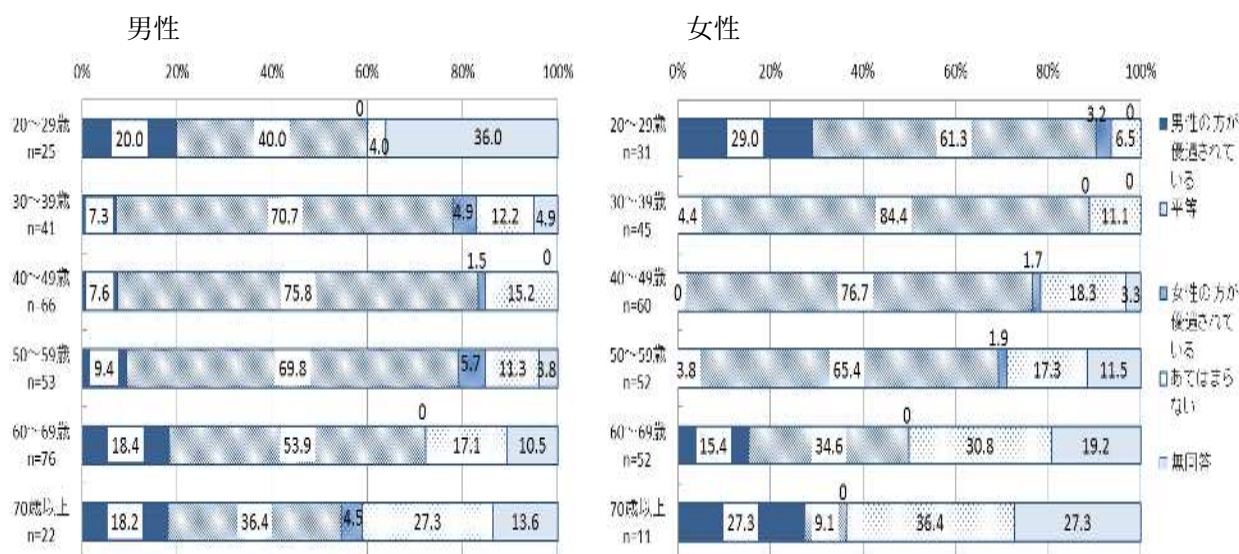


職業別にみると、「平等」とした割合が最も高いのは「派遣社員」（64.3%）であり、次いで「公務員・教員」（62.2%）、「会社員・団体職員」（53.2%）とした割合となっているほか、全ての職業で「平等」とした割合が高くなっています。

Ⅲ－３ 地域活動と就業

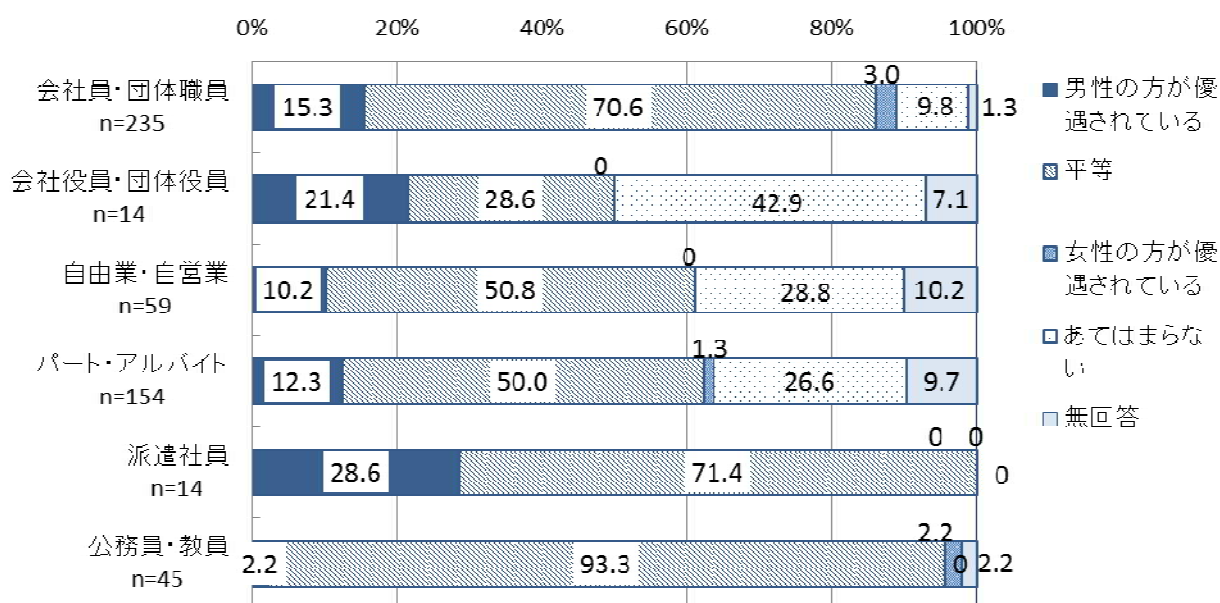
カ 研修の機会や内容

男女別・年齢別



男女年齢別にみると、男性は30歳代から50歳代まで「平等」とした割合が高く7割を超えています。女性も20歳代から50歳代まで「平等」とした割合が5割を超えています。20歳代から40歳代は、男性より女性の方が「平等」とした割合が高くなっています。「平等」とした割合が最も高いのは、男性40歳代（75.8%）女性30歳代（84.4%）です。

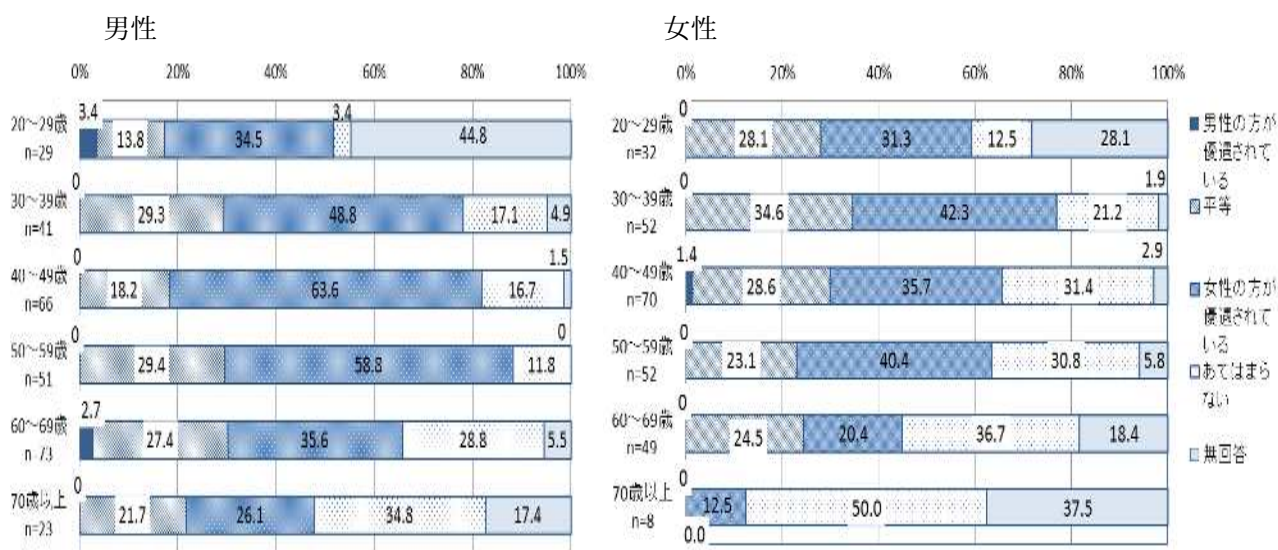
職業別



職業別にみると、「平等」とした割合が半数を超えているのは、「会社員・団体職員」、「自由業・自営業」、「パート・アルバイト」、「派遣社員」、「公務員・教員」であり、特に「公務員・教員」（93.3%）の割合が最も高くなっています。

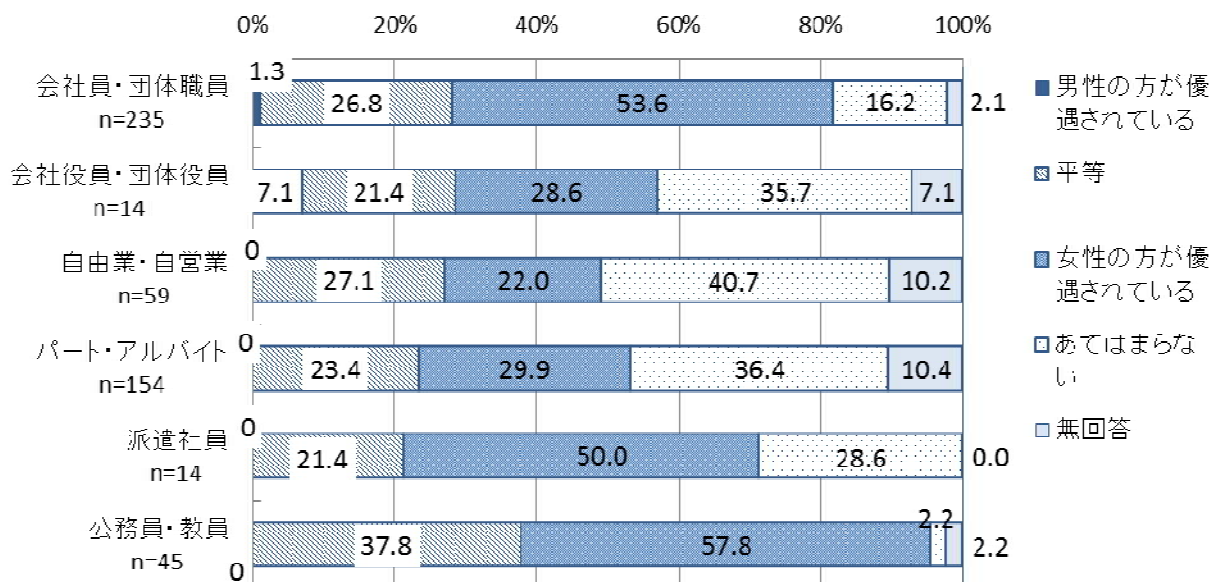
キ 育児休業、介護休業の取得のしやすさ

男女別・年齢別



男女年齢別にみると、男女共にすべての年齢層で「平等」としている割合は 5 割に達していません。また、女性の 60 歳代以外の男女すべての年代で「女性の方が優遇されている」が「平等」を上回っています。特に男性の 40 歳代と 50 歳代は「女性の方が優遇されている」が 5 割を超えています。

職業別



職業別にみると、「平等」とした割合が 5 割を超えているものはありません。「平等」とした割合が最も高いのは、「公務員・教員」（37.8％）です。

「女性の方が優遇されている」とした割合は、「会社員・団体職員」、「公務員・教員」、「派遣社員」が 5 割を超えています。

Ⅲ－３ 地域活動と就業

３－４ 将来働きたいと思うかについて

問９ 【問９は、現在働いていない方への質問】 将来働きたいと思いますか。
(回答は１つ)

(人：％)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 すぐにでも働きたい	47	12.3	24	16.9	23	9.6
2 将来は働きたい	44	11.5	14	9.9	30	12.5

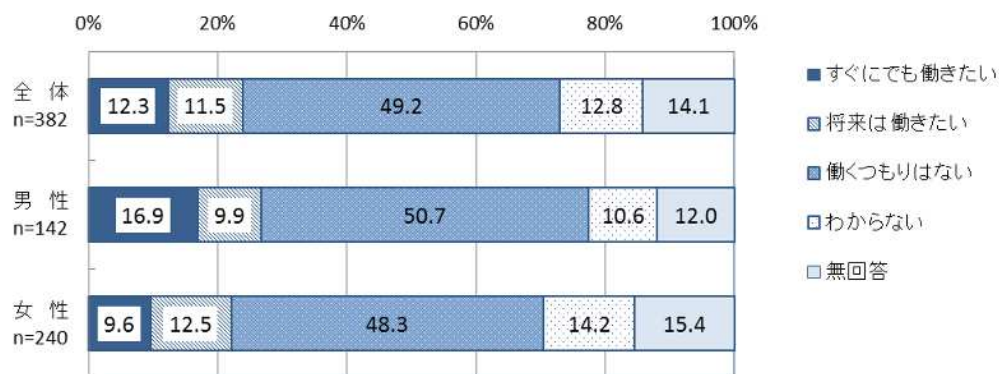
⇒ 問９－１へ

3 働くつもりはない	188	49.2	72	50.7	116	48.3
4 わからない	49	12.8	15	10.6	34	14.2

⇒ 問１０へ

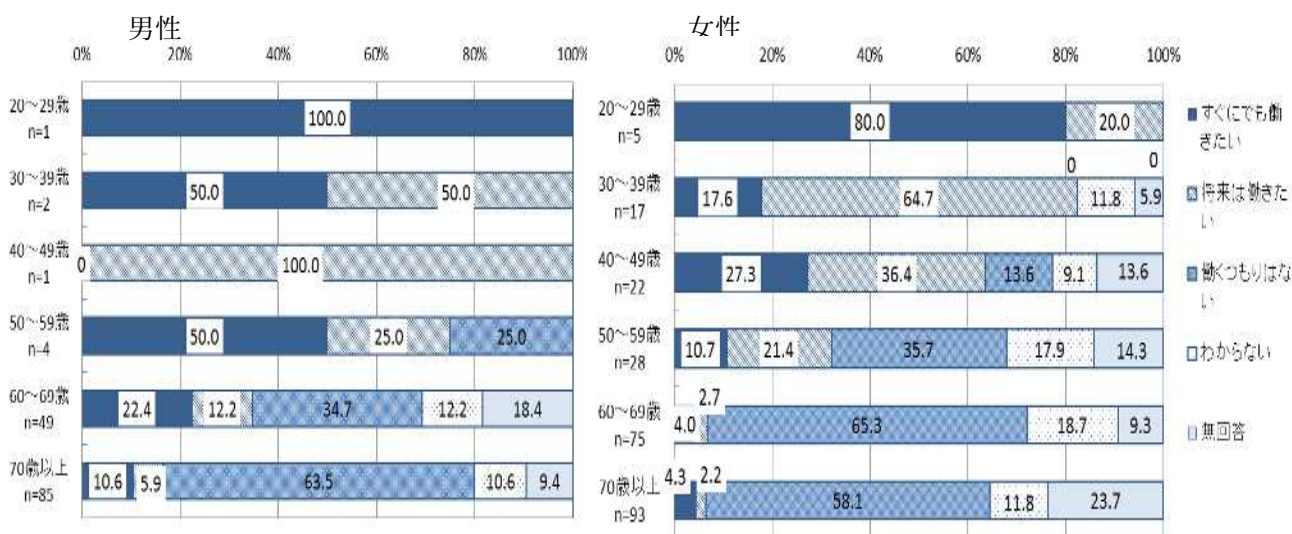
無回答	54	14.1	17	12.0	37	15.4
合 計	382	100	142	100	240	100

全体・男女別



全体をみると「働くつもりはない」(49.2%)が大きな割合を占めています。男女で比較すると「すぐにでも働きたい」は男性が女性を上回っています。

男女別・年齢別



男女年齢別でみると、男性女性ともに 40 歳代および働きたい割合が多くを占めています。ただし、男性は 40 歳代から 60 歳代で、女性は 30 歳代から 50 歳代で「将来は働きたい」が「すぐにでも働きたい」を大きく上回っています。

３－４－１ 将来働きたい時、気がかりなことについて

問９－１ 【問９で「１ すぐにでも働きたい」、「２ 将来は働きたい」と回答した方への質問】 働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか。（回答は３つ以内）

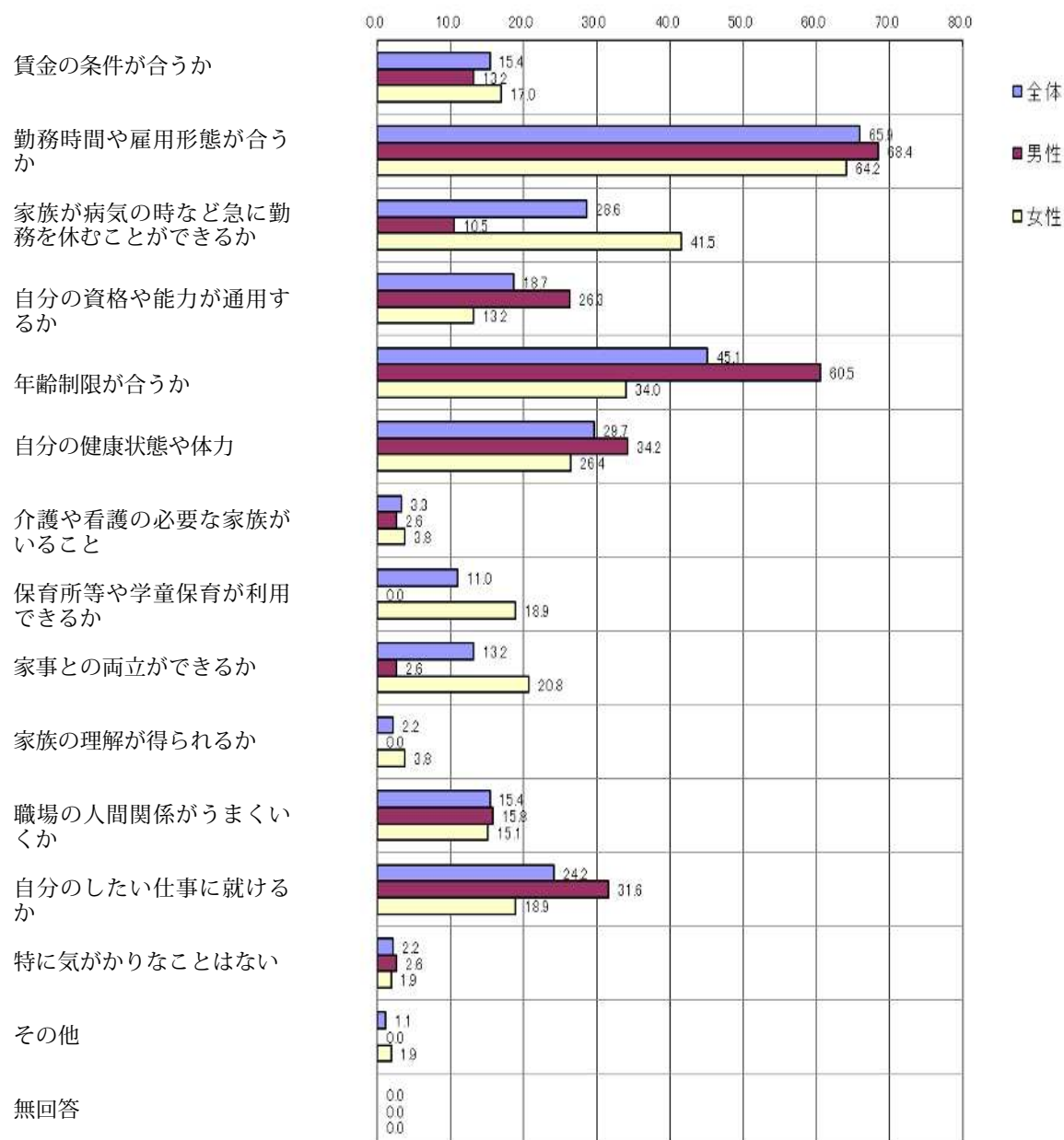
(人：％)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
１ 賃金の条件が合うか	14	15.4	5	13.2	9	17.0
２ 勤務時間や雇用形態が合うか	60	65.9	26	68.4	34	64.2
３ 家族が病気の時など急に勤務を休むことができるか	26	28.6	4	10.5	22	41.5
４ 自分の資格や能力が通用するか	17	18.7	10	26.3	7	13.2
５ 年齢制限が合うか	41	45.1	23	60.5	18	34.0
６ 自分の健康状態や体力	27	29.7	13	34.2	14	26.4
７ 介護や看護の必要な家族がいること	3	3.3	1	2.6	2	3.8
８ 保育所（園）や学童保育が利用できるか	10	11.0	0	0.0	10	18.9
９ 家事との両立ができるか	12	13.2	1	2.6	11	20.8
１０ 家族の理解が得られるか	2	2.2	0	0.0	2	3.8
１１ 職場の人間関係がうまくいくか	14	15.4	6	15.8	8	15.1
１２ 自分のしたい仕事に就けるか	22	24.2	12	31.6	10	18.9
１３ 特に気がかりなことはない	2	2.2	1	2.6	1	1.9
１４ その他	1	1.1	0	0.0	1	1.9
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0

(全体N＝91 男性n＝38 女性n＝53)

Ⅲ－３ 地域活動と就業

全体

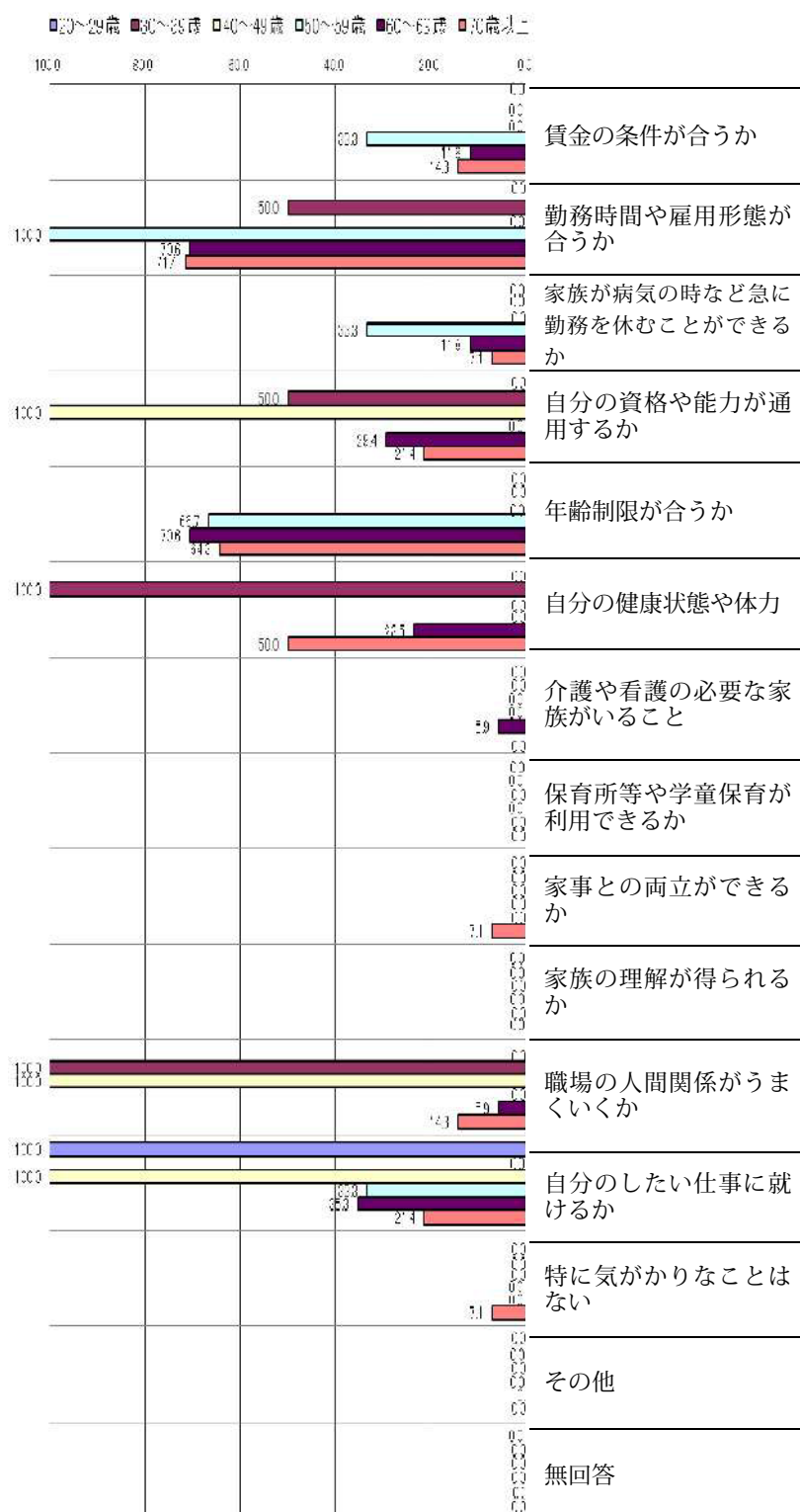


全体をみると、最も多いのは「勤務時間や雇用形態が合うか」(65.9%)となっています。次いで「年齢制限が合うか」(45.1%)、「自分の健康状態や体力」(29.7%)となっています。

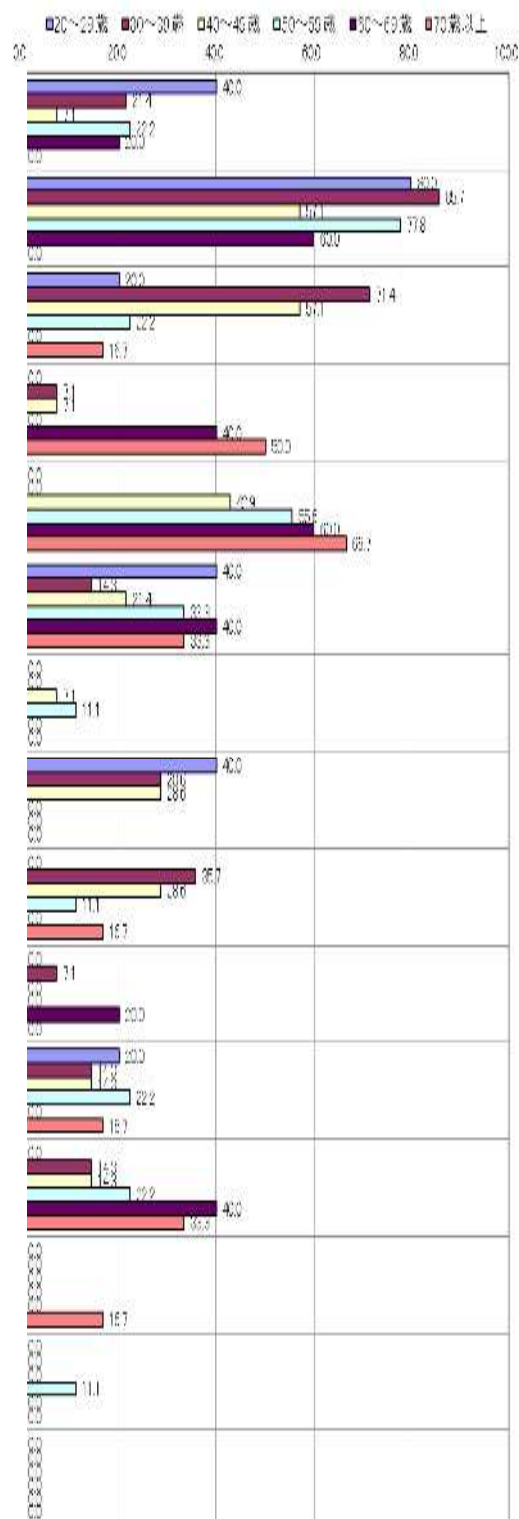
男女の比較では、「家族が病気の時など急に勤務を休むことができるか」、「保育所等や学童保育が利用できるか」、「家事との両立ができるか」の割合が男性に比べ女性の方が多くなっています。

男女別・年齢別

男性



女性



全般的には、男女とも年齢に関わらず、「勤務時間や雇用形態が合うか」が多く、年齢層が上がるにつれて、「年齢制限が合うか」の割合が大きくなっています。

男性では、20 歳代から 40 歳代で、「職場の人間関係がうまくいくか」の割合が多くなっています。女性では、20 歳代から 40 歳代の子育て世代で「保育所等や学童保育が利用できるか」、「家事との両立ができるか」の割合が多くなっています。

Ⅲ－３ 地域活動と就業

３－５ 育児・介護休業等の制度の活用について

問１０ 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。男性が、この制度を活用することについてどう思いますか。（回答は１つ）（人：％）

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
１ 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである	236	25.1	116	27.2	116	23.0
２ 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う	610	65.0	261	61.3	345	68.5

⇒ 問１０－１へ

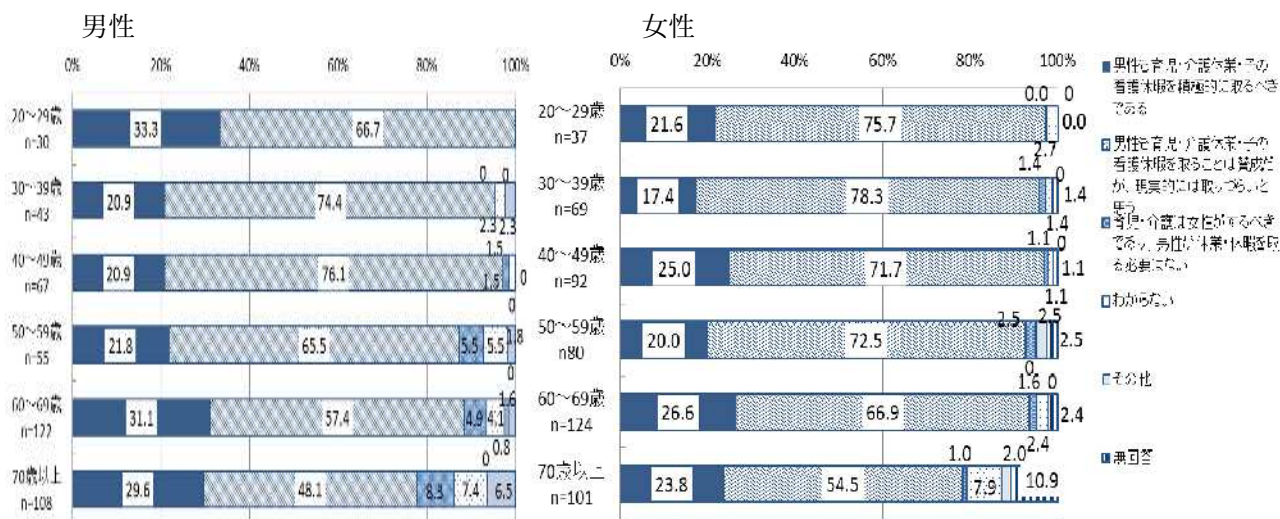
３ 育児・介護は女性がするべきであり、男性が休業・休暇を取る必要はない	26	2.8	19	4.5	7	1.4
４ わからない	32	3.4	18	4.2	14	2.8
５ その他	5	0.5	1	0.2	4	0.8
無回答	30	3.2	11	2.6	18	3.6
合 計	939	100	426	100	504	100

全体



全体をみると「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」（25.1%）、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」（65.0%）とする肯定派が多数を占めています。肯定派の中では、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」（65.0%）が多数を占めています。

男女別・年齢別



男女・年齢別にみると、男女共にすべての年代で、「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」と「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが現実的には取りづらいと思う」を合わせた割合が半数を超えています。男性は「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが現実的には取りづらいと思う」とした割合が高くなっています。女性は「男性も育児・介護休業・子の看護休暇を積極的に取るべきである」とした割合が最も多いのは60歳代（26.6%）となっています。

3－5－1 育児・介護休業等を取得しづらい理由について

問10－1 【問10で「2 男性も育児・介護休業・子の看護休暇を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と回答した方への質問】

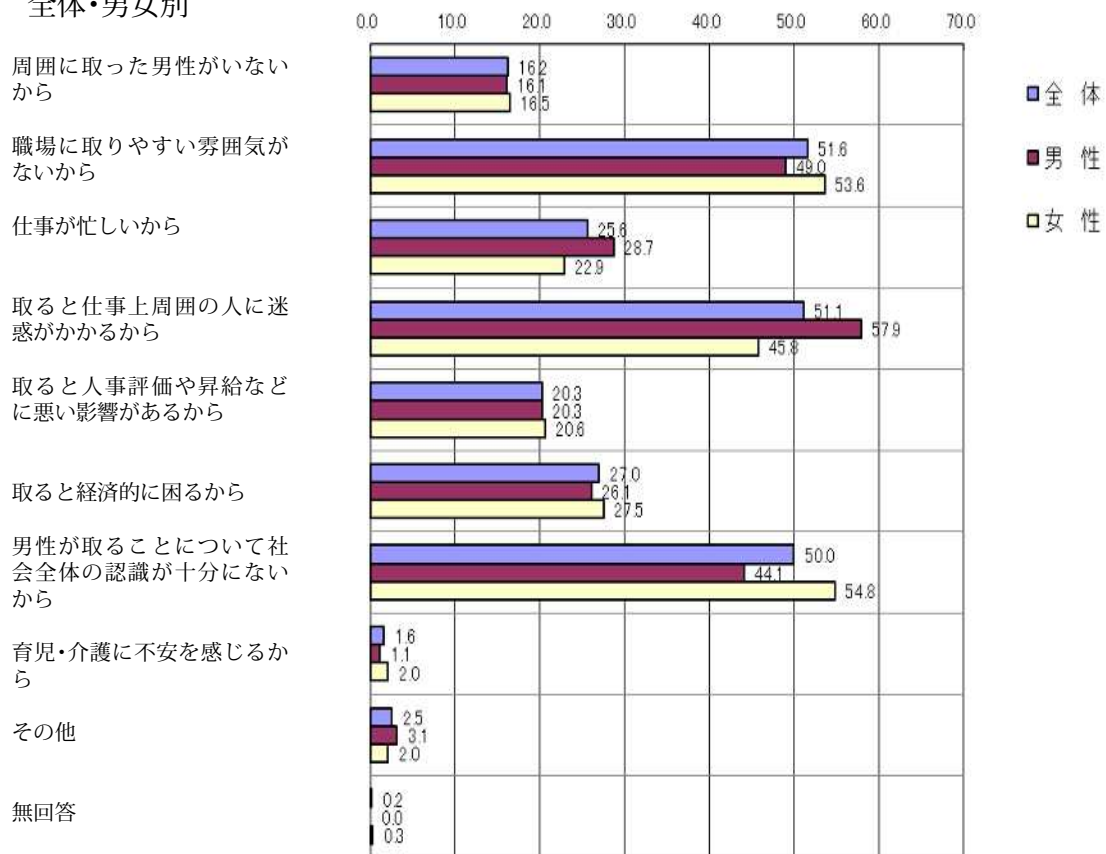
その理由は何だと思いますか。（回答は、3つ以内）（人：％）

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 周囲に取った男性がいないから	99	16.2	42	16.1	57	16.5
2 職場に取りやすい雰囲気がないから	315	51.6	128	49.0	185	53.6
3 仕事が忙しいから	156	25.6	75	28.7	79	22.9
4 取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから	312	51.1	151	57.9	158	45.8
5 取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから	124	20.3	53	20.3	71	20.6
6 取ると経済的に困るから	165	27.0	68	26.1	95	27.5
7 男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから	305	50.0	115	44.1	189	54.8
8 育児・介護に不安を感じるから	10	1.6	3	1.1	7	2.0
9 その他	15	2.5	8	3.1	7	2.0
無回答	1	0.2	0	0.0	1	0.3

（全体N＝610 男性n＝261 女性n＝345）

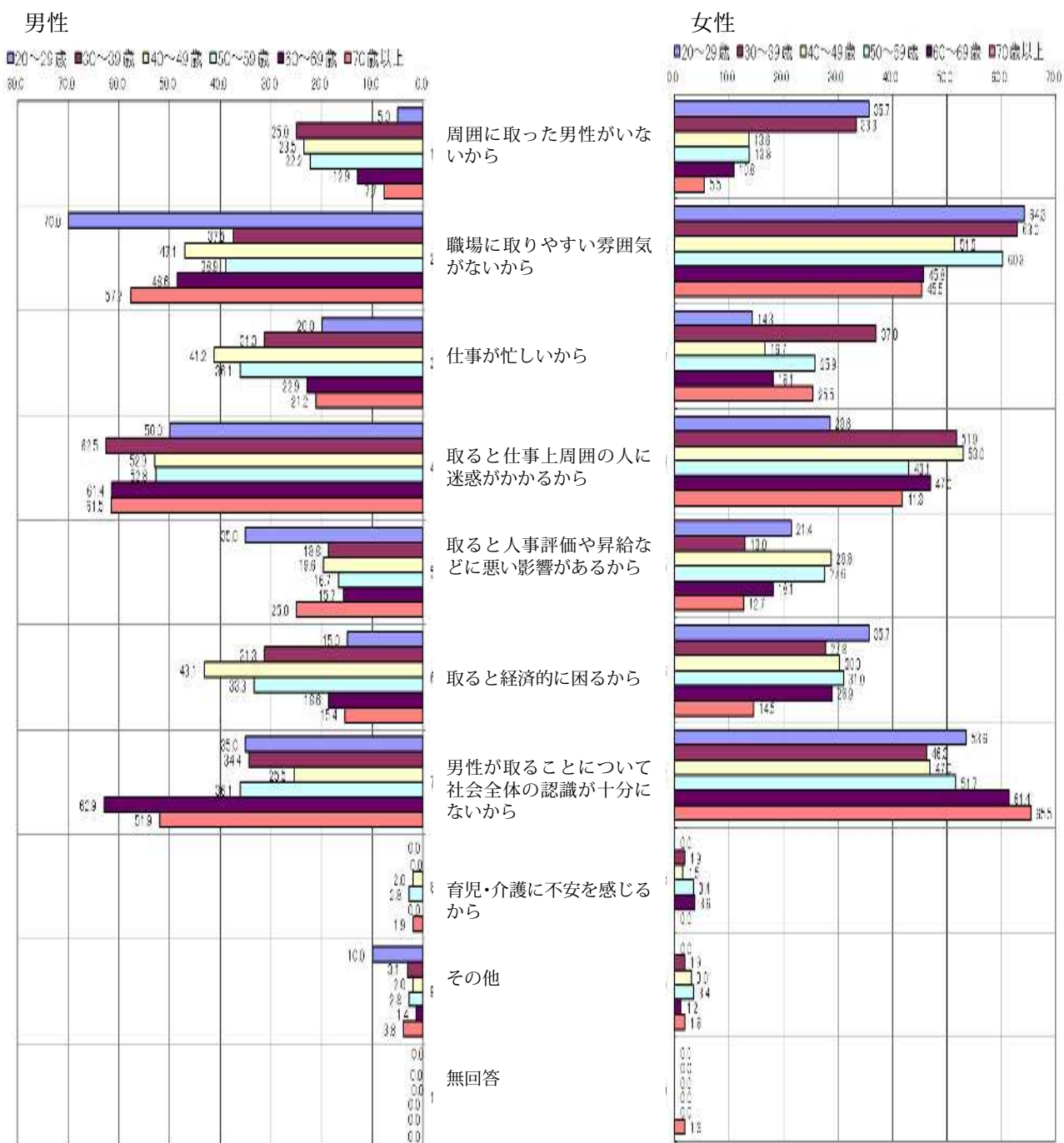
Ⅲ－３ 地域活動と就業

全体・男女別



全体をみると最も大きな割合を占めるのは、【職場に取りやすい雰囲気がないから】（33.5％）であり、次いで「取ると仕事上周围の人に迷惑がかかるから」（33.2％）、「男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから」（32.5％）の順となっています。

男女別・年齢別



男女・年齢別でみると、男女共に高年齢層ほど「男性が取ることについて社会全体の認識が十分でないから」としている割合が高くなっています。男性では、他の年代に比べ 40 歳代、50 歳代で「取ると経済的に困るから」としている割合が高くなっています。

Ⅲ－３ 地域活動と就業

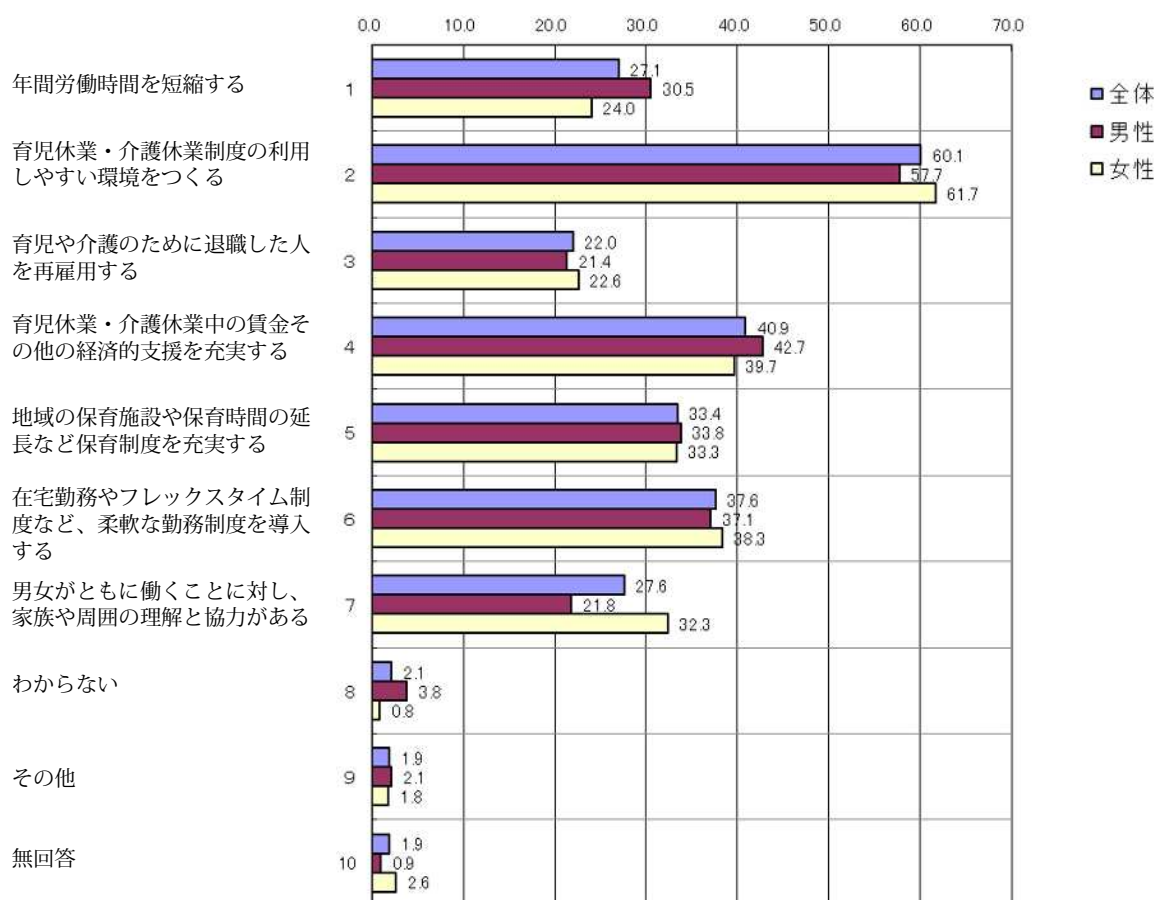
３－６ 仕事と家庭を両立するために必要な条件について

問１１ 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。（回答は３つ以内） (人：％)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
１ 労働時間を短縮する	254	27.1	130	30.5	121	24.0
２ 育児休業・介護休業制度の利用しやすい環境をつくる	564	60.1	246	57.7	311	61.7
３ 育児や介護のために退職した人を再雇用する	207	22.0	91	21.4	114	22.6
４ 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する	384	40.9	182	42.7	200	39.7
５ 地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する	314	33.4	144	33.8	168	33.3
６ 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	353	37.6	158	37.1	193	38.3
７ 男女がともに働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある	259	27.6	93	21.8	163	32.3
８ わからない	20	2.1	16	3.8	4	0.8
９ その他	18	1.9	9	2.1	9	1.8
無回答	18	1.9	4	0.9	13	2.6

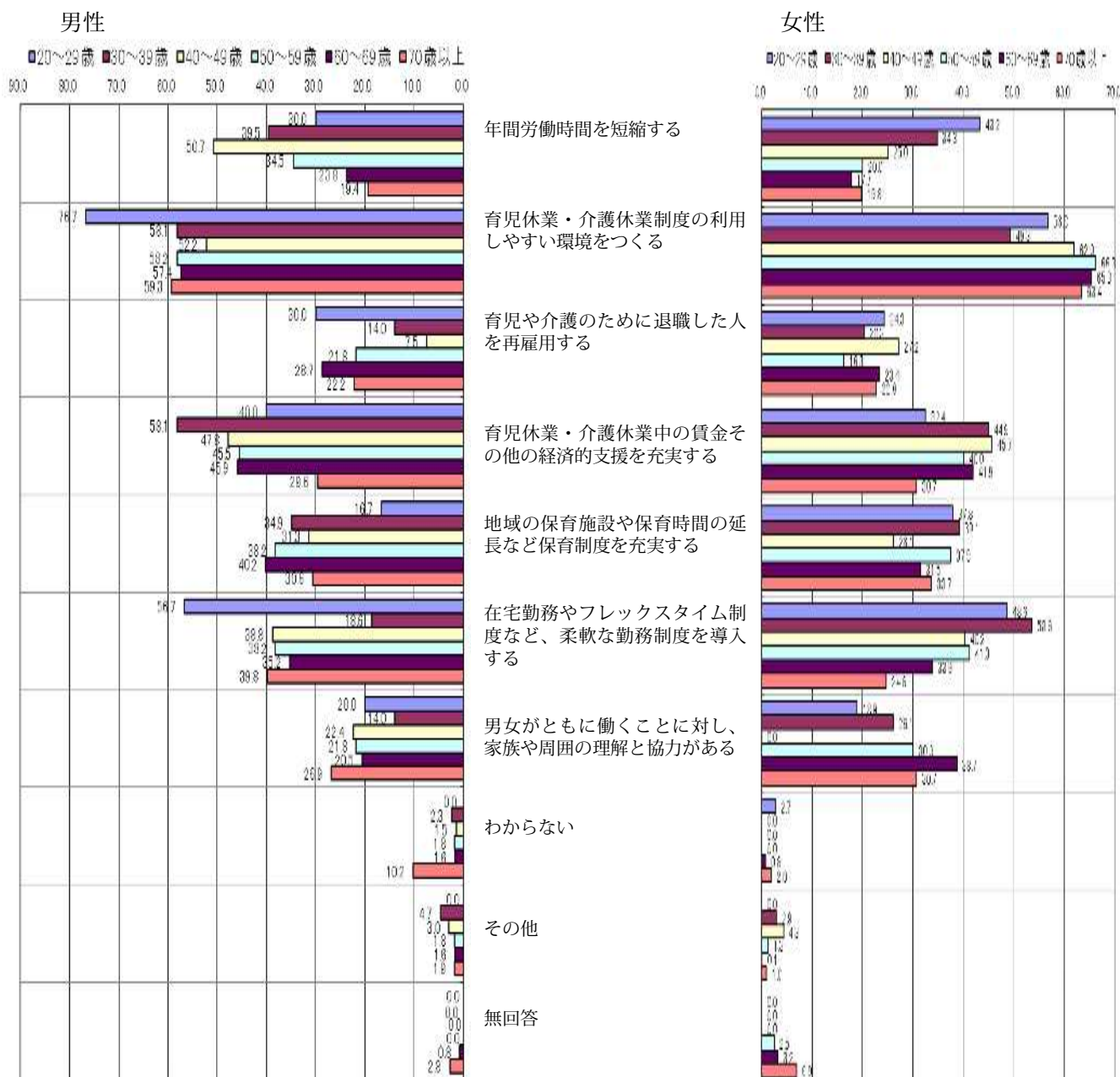
(全体 N = 939 男性 n = 426 女性 n = 504)

全体・男女別



全体をみると、最も大きな割合を占めるのは、「育児休業・介護休業制度の利用しやすい環境をつくる」(60.1%)であり、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」(40.9%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」(37.6%)の順となっています。

男女別・年齢別



男女・年齢別にみると男性では、他の年代との差が多きいものとして、30 歳代で「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」の割合が多く、また 20 歳代で「育児休業や介護休業制度の利用し易い環境をつくる」、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」とする割合が高くなっています。女性では、他の年代との差が多きいものとして、20 歳代で、「年間労働時間を短縮する」の割合が高くなっています。

Ⅲ－４ 社会参画

４ 社会参画について

４-１ 政策方針を決定する役職に女性が就くことについて

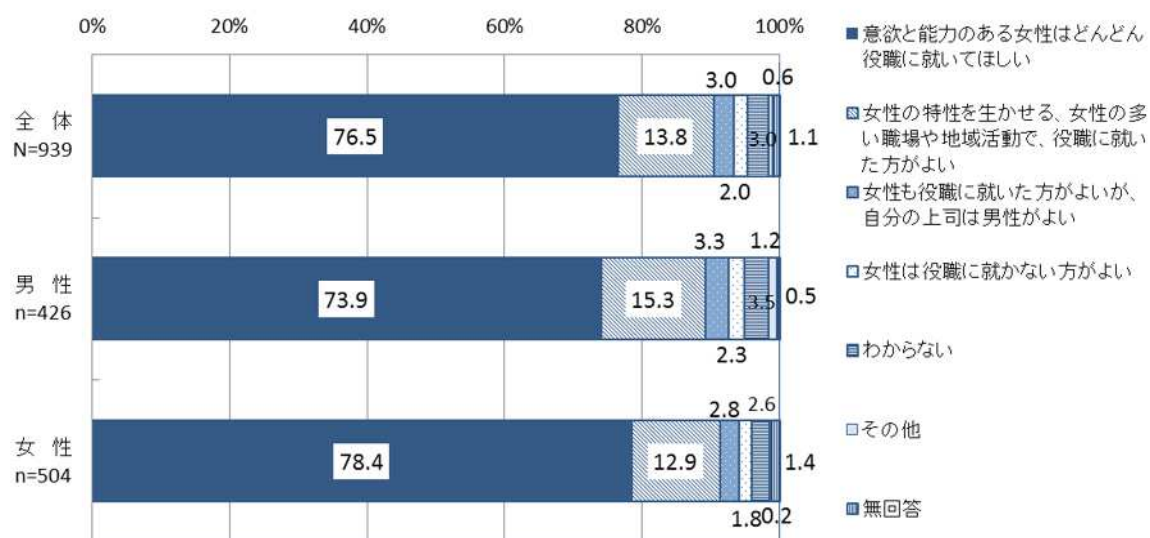
問１２ 行政や企業の管理職、審議会委員、自治会長など政策・方針を決定する役職に女性が就くことについて、どのように思いますか。(回答は１つ)

(人：％)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
１ 意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい	718	76.5	315	73.9	395	78.4
２ 女性の特性を生かせる、女性の多い職場や地域活動で、役職に就いた方がよい	130	13.8	65	15.3	65	12.9
３ 女性も役職に就いた方がよいが、自分の上司は男性がよい	28	3.0	14	3.3	14	2.8
４ 女性は役職に就かない方がよい	19	2.0	10	2.3	9	1.8
５ わからない	28	3.0	15	3.5	13	2.6
６ その他	6	0.6	5	1.2	1	0.2
無回答	10	1.1	2	0.5	7	1.4
合 計	939	100	426	100	504	100.1

(全体 N = 939 男性 n = 426 女性 n = 504)

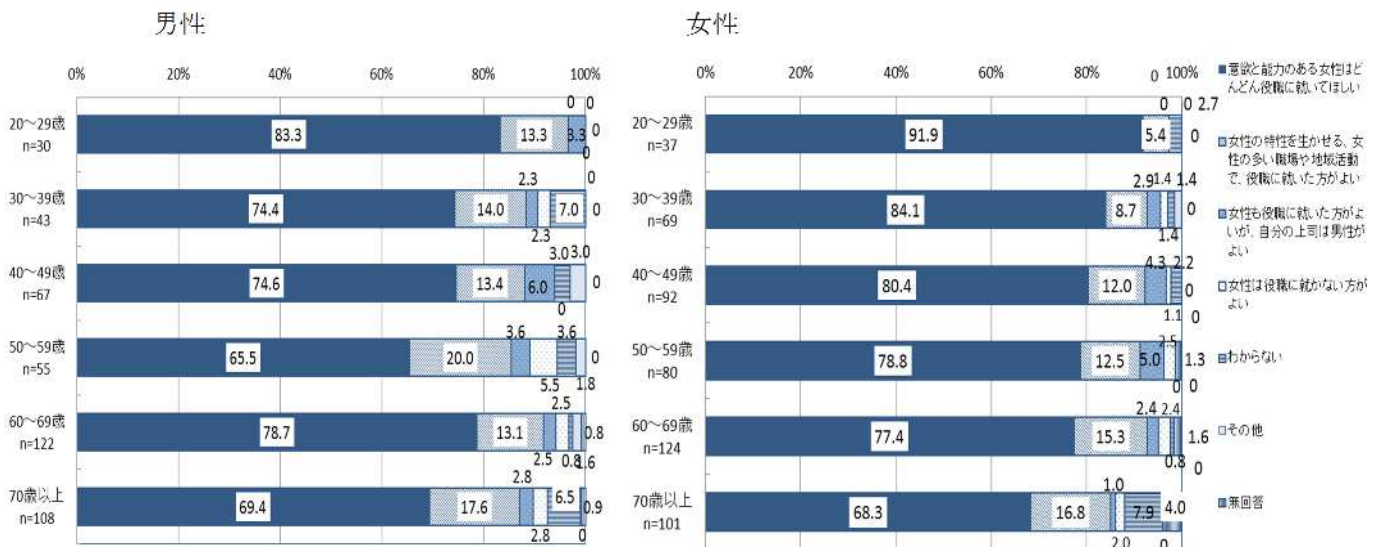
全体・男女別



全体をみると、最も大きな割合を占めるのは「意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい」(76.5%)次いで「女性の特性を生かせる、女性の多い職場や地域活動で、役職に就いた方がよい」(13.8%)の順となっています。これらで8割以上を占めていることから、女性の社会参画について肯定的であることがうかがえます。

男女別で見ると、男性よりも女性の方が、「意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい」とした割合が高く、女性より男性の方が、「女性の特性を生かせる、女性の多い職場や地域活動で、役職に就いた方がよい」とした割合が高くなっています。

男女別・年齢別



男女・年齢別にみると、「意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい」としている割合は、男女ともにすべての年代で半数を超えているものの、女性は、年代が高くなるほどその割合が低くなっています。30 歳代から 50 歳代までを頂点としてその前後が下がっている傾向にあります。男性は、50 歳代で「意欲と能力のある女性はどんどん役職に就いてほしい」としている割合が低く、反比例して「女性の特性を生かせる、女性の多い職場や地域活動で、役職に就いた方がよい」とした割合が高くなっています。

4-2 政策方針を決定する場に女性が占める割合について

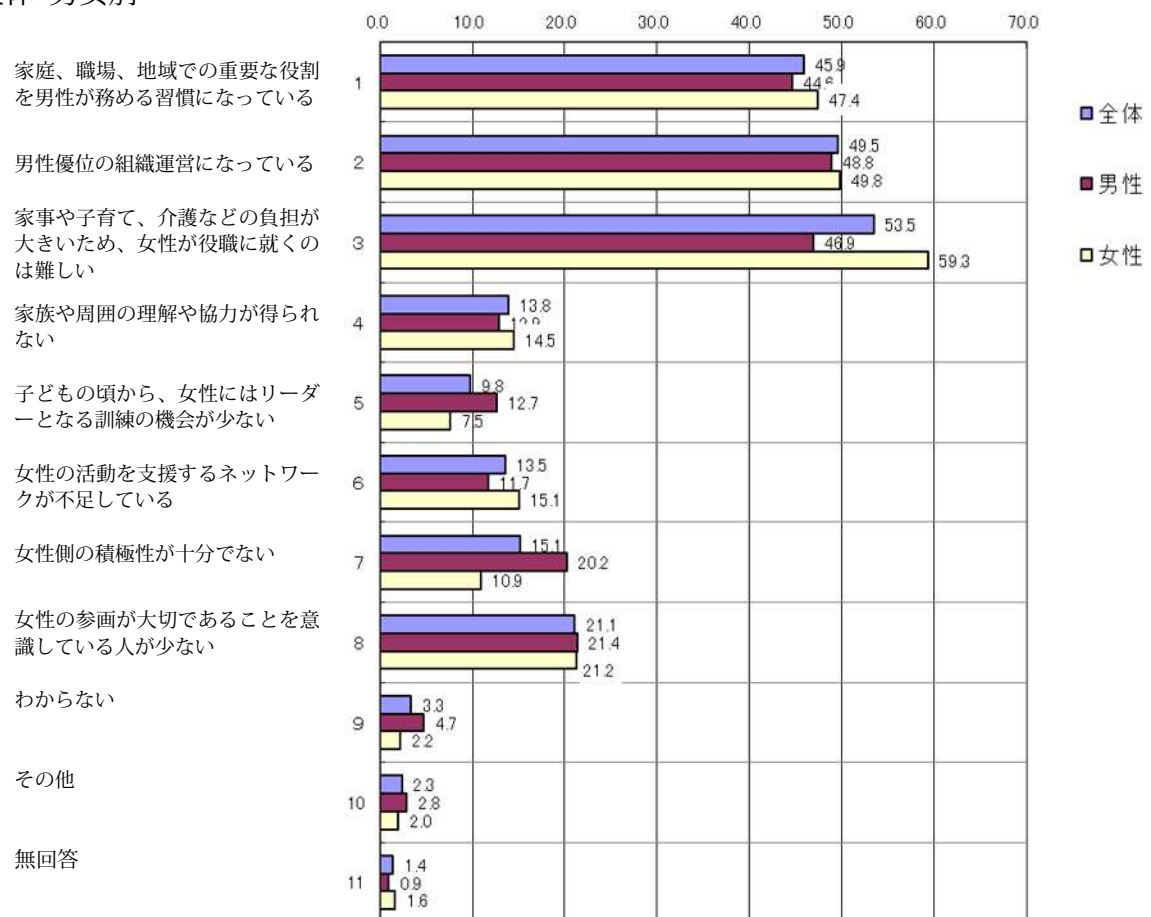
問 13 政策・方針を決定する場に占める女性の割合は依然として低くなっています。その理由は何だと思いますか。(回答は3つ以内) (人：%)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 家庭、職場、地域での重要な役割を男性が務める習慣になっている	431	45.9	190	44.6	239	47.4
2 男性優位の組織運営になっている	465	49.5	208	48.8	251	49.8
3 家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい	502	53.5	200	46.9	299	59.3
4 家族や周囲の理解や協力が得られない	130	13.8	55	12.9	73	14.5
5 子どもの頃から、女性にはリーダーとなる訓練の機会が少ない	92	9.8	54	12.7	38	7.5
6 女性の活動を支援するネットワークが不足している	127	13.5	50	11.7	76	15.1
7 女性側の積極性が十分でない	142	15.1	86	20.2	55	10.9
8 女性の参画が大切であることを意識している人が少ない	198	21.1	91	21.4	107	21.2
9 わからない	31	3.3	20	4.7	11	2.2
10 その他	22	2.3	12	2.8	10	2.0
無回答	13	1.4	4	0.9	8	1.6

(全体 N = 939 男性 n = 426 女性 n = 504)

Ⅲ－４ 社会参画

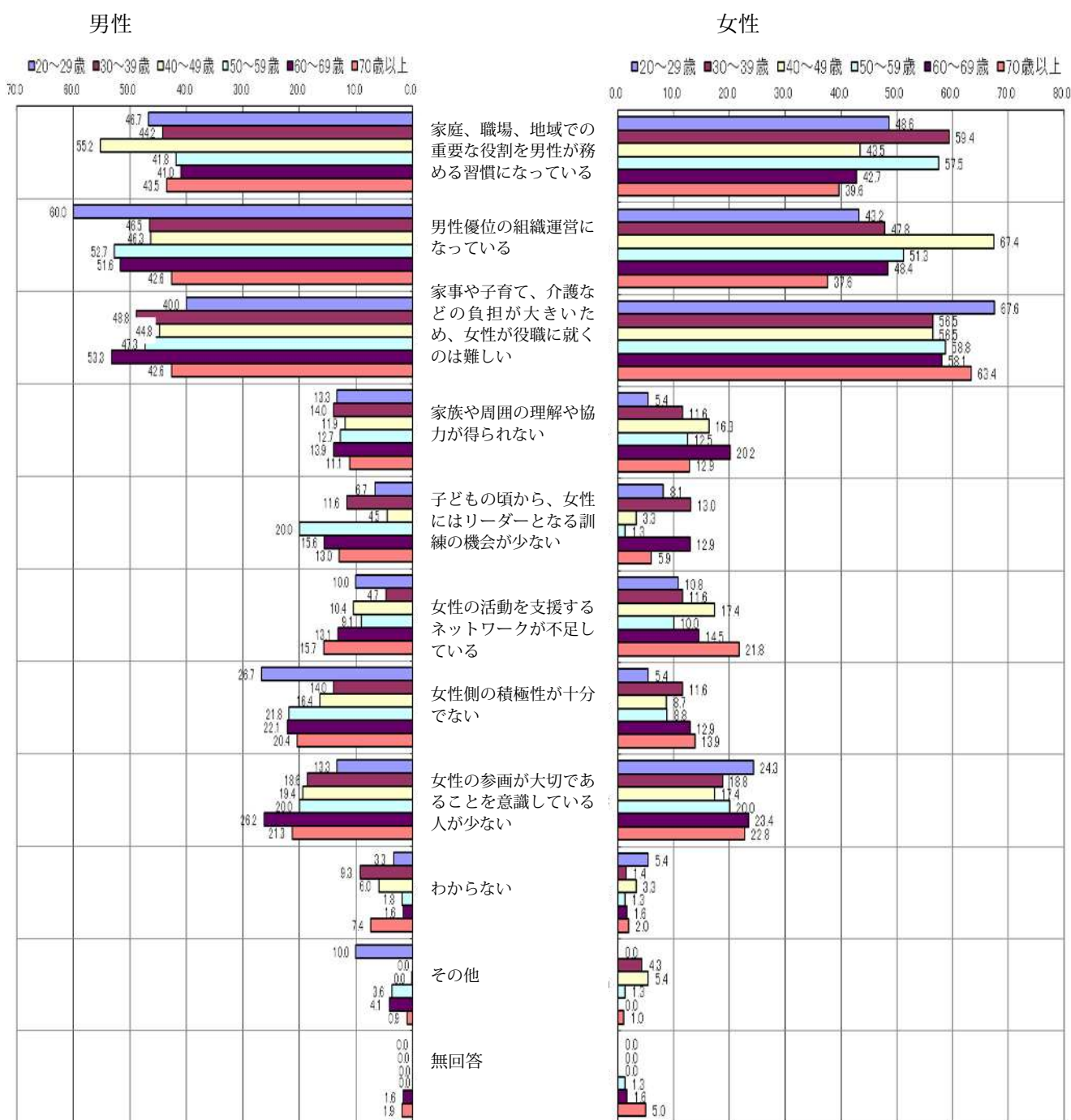
全体・男女別



政策・方針を決定する場に占める女性の割合が低い理由としては、「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい」（53.5%）とした割合が最も高く、次いで「男性優位の組織になっている」（49.5%）、「家庭、職場、地域で重要な役割を男性が務める習慣になっている」（45.9%）の順となっています。

男女別にみると、「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい」としている割合が、男性に比べて女性の方が高くなっている。他の項目による男女間の差はそれほどありません。男女ともに認識はほぼ一致していると考えます。

男女別・年齢別



男女・年齢別にみると、男性は、20 歳代では「男性優位の組織になっている」（60.0%）とした割合が最も高く、30 歳代では、「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい」（48.8%）としている割合が最も高くなっています。60 歳代では、「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい」としている割合が、高くなっています。

女性では、20 歳代では「家事や子育て、介護などの負担が大きいため、女性が役職に就くのは難しい」（67.6%）が最も高く、30 歳代、50 歳代で「家庭、職場、地域で重要な役割を男性が務める習慣になっている」とした割合が高く、40 歳代で「男性優位の組織運営になっている」の割合が最も高くなっています。

Ⅲ－４ 社会参画

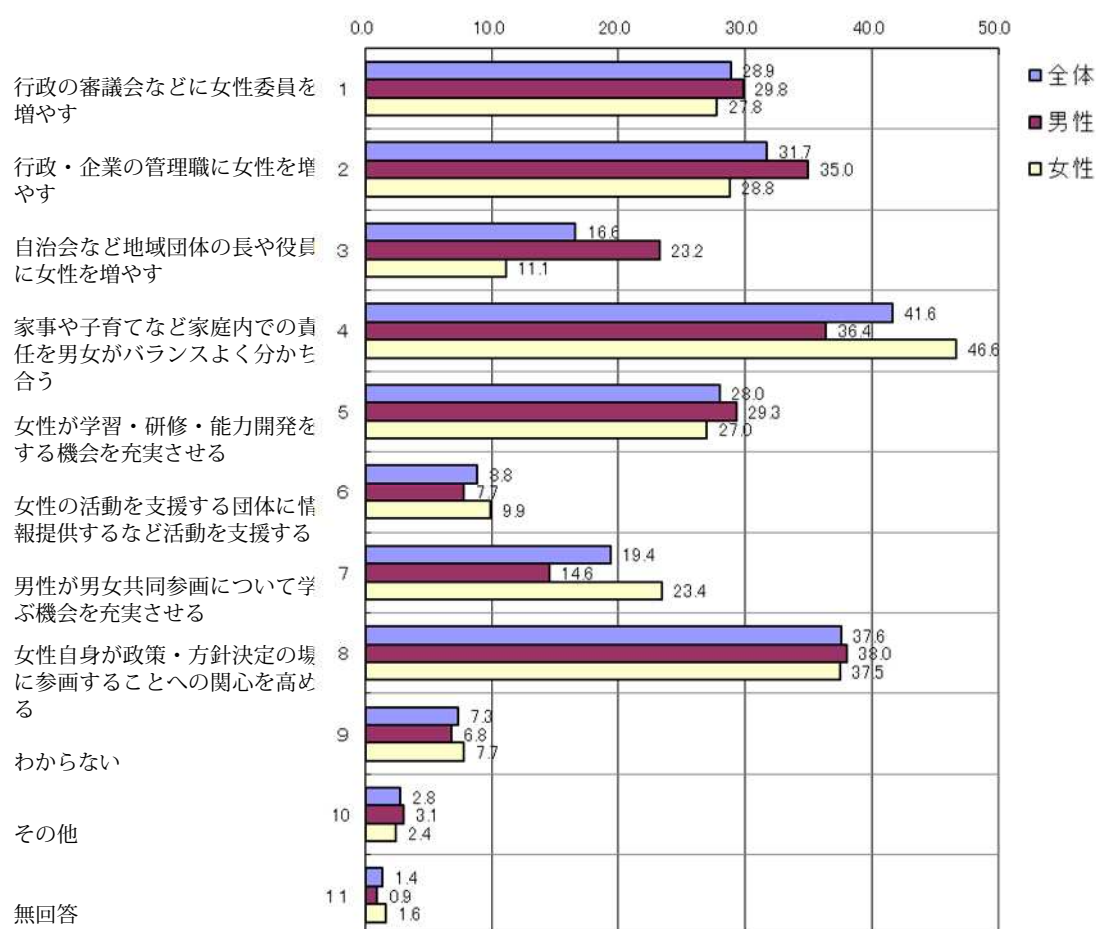
4-3 女性が政策方針を決定する場に進出するために必要なことについて

問 1 4 女性が政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は3つ以内）（人：％）

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 行政の審議会などに女性委員を増やす	271	28.9	127	29.8	140	27.8
2 行政・企業の管理職に女性を増やす	298	31.7	149	35.0	145	28.8
3 自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす	156	16.6	99	23.2	56	11.1
4 家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う	391	41.6	155	36.4	235	46.6
5 女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる	263	28.0	125	29.3	136	27.0
6 女性の活動を支援する団体に情報提供するなど活動を支援する	83	8.8	33	7.7	50	9.9
7 男性が男女共同参画について学ぶ機会を充実させる	182	19.4	62	14.6	118	23.4
8 女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める	353	37.6	162	38.0	189	37.5
9 わからない	69	7.3	29	6.8	39	7.7
10 その他	26	2.8	13	3.1	12	2.4
無回答	13	1.4	4	0.9	8	1.6

（全体N＝939 男性n＝426 女性n＝504）

全体・男女別

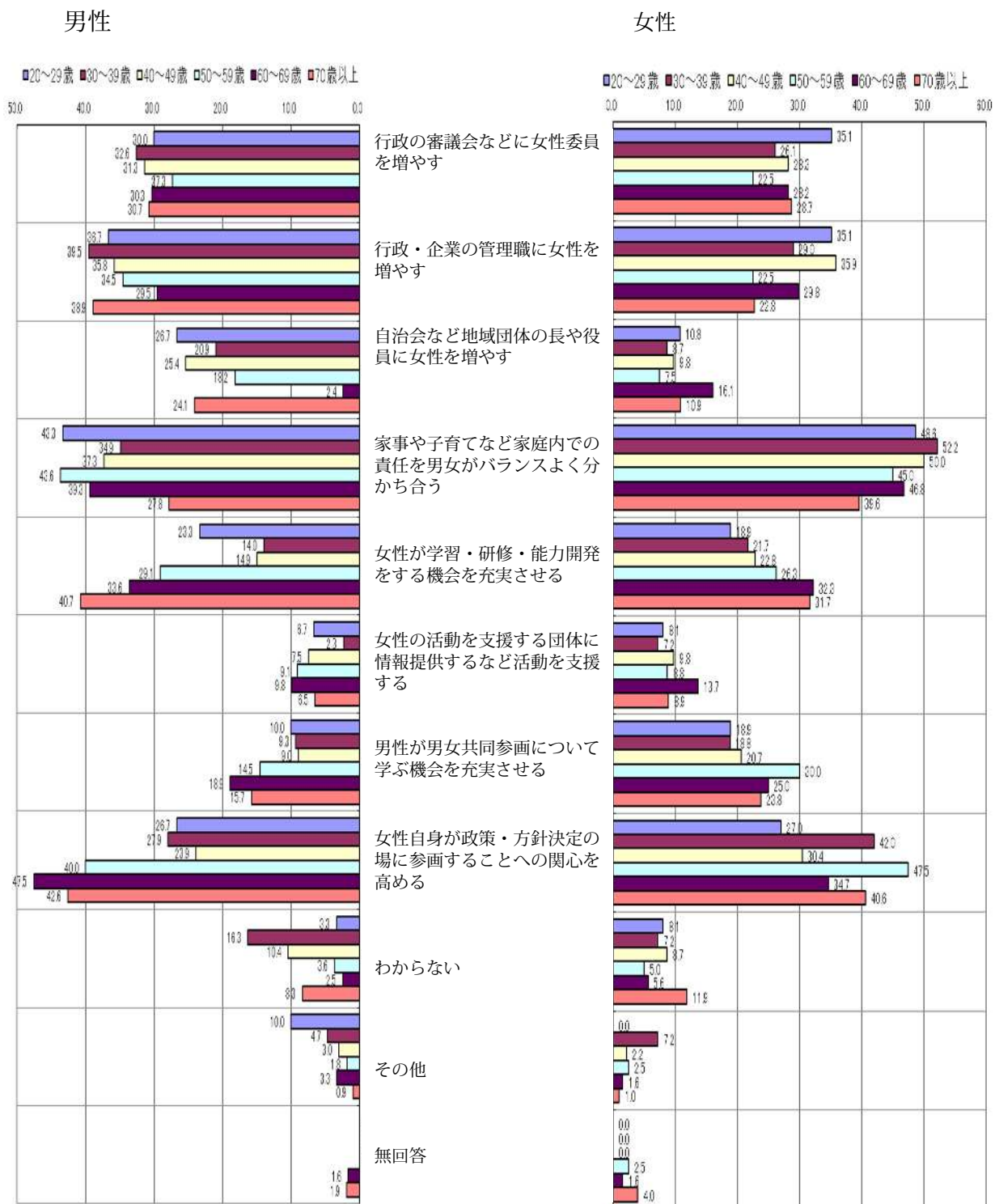


全体をみると、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」（41.6%）とする割合が最も高く、次いで「女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる」（37.6%）、「行政・企業の管理職に女性を増やす」（31.7%）の順となっています。

男女別では、女性で「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」、「男性が男女共同参画について学ぶ機会を充実させる」とした割合が男性よりも高くなっています。

Ⅲ－４ 社会参画

男女別・年齢別



男女・年齢別でみると、男性は 20 歳代、50 歳代で「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」とした割合が最も高く、30 歳代で、「行政・企業の管理職に女性を増やす」とした割合が高くなっています。60 歳代以上の年代では「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」が最も高くなっています。

女性はすべての年代で「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」とした割合が最も高くなっています。

５ 配偶者などに対する暴力について

５-１ 配偶者間で行われた場合に暴力にあたるかについて

※以下の設問にある「配偶者など」には、婚姻届をだしていない婚や別居中の夫婦、元配偶者のほかに、交際相手も含みます。

問１５ 次のようなことが配偶者などの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

(回答はアからシの項目ごとに１つ)

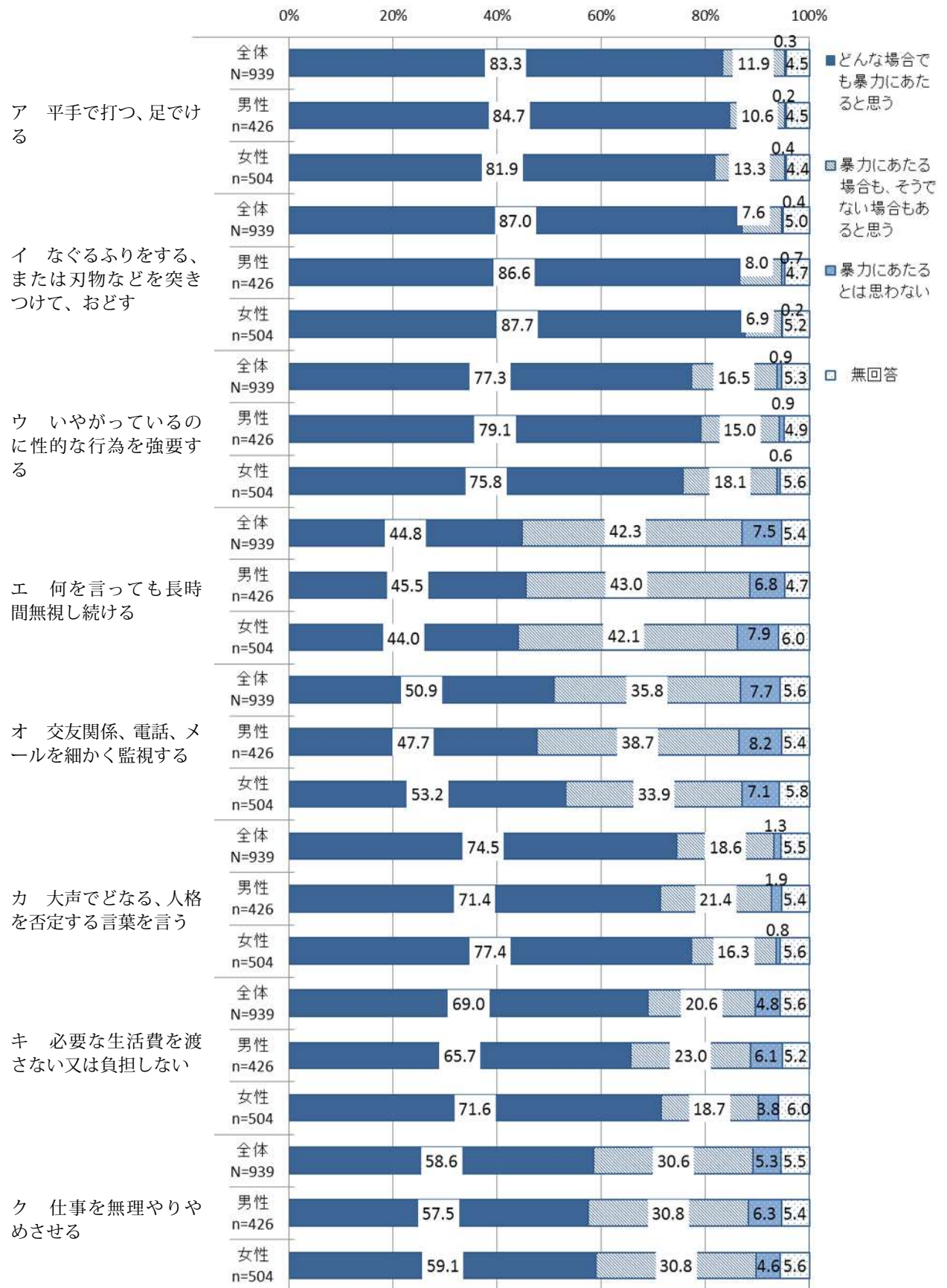
(人：％)

項 目	性別	どんな場合でも暴力にあたると思う		暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う		暴力にあたるとは思わない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ア 平手で打つ、足でける	全体	782	83.3	112	11.9	3	0.3	42	4.5
	男性	361	84.7	45	10.6	1	0.2	19	4.5
	女性	413	81.9	67	13.3	2	0.4	22	4.4
イ なぐるふりをする、または刃物など突きつけておどす	全体	817	87.0	71	7.6	4	0.4	47	5.0
	男性	369	86.6	34	8.0	3	0.7	20	4.7
	女性	442	87.7	35	6.9	1	0.2	26	5.2
ウ いやがっているのに性的な行為を強要する	全体	726	77.3	155	16.5	8	0.9	50	5.3
	男性	337	79.1	64	15.0	4	0.9	21	4.9
	女性	382	75.8	91	18.1	3	0.6	28	5.6
エ 何を言っても長時間無視し続ける	全体	421	44.8	397	42.3	70	7.5	51	5.4
	男性	194	45.5	183	43.0	29	6.8	20	4.7
	女性	222	44.0	212	42.1	40	7.9	30	6.0
オ 交友関係、電話、メールを細かく監視する	全体	478	50.9	336	35.8	72	7.7	53	5.6
	男性	203	47.7	165	38.7	35	8.2	23	5.4
	女性	268	53.2	171	33.9	36	7.1	29	5.8
カ 大声でどなる、人格を否定する言葉を言う	全体	700	74.5	175	18.6	12	1.3	52	5.5
	男性	304	71.4	91	21.4	8	1.9	23	5.4
	女性	390	77.4	82	16.3	4	0.8	28	5.6
キ 必要な生活費を渡さない又は負担しない	全体	648	69.0	193	20.6	45	4.8	53	5.6
	男性	280	65.7	98	23.0	26	6.1	22	5.2
	女性	361	71.6	94	18.7	19	3.8	30	6.0
ク 仕事を無理やり辞めさせる	全体	550	58.6	287	30.6	50	5.3	52	5.5
	男性	245	57.5	131	30.8	27	6.3	23	5.4
	女性	298	59.1	155	30.8	23	4.6	28	5.6

(全体N＝939 男性n＝426 女性n＝504)

Ⅲ－５ 配偶者等への暴力

全体・男女別



全体をみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」としている割合が最も多い項目は、「なぐるふりをする、または刃物などを突きつけて、おどす」（87.0%）、次いで「平手で打つ、足でける」（83.3%）、「いやがっているのに性的な行為を強要する」（77.3%）の順となっています。

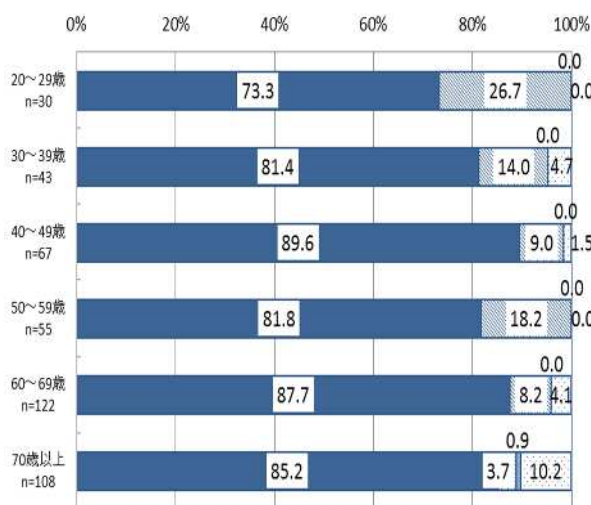
男女差が比較的大きかったのは、「大声でどなる人格を否定する言葉を言う」（男性 71.4%・女性 77.4%）、「必要な生活費を渡さない又は負担しない」（男性 65.7%・女性 71.6%）、「交友関係、電話、メールを細かく監視する」（男性 47.7%・女性 53.2%）となっています。

Ⅲ－５ 配偶者等への暴力

ア 平手で打つ、足でける

男女別・年齢別

男性



女性

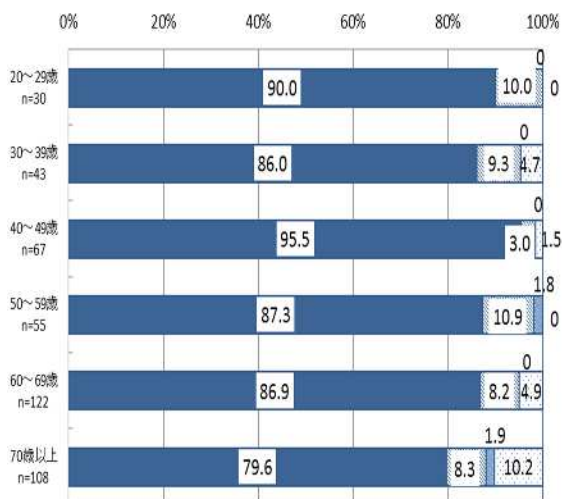


男女別・年齢別にみると、男女共に 20 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合が低くなっており、同時に「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっている。

イ なぐるふりをする、または刃物などを突きつけて、おどす

男女別・年齢別

男性



女性



男女別・年齢別にみると、男女共に 70 歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合が低くなっています。男性 50 歳代で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

女性 30 歳代では「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合が 100% となっています。

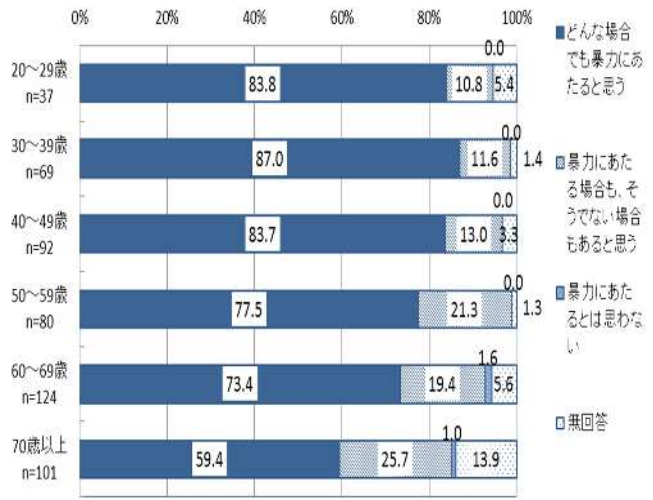
ウ いやがっているのに性的な行為を強要する

男女別・年齢別

男性



女性

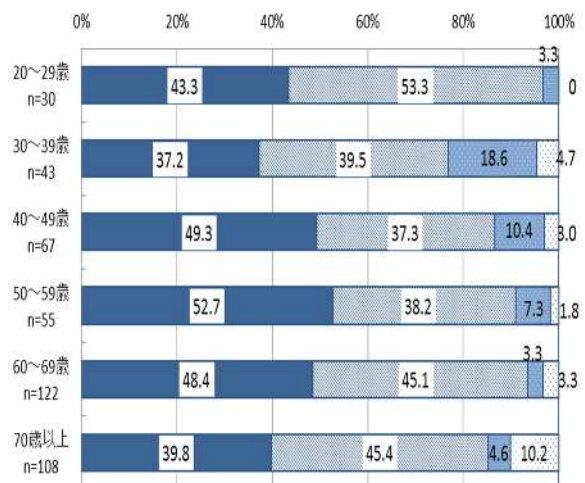


男女別・年齢別にみると、男女共に 70 歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合が低くなっており、同時に「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

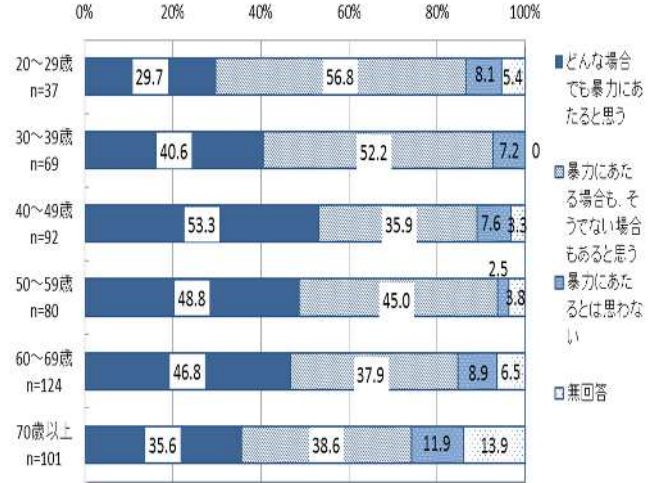
エ 何を言っても長時間無視し続ける

男女別・年齢別

男性



女性



男女別・年齢別にみると、男女共に 20 歳代、30 歳代、70 歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」よりも「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」とした割合が高くなっており、特に 20 歳代女性にその傾向が強くなっています。

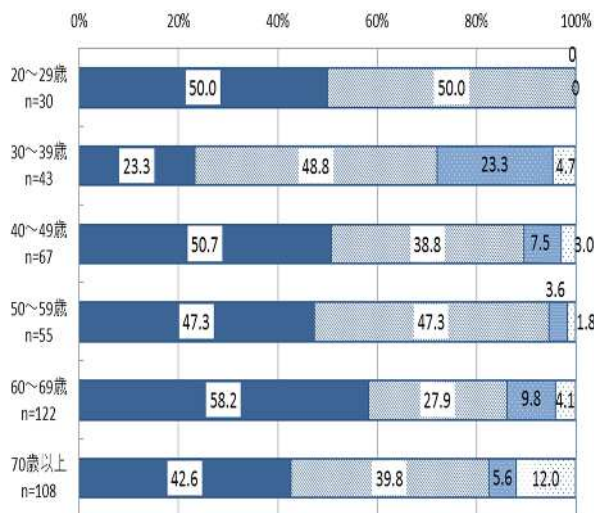
男性 30 歳代で「暴力に当たるとは思わない」とした割合が高くなっています。

Ⅲ－５ 配偶者等への暴力

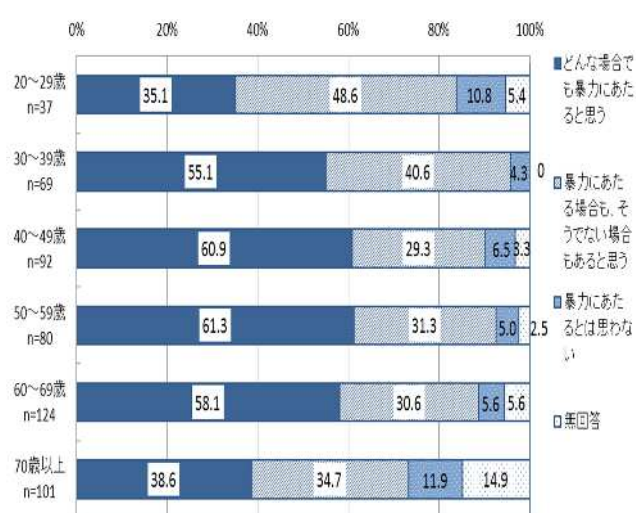
オ 交友関係、電話、メールを細かく監視する

男女別・年齢別

男性



女性



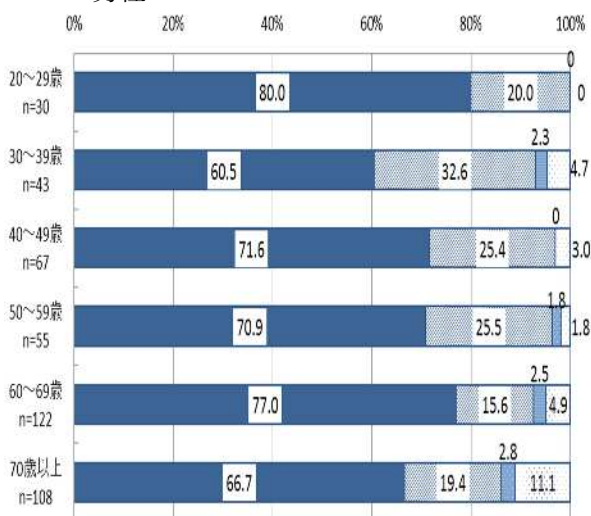
男女別・年齢別にみると、男性 30 歳代で「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」とした割合が「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合よりが高くなっており、「暴力にあたるとは思わない」とした割合が高くなっています。

女性 30 歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合が高く男女で違いが見られます。

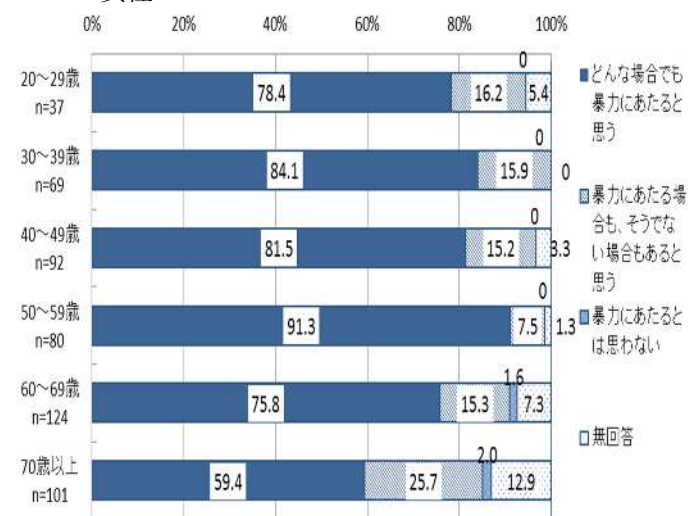
カ 大声でどなる、人格を否定する言葉を言う

男女別・年齢別

男性



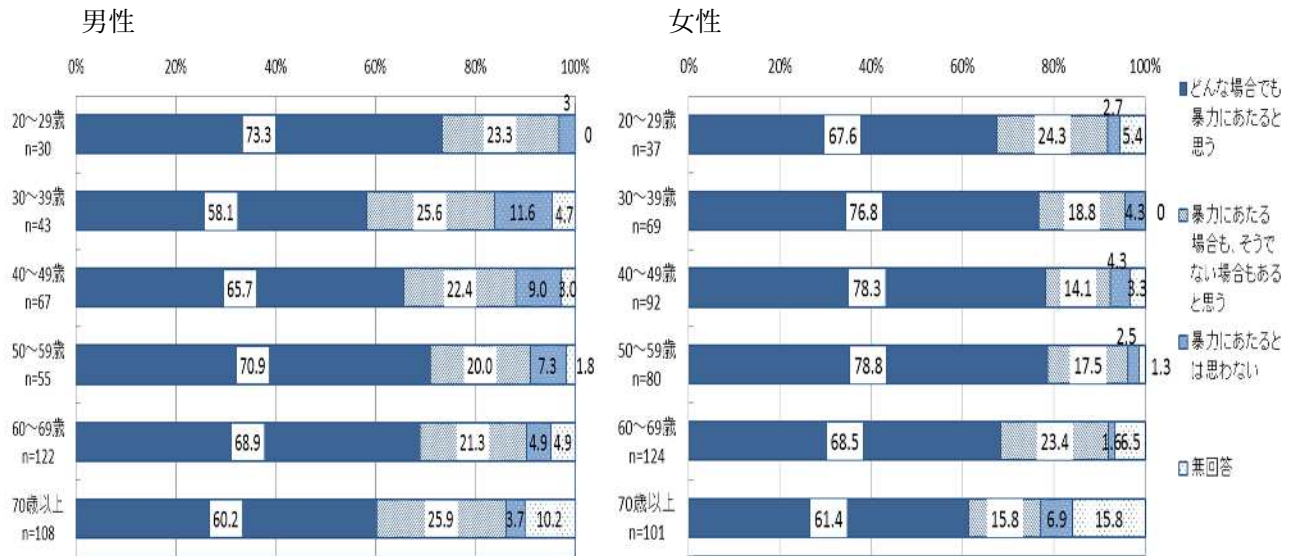
女性



男女別・年齢別にみると、男女とも 20 歳代から 60 歳代（男性は 70 歳代も）で「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合がといた割合が高くなっており、6 割を超えています。特に女性 50 歳代で 9 割を超えた割合となっています。

キ 必要な生活費を渡さない又は負担しない

男女別・年齢別

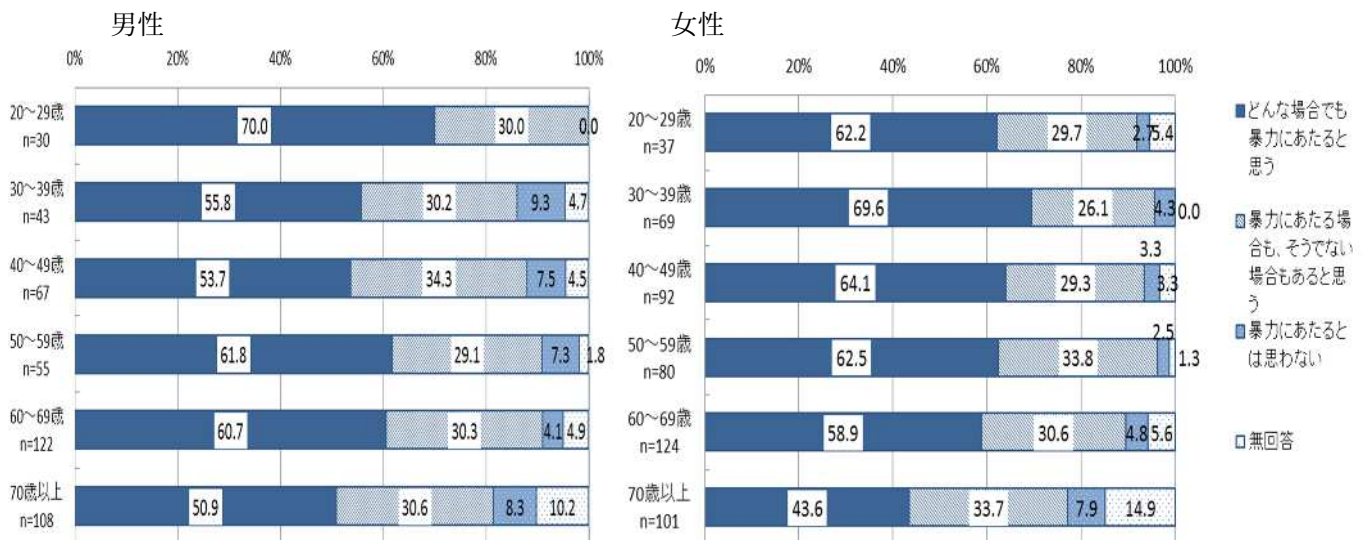


男女別・年齢別にみると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」とした割合よりも高くなっており、男性 70 歳代では 7 割を超えています。

女性 70 歳以上で「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合が他の年代に比較して低い割合となっています。

ク 仕事を無理やりやめさせる

男女別・年齢別



男女別・年齢別にみると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」とした割合が高くなっています。

女性で「暴力にあたるとは思わない」とした割合が男性の割合と比較して低い割合となっています。

Ⅲ－５ 配偶者等への暴力

5-2 配偶者間の被害経験について

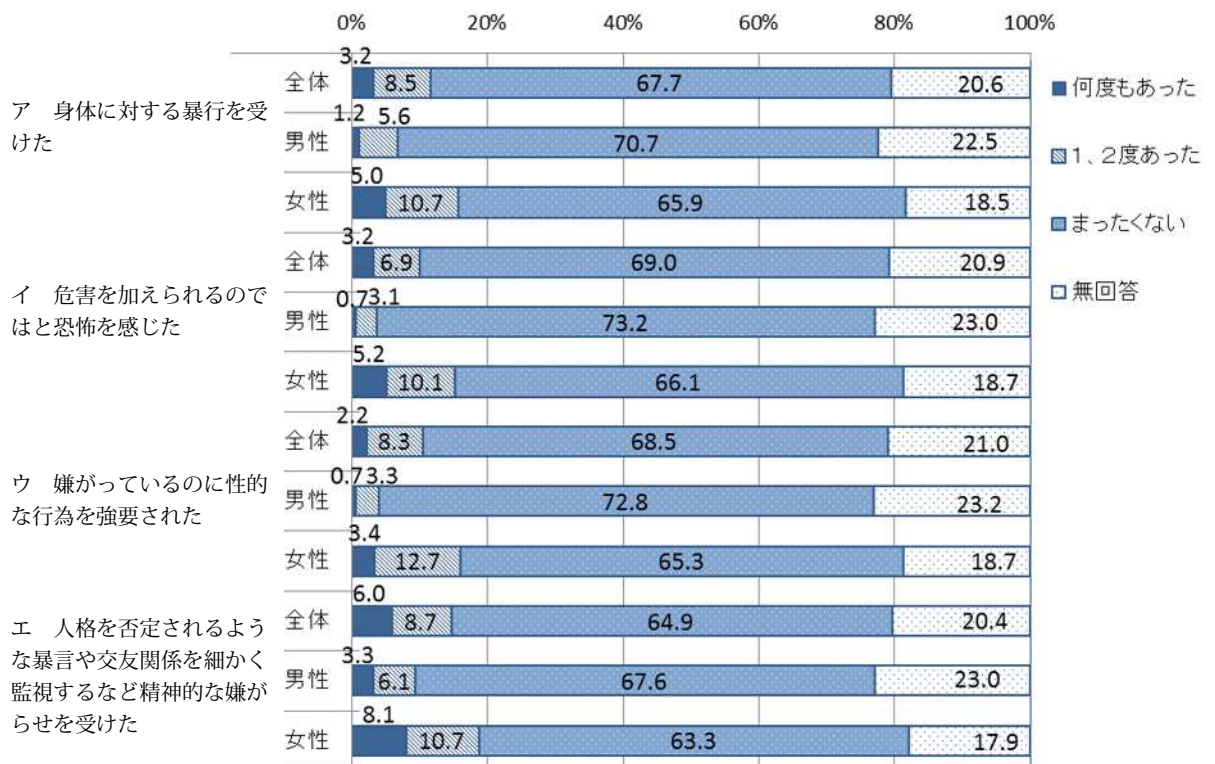
問 1 6 【これまでに配偶者などがいたことがない方は問 17 へ】これまでに、あなたの配偶者などから次のような行為をされたことがありますか。(回答はアからエの項目にあてはまるもの1つ)

(%)

項 目	性別	何度もあった	1、2度あった	まったくない	無回答
ア 身体に対する暴行を受けた	全体	3.2	8.5	67.7	20.6
	男性	1.2	5.6	70.7	22.5
	女性	5.0	10.7	65.9	18.5
イ 危害を加えられるのではと恐怖を感じた	全体	3.2	6.9	69.0	20.9
	男性	0.7	3.1	73.2	23.0
	女性	5.2	10.1	66.1	18.7
ウ いやがっているのに性的な行為を強要された	全体	2.2	8.3	68.5	21.0
	男性	0.7	3.3	72.8	23.2
	女性	3.4	12.7	65.3	18.7
エ 人格を否定するような暴言や交友関係をこま架空監視するなど精神的な嫌がらせを受けた	全体	6.0	8.7	64.9	20.4
	男性	3.3	6.1	67.6	23.0
	女性	8.1	10.7	63.3	17.9

問 1 6－1 へ 問 1 7 へ

全体



全体をみると、全ての項目で「まったくない」が 60%以上の割合を占めるが、「何どもあった」、「1、2度あった」を合わせた割合が、女性ではどの項目でも 15%以上となっています。

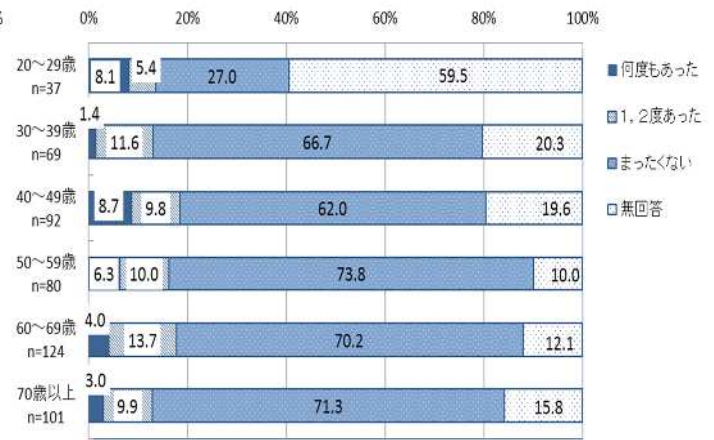
ア 身体に対する暴行を受けた

男女別・年齢別

男性



女性

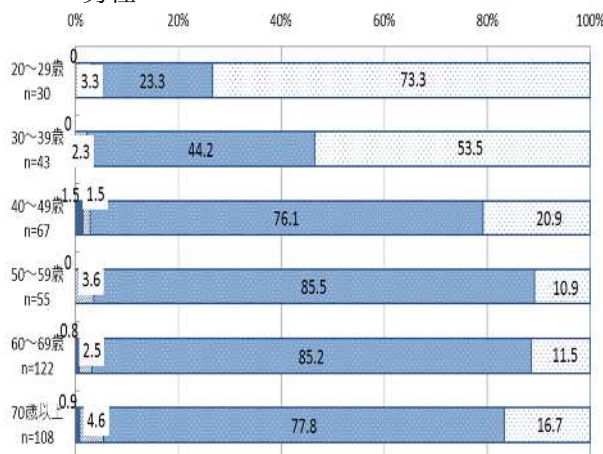


男女別・年齢別にみると、男性では 30 歳代、60 歳代で、「何度もあった」「1、2 度あった」と回答した割合が他の年代に比べて高くなっています。女性では 20 歳代、40 歳代、50 歳代で「何度もあった」とした割合が高くなっています。また女性の全ての年代で、「何度もあった」「1、2 度あった」と回答しています。

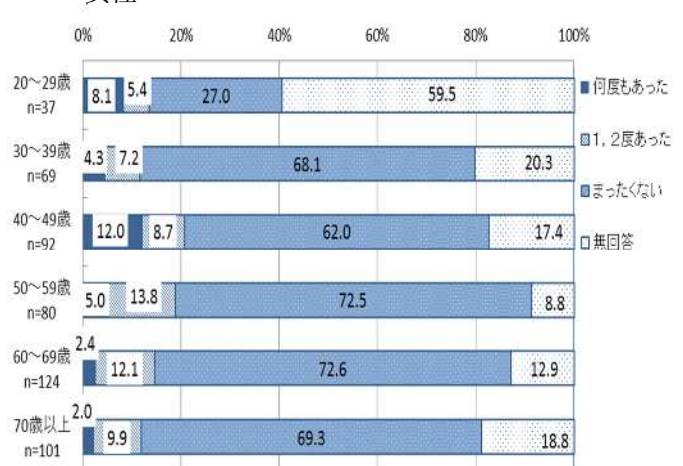
イ 危害を加えられるのではないかと恐怖を感じた

男女別・年齢別

男性



女性

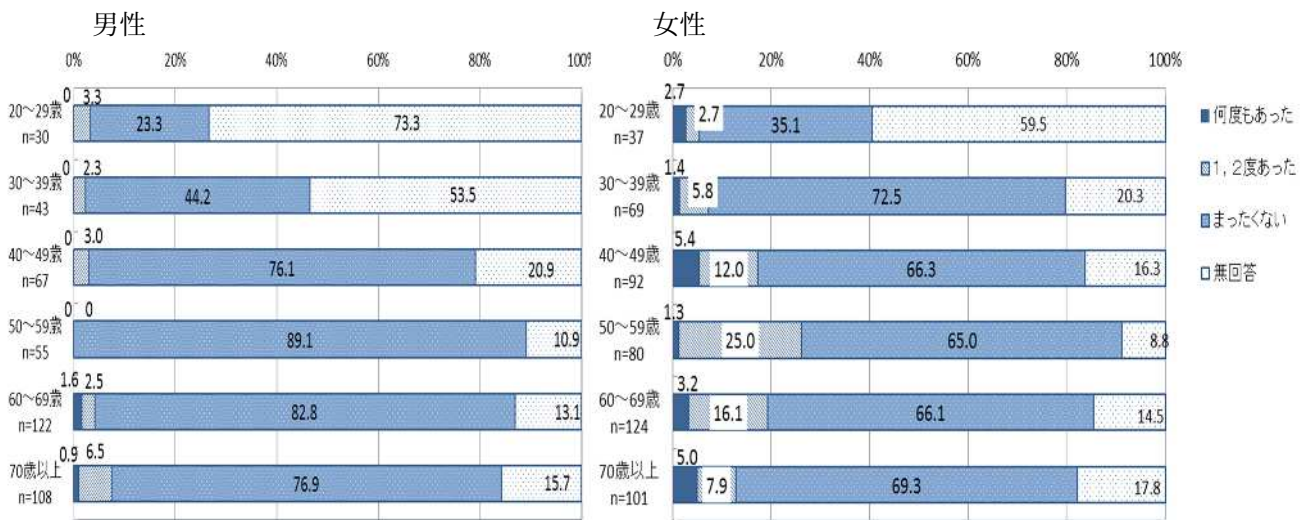


男女別・年齢別にみると、男性では 70 歳代で、「何度もあった」(0.9%)、「1、2 度あった」(4.6%)と回答した割合が他の年代に比べて高くなっています。他の年齢層でも「1、2 度あった」と回答しています。

女性では、「何度もあった」とした割合が 40 歳代 (12.0%) で最も高く、20 歳代 (8.1%)、50 歳代 (5.0%) と次いでいる。また女性の全ての年代で、「何どもあった」「1、2 度あった」と回答していて、合わせた割合では 40 歳代 (20.7%) で最も高くなっています。

Ⅲ－５ 配偶者等への暴力

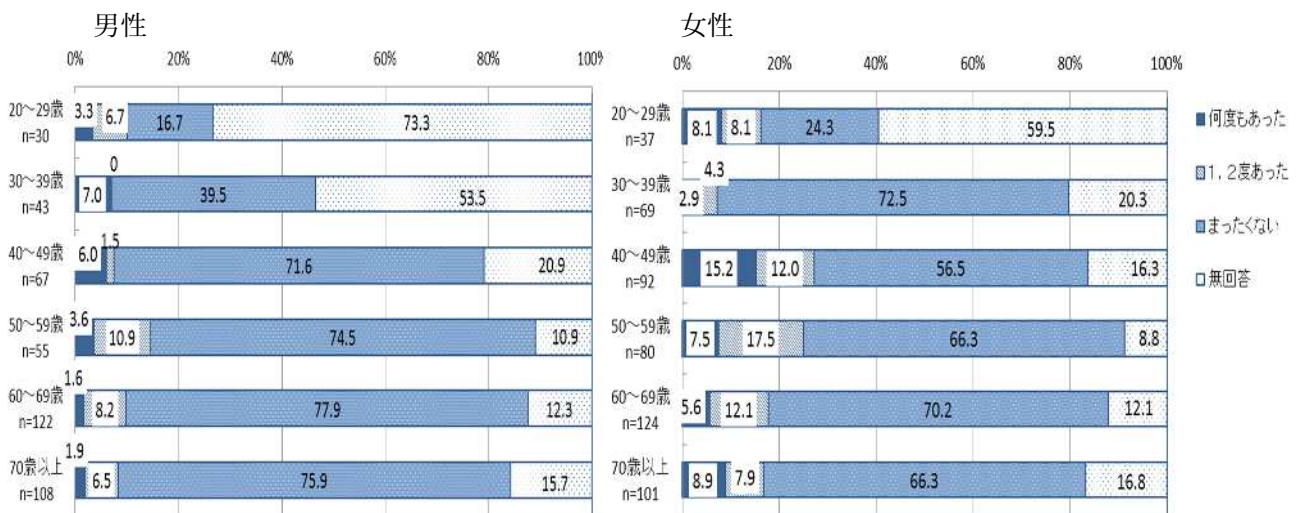
ウ いやがっているのに性的な行為を強要された 男女別・年齢別



男女別・年齢別にみると、男性では70歳代で、「何度もあった」(0.9%)、「1、2度あった」(6.5%)と回答した割合が他の年代に比べて高くなっています。50歳代を除く他の年齢層でも「1、2度あった」と回答しています。

女性では、「何度もあった」とした割合が40歳代(5.4%)、70歳代(5.0%)で高くなっています。「1、2度あった」とした割合が50歳代(25.0%)で最も高くなっている。また女性の全ての年代で、「何度もあった」、「1、2度あった」と回答しています。

エ 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた 男女別・年齢別



男女別・年齢別にみると、男性では「何度もあった」とした割合が30歳代(7.0%)、40歳代(6.0%)で他の年代に比べて高くなっています。50歳代で「1、2度あった」(10.9%)と回答した割合が他の年代に比べて高くなっている。男性の全ての年代で「何度もあった」、「1、2度あった」と回答しています。

女性では、「何度もあった」とした割合が40歳代(15.2%)で最も高くなっている。「1、2度あった」とした回答と合わせると40歳代(27.2%)、50歳代(25.0%)で高い割合になっています。

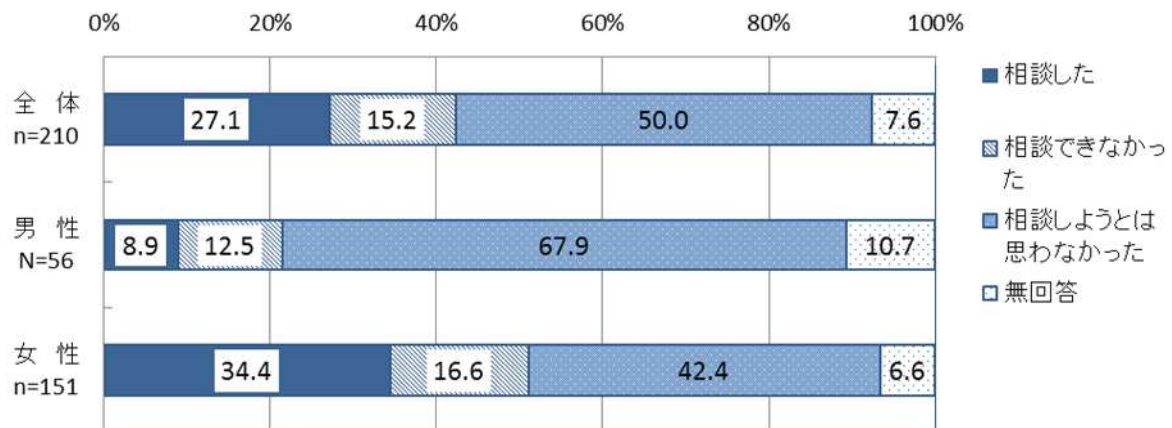
5-2-1 配偶者からの暴力に関する相談について

問 16-1 【問 16 のうち、1 つでも「何度もあった」または「1、2 度あった」と回答した方への質問】これまでに、その相手から受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（回答は 1 つ）

(人：%)

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 相談した	57	27.1	5	8.9	52	34.4
⇒問 17 へ						
2 相談できなかった	32	15.2	7	12.5	25	16.6
3 相談しようとは思わなかった	105	50.0	38	67.9	64	42.4
⇒問 16-2 へ						
無回答	16	7.6	6	10.7	10	6.6
合 計	210	100	56	100	151	100

全体・男女別



全体でみると、「相談した」とした割合は 27.1%であり、「相談できなかった」(15.2%)、「相談しようとは思わなかった」(50.0%)となっています。男女で比較すると、男性は「相談した」とした割合が 8.9%で女性の 34.4%とだいぶ差があります。男性は「相談できなかった」とする割合も少なく「相談しようとは思わなかった」とする割合が 60%を超えています。

Ⅲ－５ 配偶者等への暴力

5-2-2 相談できなかった理由について

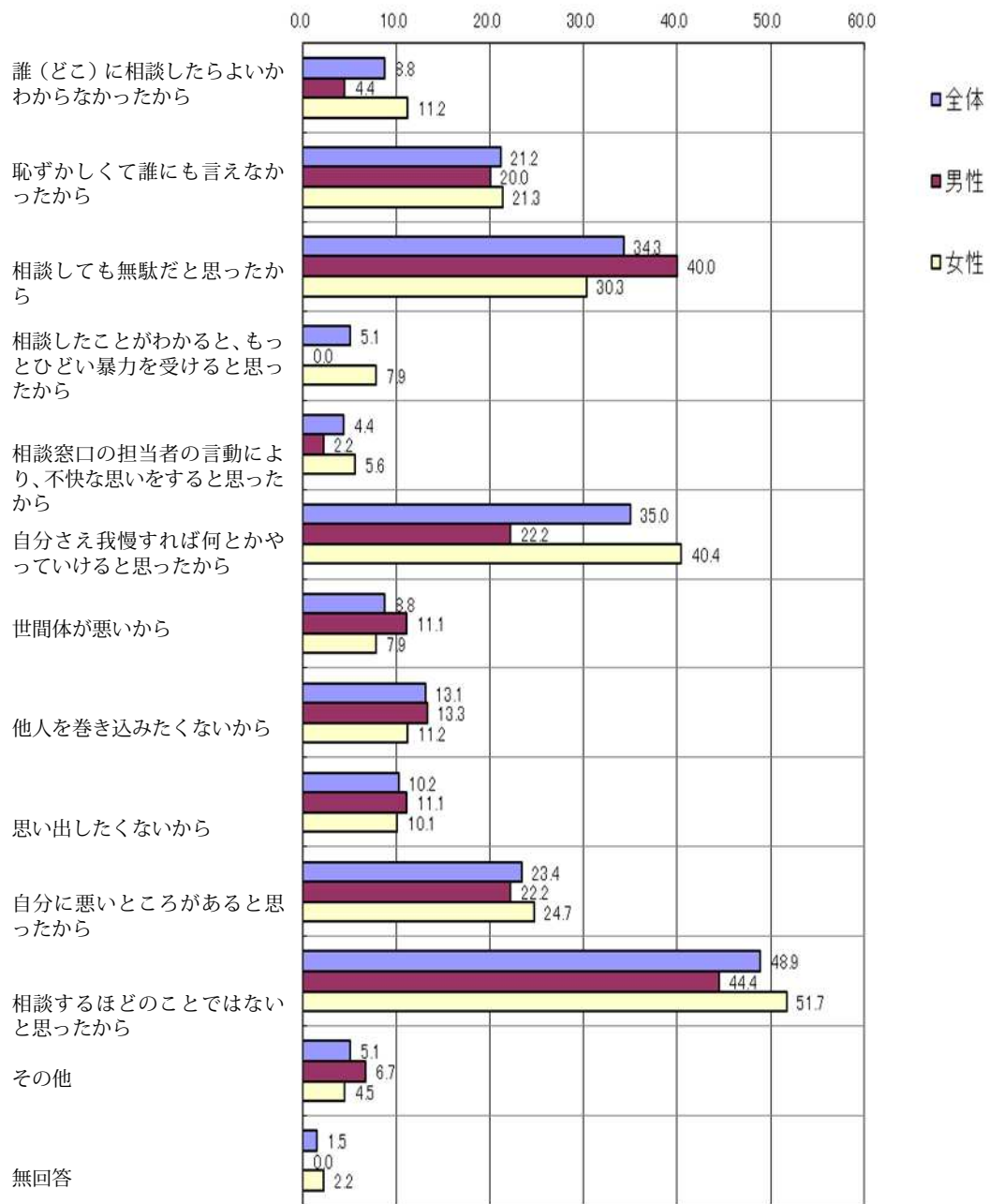
問１６－２ 【問１６－１で「２ 相談できなかった」、「３ 相談しようとは思わなかった」と回答した方への質問】誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（回答はあてはまるものすべて）

（人：％）

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
１ 誰（どこ）に相談したらよいかわからなかったから	12	8.8	2	4.4	10	11.2
２ 恥ずかしくて誰にも言えなかったから	29	21.2	9	20.0	19	21.3
３ 相談しても無駄だと思ったから	47	34.3	18	40.0	27	30.3
４ 相談したことがわかると、もっとひどい暴力を受けると思ったから	7	5.1	0	0	7	7.9
５ 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから	6	4.4	1	2.2	5	5.6
６ 自分さえ我慢すれば何とかやっ ていけると思ったから	48	35.0	10	22.2	36	40.4
７ 世間体が悪いから	12	8.8	5	11.1	7	7.9
８ 他人を巻き込みたくないから	18	13.1	6	13.3	10	11.2
９ 思い出したくないから	14	10.2	5	11.1	9	10.1
１０ 自分に悪いところがあると思っ たから	32	23.4	10	22.2	22	24.7
１１ 相談するほどのことではないと思 ったから	67	48.9	20	44.4	46	51.7
１２ その他	7	5.1	3	6.7	4	4.5
無回答	2	1.5	0	0	2	2.2

（全体N＝137 男性n＝45 女性n＝89）

(全体・男女別)



全体でみると、最も大きな割合を占めたのは「相談するほどのことではない」(48.9%)であり、次いで「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」(35.0%)、「相談しても無駄だと思ったから」(34.3%)の順になっています。

男女で比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」とした割合は、女性より男性の方が高く、「相談するほどのことではない」、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」とした割合は男性よりも女性の方が高くなっています。

Ⅲ－５ 配偶者等への暴力

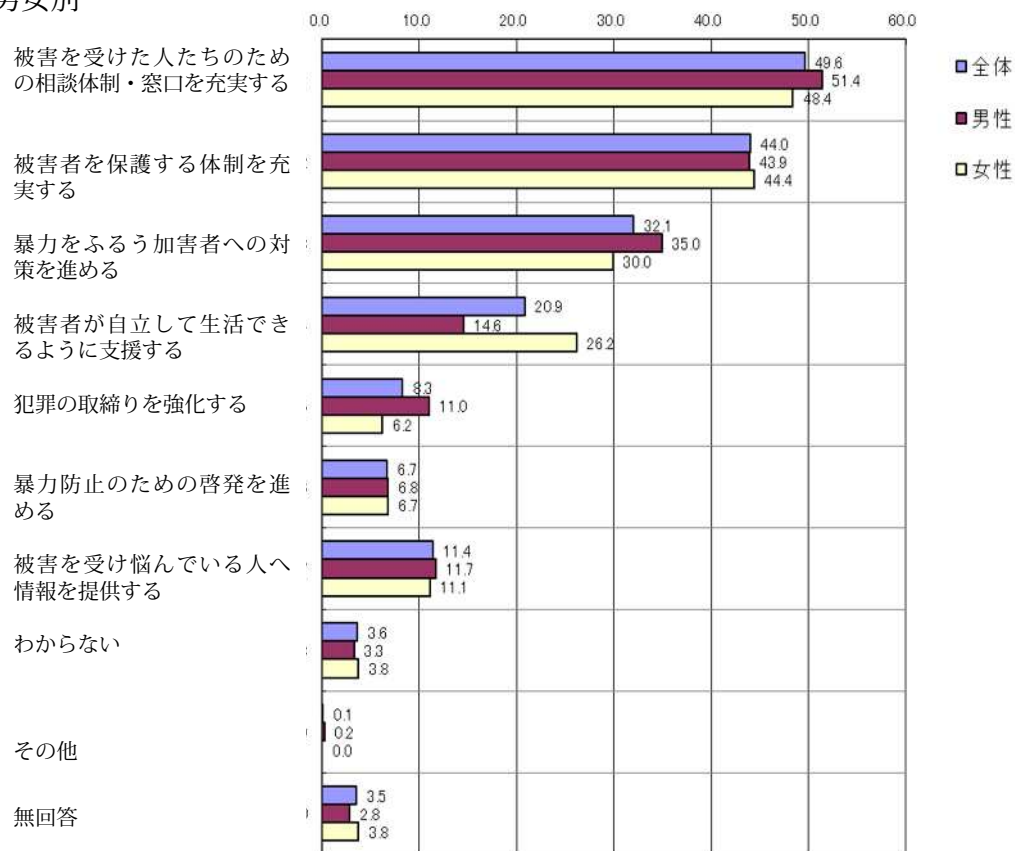
5-3 配偶者間の暴力防止の取組みについて

問１７ 配偶者などの間で行われた暴力の防止への取組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。（回答は２つ以内）

	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する	466	49.6	219	51.4	244	48.4
2 被害者を保護する体制を充実する	413	44.0	187	43.9	224	44.4
3 暴力をふるう加害者への対策を進める	301	32.1	149	35.0	151	30.0
4 被害者が自立して生活できるように支援する	196	20.9	62	14.6	132	26.2
5 犯罪の取締りを強化する	78	8.3	47	11.0	31	6.2
6 暴力防止のための啓発を進める	63	6.7	29	6.8	34	6.7
7 被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する	107	11.4	50	11.7	56	11.1
8 わからない	34	3.6	14	3.3	19	3.8
9 その他	1	0.1	1	0.2	0	0.0
無回答	33	3.5	12	2.8	19	3.8

（全体N＝939 男性n＝426 女性n＝504）

全体・男女別



全体でみると、最も大きな割合を占めているのは、「被害を受けた人たちのための相談体制・窓口を充実する」（49.6％）となっています。次いで、「被害者を保護する体制を充実する」（44.0％）、「暴力をふるう加害者への対策を進める」（32.1％）、「被害者が自立して生活できるように支援する」（20.9％）の順になっています。

6 性的マイノリティについて

6-1 性別に悩みの有無について

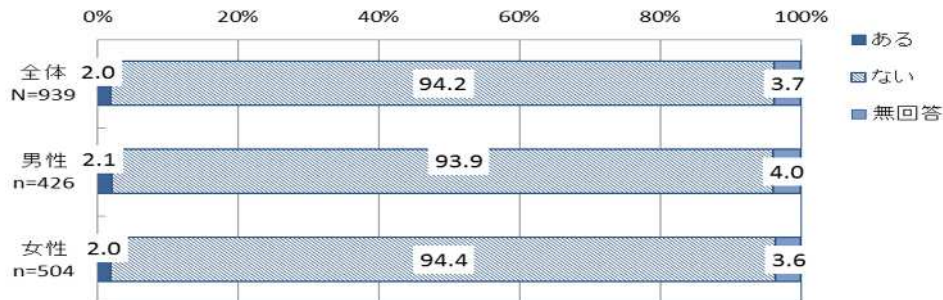
問18 今まで自分の性別に悩んだことはありますか。(回答は1つ)

(人：％)

	全体		男性		女性		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	19	2.0	9	2.1	10	2.0	0	0
ない	885	94.2	400	93.9	476	94.4	9	100
無回答	35	3.7	17	4.0	18	3.6	0	0

(全体N=939 男性n=426 女性n=504)

全体・男女別



全体でみると、性別に悩みの有無は、「ない」が94.2%と大きな割合を占めています。男女別でみても、大きな変化はありません。

6-2 性別マイノリティという言葉の認知度について

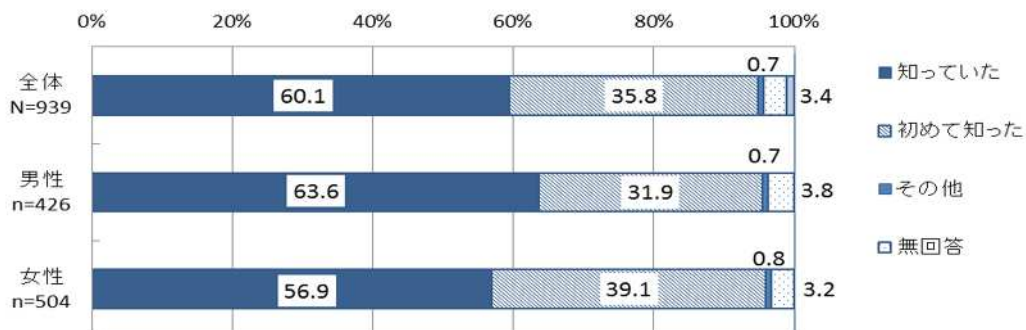
問19 性的マイノリティという言葉をご存知でしたか。(回答は1つ)

(人：％)

	全体		男性		女性		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 知っていた	564	60.1	271	63.6	287	56.9	6	66.7
2 初めて知った	336	35.8	136	31.9	197	39.1	3	33.3
3 その他	7	0.7	3	0.7	4	0.8	0	0
無回答	32	3.4	16	3.8	16	3.2	0	0
合計	939	100	426	100	504	100	9	100

(全体N=939 男性n=426 女性n=504)

全体・男女別



全体でみると、性的マイノリティという言葉について、「知っていた」が60.1%で認知度は6割以上を占めています。

男女別でみると、男性が女性より認知度が高くなっています。

Ⅲ－６ 性的マイノリティ

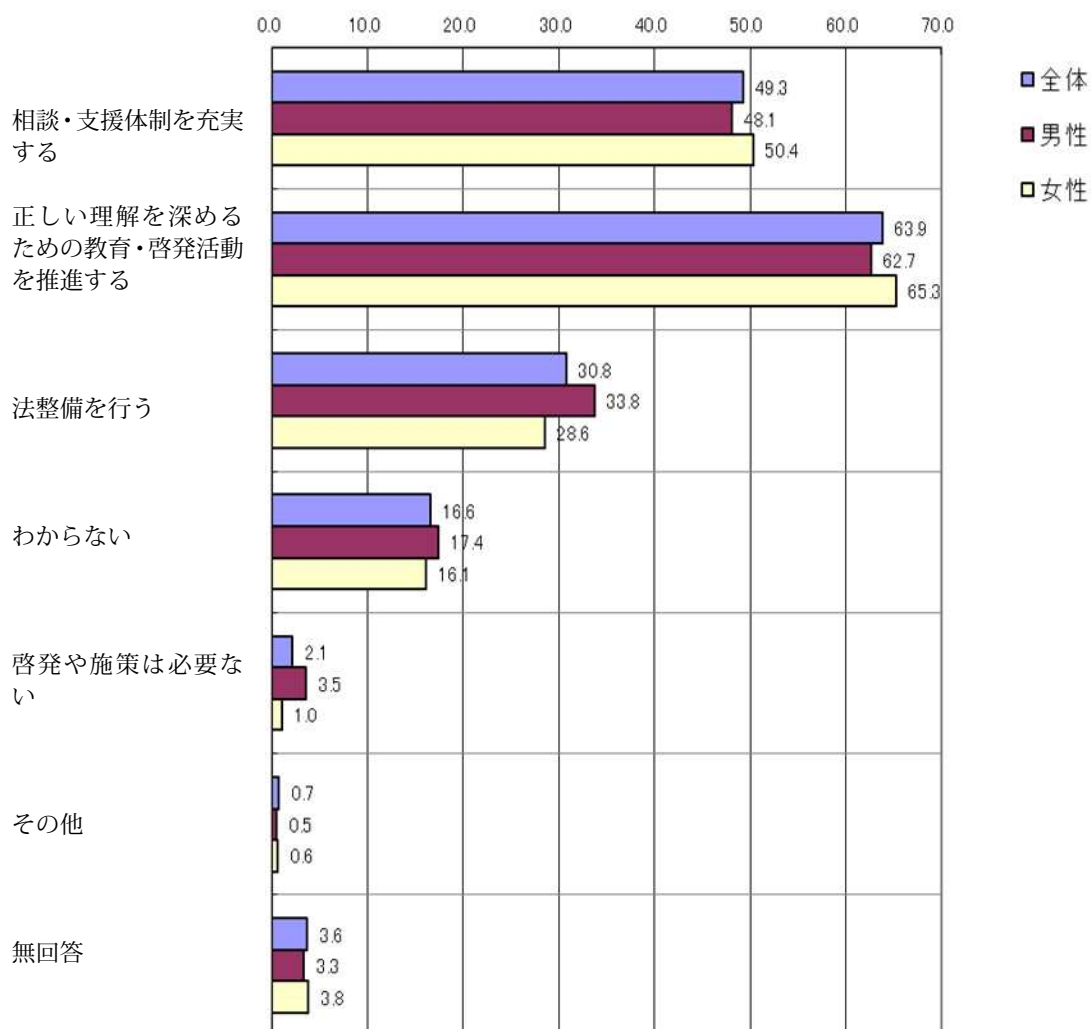
6-3 性別マイノリティの方々への人権施策等の必要性について

問20 性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施策について、どのようなことが必要だと思いますか。(回答はあてはまるものすべて) (人：%)

	全体		男性		女性		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 相談・支援体制を充実する	463	49.3	205	48.1	254	50.4	4	44.4
2 正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する	600	63.9	267	62.7	329	65.3	4	44.4
3 法整備を行う	289	30.8	144	33.8	144	28.6	1	11.1
4 わからない	156	16.6	74	17.4	81	16.1	1	11.1
5 啓発や施策は必要ない	20	2.1	15	3.5	5	1.0	0	0
6 その他	7	0.7	2	0.5	3	0.6	2	22.2
無回答	34	3.6	14	3.3	19	3.8	1	11.1

(全体N=939 男性n=426 女性n=504)

全体・男女別



全体でみると、「正しい理解を深めるための教育・啓発活動を推進する」が63.9%で最も高く、次いで「相談・支援体制を充実する」、「法整備をオ k 絢う」の順になっています。

男女別での変化は大きく見ることはできません。

7 男女共同参画の推進に対する施策について

7-1 男女共同参画社会実現のため、市の重点施策について

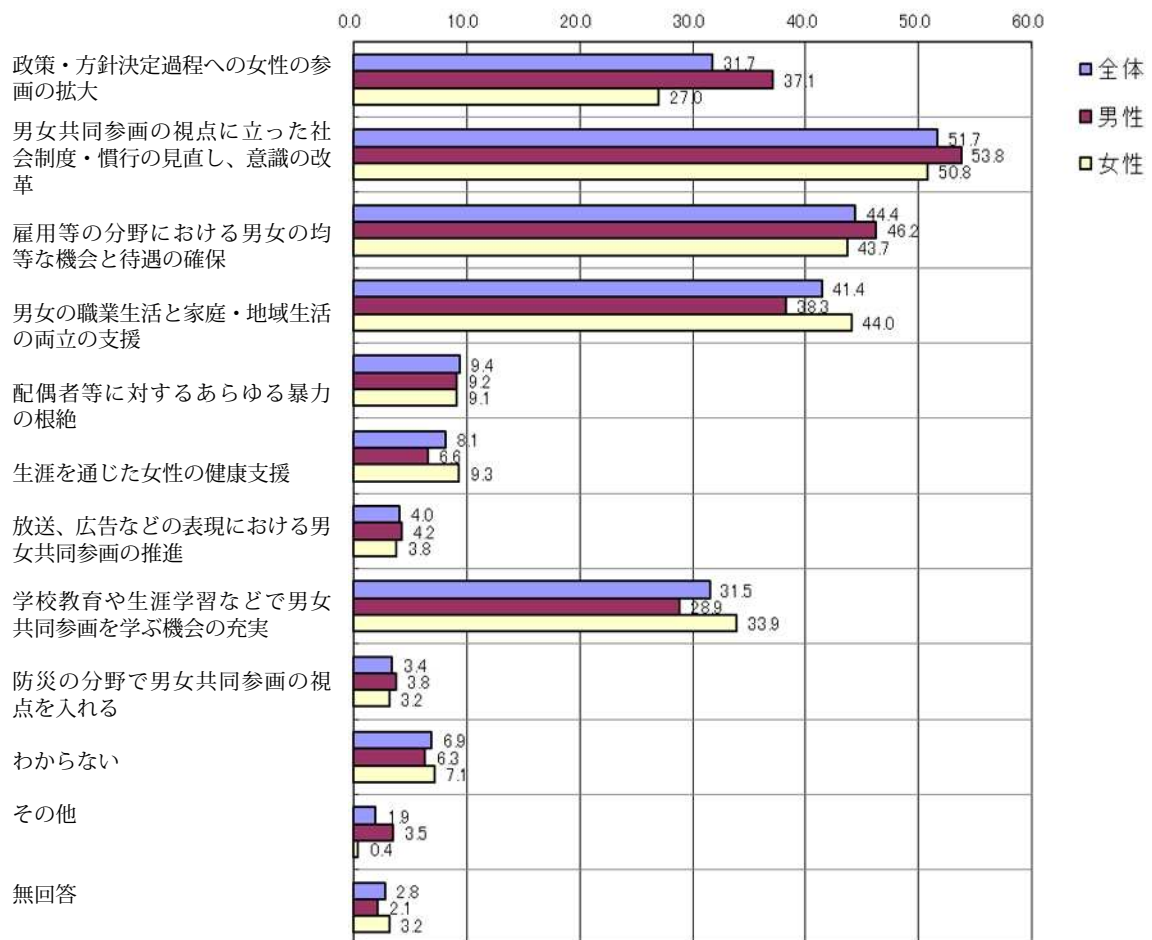
問2 1 人間市では男女共同参画社会の実現をめざし、さまざまな施策を実施しています。今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（回答は3つ以内）
（人：％）

項 目	全 体		男 性		女 性	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大	298	31.7	158	37.1	136	27.0
2 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革	485	51.7	229	53.8	256	50.8
3 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保	417	44.4	197	46.2	220	43.7
4 男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援	389	41.4	163	38.2	222	44.0
5 配偶者等に対するあらゆる暴力の根絶	88	9.4	39	9.2	46	9.1
6 生涯を通じた女性の健康支援	76	8.1	28	6.6	47	9.3
7 放送、広告などの表現における男女共同参画の推進	38	4.0	18	4.2	19	3.8
8 学校教育や生涯学習などで男女共同参画を学ぶ機会の充実	296	31.5	123	28.9	171	33.9
9 防災の分野で男女共同参画の視点を入れる	32	3.4	16	3.8	16	3.2
10 わからない	65	6.9	27	6.3	36	7.1
11 その他	18	1.9	15	3.5	2	0.4
無回答	26	2.8	9	2.1	16	3.2

（全体N＝939 男性n＝426 女性n＝504）

Ⅲ－７ 男女共同参画推進施策

全体・男女別



全体でみると、最も大きな割合を占めたのは、「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革」（51.7%）です。次いで「雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保」（44.4%）、「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」（41.4%）の順となっています。

7-2 男女共同参画に関する言葉の認知度について

問22 次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。

(回答は、アからサの項目ごとに1つ)

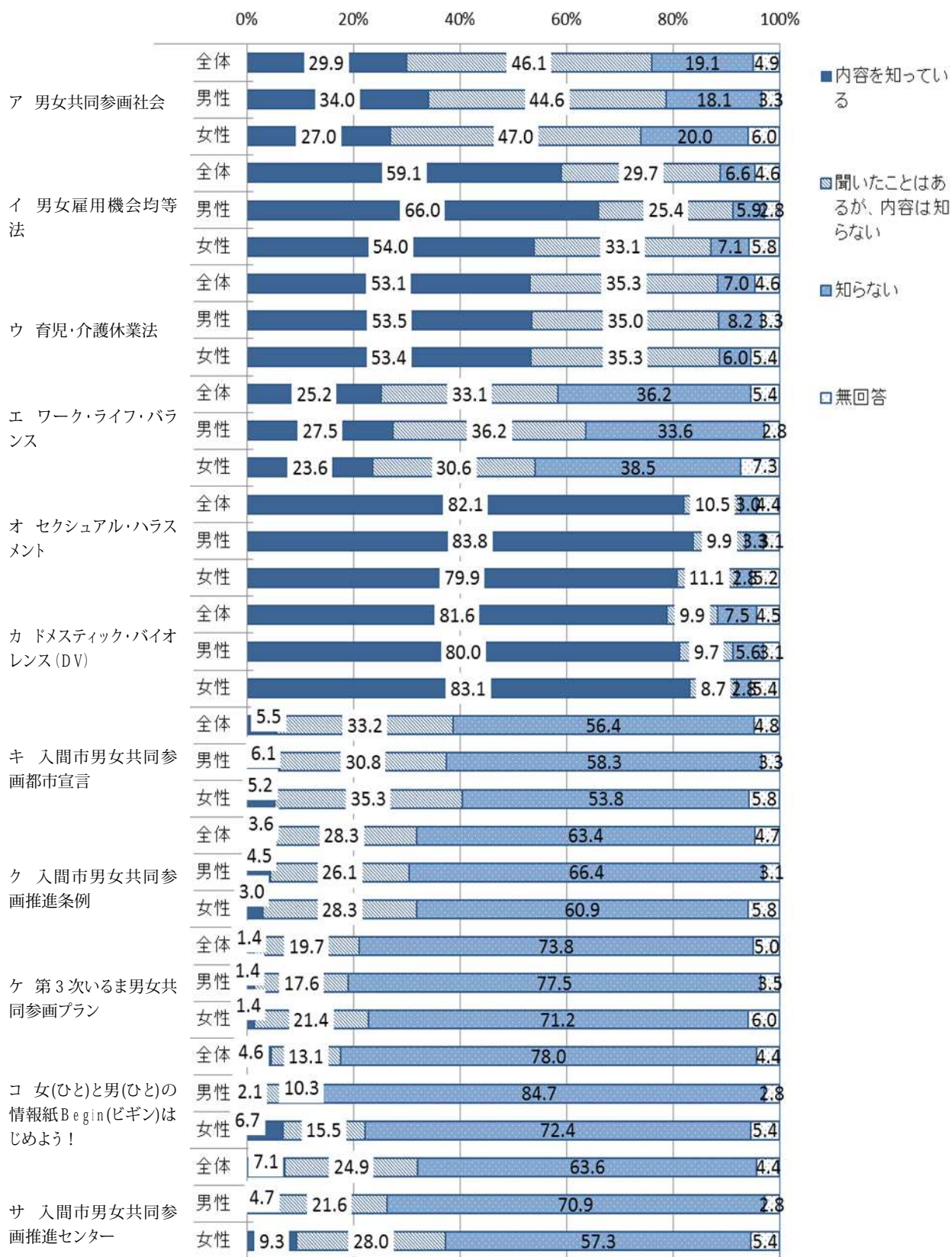
(人：%)

項 目	性別	内容を知っている		聞いたことはあるが、内容は知らない		知らない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ア 男女共同参画社会	全体	281	19.1	433	46.1	179	29.9	46	4.9
	男性	145	34.0	190	44.6	77	18.1	14	3.3
	女性	136	27.0	237	47.0	101	20.0	30	6.0
イ 男女雇用機会均等法	全体	555	59.1	279	29.7	62	6.6	43	4.6
	男性	281	66.0	108	25.4	25	5.9	12	2.8
	女性	272	54.0	167	33.1	36	7.1	29	5.8
ウ 育児・介護休業法	全体	499	53.1	331	35.3	66	7.0	43	4.6
	男性	228	53.5	149	35.0	35	8.2	14	3.3
	女性	269	53.4	178	35.3	30	6.0	27	5.4
エ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	全体	237	25.2	311	33.1	340	36.2	51	5.4
	男性	117	27.5	154	36.2	143	33.6	12	2.8
	女性	119	23.6	154	30.6	194	38.5	37	7.3
オ セクシュアル・ハラスメント	全体	771	82.1	99	10.5	28	3.0	41	4.4
	男性	357	83.8	42	9.9	14	3.3	13	3.1
	女性	408	81.0	56	11.1	14	2.8	26	5.2
カ ドメスティック・バイオレンス(DV)	全体	766	81.6	93	9.9	38	4.0	42	4.5
	男性	341	80.0	48	11.3	24	5.6	13	3.1
	女性	419	83.1	44	8.7	14	2.8	27	5.4
キ 入間市男女共同参画都市宣言	全体	52	5.5	312	33.2	530	56.4	45	4.8
	男性	26	6.1	131	30.8	255	59.9	14	3.3
	女性	26	5.2	178	35.3	271	53.8	29	5.8
ク 入間市男女共同参画推進条例	全体	34	3.6	266	28.3	595	63.4	44	4.7
	男性	19	4.5	111	26.1	283	66.4	13	3.1
	女性	15	3.0	153	30.4	307	60.9	29	5.8
ケ 第3次いるま男女共同参画プラン	全体	13	3.6	185	28.3	694	63.4	47	4.7
	男性	6	4.5	75	26.1	330	66.4	15	3.1
	女性	7	3.0	108	30.4	359	60.9	30	5.8
コ ^{ひと} 女と ^{ひと} 男の情報紙 ^{ビギン} Beginはじめよう!	全体	43	4.6	123	13.1	732	78.0	41	4.4
	男性	9	2.1	44	10.3	361	84.7	12	2.8
	女性	34	6.7	78	15.5	365	72.4	27	5.4
サ 入間市男女共同参画推進センター	全体	67	7.1	234	24.9	597	63.6	41	4.4
	男性	20	4.7	92	21.6	302	70.9	12	2.8
	女性	47	9.3	141	28.0	289	57.3	27	5.4

(全体N=939 男性n=426 女性n=504)

Ⅲ－７ 男女共同参画推進施策

全体・男女別



全体でみると、「内容を知っている」の割合が半数を超えているのは、多い順に「セクシュアル・ハラスメント」(82.1%)、「ドメスティック・バイオレンス」(81.6%)、「男女雇用機会均等法」(59.1%)、「育児・介護休業法」(53.1%)となっています。

7-3 入間市男女共同参画推進センターの利用について

問23 入間市には男女共同参画を推進するための拠点施設として、「入間市男女共同参画推進センター」があります。あなたは、この施設を利用したことがありますか。

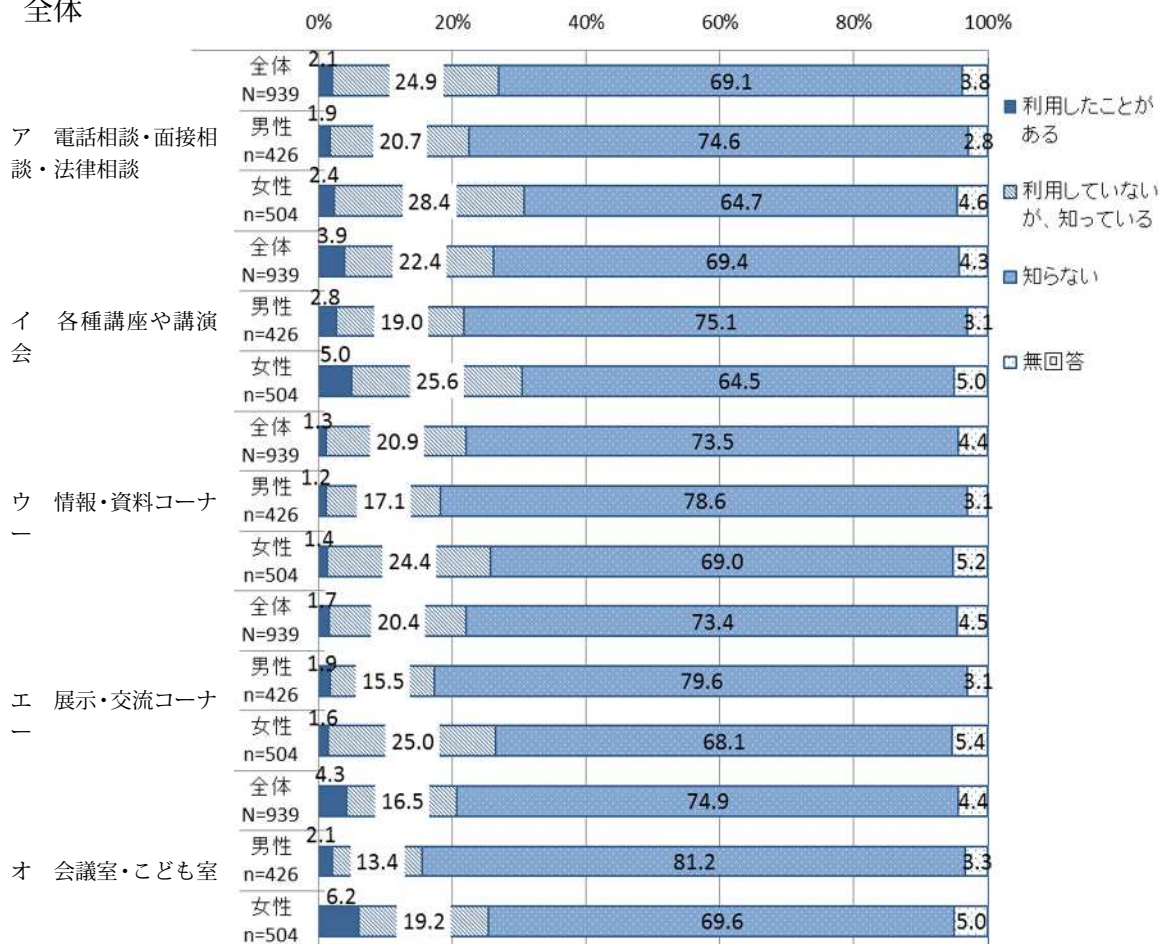
(回答はアからオの項目ごとに1つ)

(人：％)

項 目	性別	利用したことがある		利用していないが、知っている		知らない		無回答	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ア 電話相談・面接相談・法律相談	全体	20	2.1	234	24.9	649	69.1	36	3.8
	男性	8	1.9	88	20.7	318	74.6	12	2.8
	女性	12	2.4	143	28.4	326	64.7	23	4.6
イ 各種講座や講演会	全体	37	3.9	210	22.4	652	69.4	40	4.3
	男性	12	2.8	81	19.0	320	75.1	13	3.1
	女性	25	5.0	129	25.6	325	64.5	25	5.0
ウ 情報・資料コーナー	全体	12	1.3	196	20.9	690	73.5	41	4.4
	男性	5	1.2	73	17.1	335	78.6	13	3.1
	女性	7	1.4	123	24.4	348	69.0	26	5.2
エ 展示・交流コーナー	全体	16	1.7	192	20.4	689	73.4	42	4.5
	男性	8	1.9	66	15.5	339	79.6	13	3.1
	女性	8	1.6	126	25.0	343	68.1	27	5.4
オ 会議室・こども室	全体	40	4.3	155	16.5	703	74.9	41	4.4
	男性	9	2.1	57	13.4	346	81.2	14	3.3
	女性	31	6.2	97	19.2	351	69.6	25	5.0

(全体N=939 男性n=426 女性n=504)

全体



Ⅲ－７ 男女共同参画推進施策

全体でみると、全ての項目で、「知らない」が６割を超えています。「利用したことがある」とした割合が最も高いの項目は、「会議室・こども室」で４.３％となっています。

男女で比較すると男性に比べ女性の方が、「利用したことがある」、「利用していないが、知っている」とした割合が高くなっています。

7-4 入間市男女共同参画推進センターに期待する事業について

問24 あなたは、「入間市男女共同参画推進センター」にどのような事業を期待しますか。

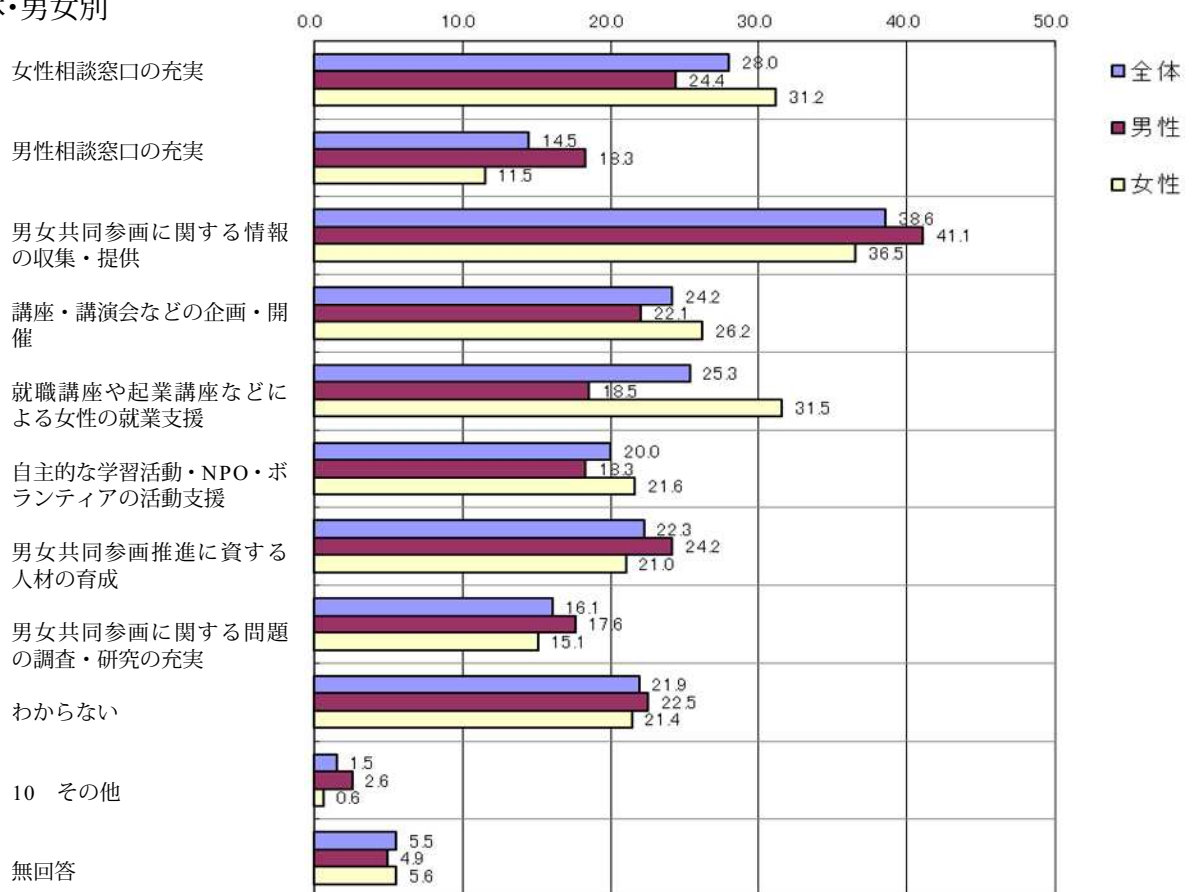
(回答はあてはまるものすべて)

(人：％)

項 目	全 体		男 性		女 性	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1 女性相談窓口の充実	263	28.0	104	24.4	157	31.2
2 男性相談窓口の充実	136	14.5	78	18.3	58	11.5
3 男女共同参画に関する情報の収集・提供	362	38.6	175	41.1	184	36.5
4 講座・講演会などの企画・開催	227	24.2	94	22.1	132	26.2
5 就職講座や起業講座などによる女性の就業支援	238	25.3	79	18.5	159	31.5
6 自主的な学習活動・NPO・ボランティアの活動支援	188	20.0	78	18.3	109	21.6
7 男女共同参画推進に資する人材の育成	209	22.3	103	24.2	106	21.0
8 男女共同参画に関する問題の調査・研究の充実	151	16.1	75	17.6	76	15.1
9 わからない	206	21.9	96	22.5	108	21.4
10 その他	14	1.5	11	2.6	3	0.6
無回答	52	5.5	21	4.9	28	5.6

(全体N=939 男性n=426 女性n=504)

全体・男女別



全体でみると、最も大きい割合を占めたのは「男女共同参画に関する情報の収集・提供」(38.6%)であり、次いで「女性相談窓口の充実」(28.0%)、「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」(25.3%)の順となっています。

問２５ 男女共同参画社会の実現にあたってご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

◇20歳代			
No.	年齢	性別	自由意見
1	20～24歳	男性	男性社員が9割を超える職場に務めています。 もし私の職場で女性の役職者を無理に増やそうとすれば、経験や能力の乏しい役職者が増えて大きな不利益になります。こうした職場で無理に女性役職者を推進するのは良くないと思います。ただし、介護・医療など女性社員の多い職場においては、もっと多くの女性役職者を置くべきだと考えます。
2	20～24歳	男性	素晴らしいプロジェクトだと思います。恐れながら、私はまだ学生ですが、学生支援という点で講座を開き、社会人との交流会というコンテンツがあっても盛り上がるかと考えております。
3	20～24歳	男性	男女共同参画社会の実現は、少子高齢化が改善された上で求められることだと考えている。 出産という女性にしかできない、素晴らしい取り組みを支援する、その上で子育て、再就職を夫や制度・社会がサポートすることが大事ではないか。 出産が可能か否か、など男女ができることは異なるのですから、全ての場において平等にすることは不可能だと思う。 少子高齢化が問題される今だからこそ、男が稼ぎ、女性には出産していただき、子育てに専念していただくというスタイルが求められるのではないのでしょうか。
4	20～24歳	女性	入間市が男女共同参画社会の実現に力を入れていることは知りませんでした。学生であるという要因もあると思いますが、あまりその内容を知る機会がないように感じます。
5	20～24歳	男性	まだ20代であるが、私の周りで差別をしようなどと考えている人はいない。若者が活躍できる場が作れば、必然と参画社会を築けると思う。
6	20～24歳	男性	何故、男女共同参画社会の実現が望ましいのか？それを具体的に論ずるべき。机上の空論は馬鹿馬鹿しいので、とりあえず何かやってみるべき。宣伝や広告は下手だと思う。政府の実現したいことが一般団体に理解されておらず、またそもそも認知されていないのは問題である。女性の雇用の割合と増加する（役員に一定の女性割合を半強制）するのはおかしい。優秀だったら役員になるのは当たり前であり、逆に優秀でないのに、女性だから役員などに就くのはいかがなものなのか。それ以前に、女性が働きやすい社会（育児休業可能等）を目指すべき。女性が働くことは、男性が家庭に協力しないければ実現不能であると考えられるから、そういうことを促すことが必要。男性も育児休暇をとれる事とか。
7	20～24歳	男性	これを書くにあたって、入間市の男女共同参画都市宣言と推進条例を読みました。 目標を掲げるのは簡単ですが、実現するとなるとそうは行きません。一層の努力を宜しく願います。
8	25～29歳	女性	おじいちゃんやおばあちゃんの考えが女は家庭、男は仕事、という方が多い今、いろいろな活動をして、なかなか難しいのが現実だと思う。 今は、働いても子供が熱を出して保育園から電話がきたり、平日の行事や集まりに参加しないと保育園のクラスでも、会社でも、中途半端なポジションになってしまうのが現実ですよ。 家に帰って、持ち帰りの仕事、育児、家事、疲れてイライラしてしまうと子どもにも良くないですよ。こんなに働いても給料は安いのに税金や価格は上がって、やっていけませんね。
9	25～29歳	女性	入間市が行っている男女共同参画社会の施策の一つも知りません。 入間市に魅力がないため、若い人がどんどん離れてしまいます。 本施策よりも住みやすい市を目指していただきたいです。
10	25～29歳	女性	時代に合った男性も女性もより良く政治・社会・職・日常生活が送れるよう努めて頂ければよいと思っています。又、さまざまな活動をPRしていく事も良いのではないかと思います。
11	25～29歳	女性	男女の仕事と家庭での役割（仕事と家庭）の両立がしやすくなるような若者向けの講座が（参加しやすいもの）あるといいと思います。（もうあると思いますが。）

Ⅲ－８ 自由意見・感想内容

◇30歳代			
12	30～34歳	男性	近年では性別でとやかくいわれなくなってきたし、私の職場は女性が多い。 どうしても職種によってより良い適性の性別があるのは事実(保健の先生は女がやっぱりいい)だが、会社とか意味のない差別はよくない。体力とか育児(母乳は母からしか出ないし、どうしてもママがいい子もいる)の関係で、女が男よりも働きづらいのはしょうがないけど、男を産むのも女、だからこそ女を大切にしたい。
13	30～34歳	女性	重要な役職等への女性の登用について 希望している女性に対しては、もちろん登用する機会をだんせいと同じく与えてほしいと考えます。 しかし女性の中では役職等に就くことを望んでいない者もたくさんいます。 就きたくないのに、就かざるをえない状況になることはこれもまた女性を苦しめることにつながります。 個人の意思を尊重した体制を強く求めます。
14	30～34歳	女性	子供が就学したら仕事を始めたいと思っており、情報は集め、イメージしてはいますが、 ・子どもの安全な預け先(学童の充実) ・自分の社会人としてのブランク(パソコン能力など)など気がかりな点はいくつかあります。 そのあたりをサポートして頂けると安心して積極的に仕事に専念できるなあと考えております。 (キャリアも見据え) どうぞ宜しくお願い申し上げます。
15	30～34歳	女性	子育てが終えた主婦が社会に出やすいように、保育園、学童などの情報をもっと分かりやすく、男性にも分かってもらえる様にしてほしい。 家にいるくらいなら“働けば”と言われ、パートに出たくても、土曜、日曜は休めないとか、現実的にむずかしいので、女性がパートにでも行きやすいようにしてほしい。
16	30～34歳	女性	女性が結婚して子どもを生んでも経済的な問題で乳児を預けて仕事をしなければならない場合などに、周囲に負担が大きいのが現在の実情なので、保育施設などをもっと充実させて、母親が子育てしやすい社会にしないと、子どもを生む女性が減る一方だと思う。 子どもがいない方が、生活面にゆとりがある。
17	30～34歳	女性	子育てがあるとなかなか働きに行くことができません。学校が休み(きゅうな)になったらどうしよう?などと、悩んでいます。 あと、販売の場合は、土日にできないといけなかったり…。どこかをガマンしないといけなかったりしますが、何年も働いてなかったりすると勇気もでません。保育園へ入れることも子供のさびしさを考えるとできません。偏見かもしれませんが、少し意地悪な子は、小さい頃から親が働いている子が多い気がします。
18	30～34歳	女性	男女平等に！と言っている間是不平等な社会なんだとおもう。女性は結婚・出産で大半がそれまでのキャリアをリセットされてしまう。仕事が続けられても同じ待遇でないことも多い。子育てというものは尊いもの。そのことを社会全体で認識していく必要がある。子供を産むのは女にしか出来ないのだから。 男性ももっと介護や子育てに関わってほしい。そして地域とつながって欲しい。
19	30～34歳	男性	そもそも「男女共同参画社会」というものを知らない市民がたくさんいると思うので、まずはその情報や認知をしてもらう事が先決かと。中身も名前もわからないまま実現しないので、とにかく発信をしてもらいたい。
20	30～34歳	女性	男女共同参画社会の実現とあるが、それについて情報を得る場が少ないと思う。男女共同参画を現実させるためには、情報を得やすい場をもっと作り、市民が興味を持てるようにするべき。事業への期待とあるが、そもそもの活動について何も知らない。

21	30～34歳	女性	自治会役員など男性が長になるのが、昔からの決まりになっている為、女性（奥さん）が上役になることはない。そのため、条例などで1期交代などで男女を選出する、など決めない限り、女性の社会進出は難しいと思われる。まだ日本全体の意識が男性優位のため、国レベルでの改革が必要ではないかと思う。
22	30～34歳	女性	私は、2歳と5ヶ月の子供がいます。一人目出産までは、仕事で店長をしてましたが、子供をしっかり見たかったという事もあり、育休明けはパートになりました。続けたかった（店長）けど時間が気になりあきらめました。2人目を産み、育休中ですが、入間市の「子供に対する支援や活動は素晴らしい」と思います。もし、私の願いが叶うなら「パパと一緒に子供をお風呂に入れたり、ごはんを食べたりしたいです」 パパの帰りはいつも21時すぎです。たとえば <u>3歳未満の子供をもつ人は、19時までには仕事を終えなければならない</u> （17,18時でも早ければ早いほうが良い） みたいな制度があれば、男女共に「働いていけると」思います。
23	35～39歳	女性	子育てに関する制度をもっと充実させて欲しいです。 勤務時間短縮制度も3才までしか利用できず、それ以降は保育所の時間までにおむかえが間に合わず、もっと働きたくてもパートになるか、勤務場所を変更しなくてはならないなど、負担がとても大きいです。 また、再就職する際も小さい子供がいるとなかなか採用してもらえないのが現状だと思います。
24	35～39歳	男性	入間市の男女共同参画施策自体皆無である。 正直、興味を抱かない。
25	35～39歳	女性	安心して共働きできるための保育園、学童保育の充実を是非お願いしたいです。現状のままで、不安です。又、医療施設（小児科・内科含む）が乏しい部分もあることを、保護者同士で議論することもあります。本アンケートの存在は、体験者の方々からの情報で存知ておりましたが、フィードバックや現状の変化がみられないことも聞いておりました。本当に反映されているのでしょうか？
26	35～39歳	男性	男女ともに意識改革 学校で男女共同参画社会についての教育
27	35～39歳	女性	母子家庭で正社員として働いているが、会社の都合もあり、急病などで仕事を休むことが出来ない環境にある。育児短縮を利用しているが、残業も多く、時間であがれない。会社で育児短縮勤務は9:00～17:00と言われているが、実際はそれは守られていない。 短縮勤務をしており、肩身がせまく、自分の意見も言いにくい。ほかの企業に比べ、優遇されているし、給与面では不満はないが、そういう人があることを知ってもらいたい。 また母子家庭の経済的支援等、考えてもらいたい。公共料金の割引等、所得に応じて減額などあったら、とても嬉しい。
28	35～39歳	女性	入間市民ではあるが様々な情報が入ってきていない。 ふだんは、仕事で忙しいのもあり、広報物もなかなか見ることが出来ません。 今回の「男女共同参画推進センター」というものがあるのも初めて知りました。 改めてどのような活動をしていくところなのか知りたいです。
29	35～39歳	女性	奥さんを助け子供の成長を多く見れるよう、産前・産後1年間、有給を増やしてほしいです。（男性の職場へ働きかけてほしいです）
30	35～39歳	男性	若い世代は比較的男女平等（というより男女で差別、社会的地位や家庭での役割を性別と理由だけで分けている意識はない）と感じます。 年長者の「男が仕事、女が家庭」といった、はっきり言って昔ながらの感覚が、男女共同参画への最大の障壁。そういう方への啓発or若い方（特に女性）の登用必要。（おそらく考え方はなかなか変えられないが…）
31	35～39歳	男性	男女共同参画社会の実現に更なるご活躍をご期待申し上げます。
32	35～39歳	女性	女性をわかっている様な感じは出すが、本当に理解してくれるのかはぎもん。 子育て中の女性は、1日1日同じ時間に出社でき、昼食をとれ、同じ事をし、同じ1日を送れるとはかぎらないと言う事を男性にもっとわかってほしい。
33	35～39歳	男性	男性と女性問わず、いろいろな世代が、安心して充実した生活が送れる様な社会が、一歩でも進んで欲しいです。

Ⅲ－８ 自由意見・感想内容

◇40歳代			
34	40～44歳	男性	企業や行政において、地位の高い人間（特に年齢の高い人）の男女の役割に対する意識を変えた方がよいと思う。年齢の高い人は男女の立場が不平等な文化の中で生きてきた時間が長いので、男女共同参画に対する意識が低いかもしれないので。
35	40～44歳	女性	以前に夫の暴力に悩み相談させて頂きました。実際には自分1人で悩み人に言うことを恐れてきました。両親にも言えず何も言わず実家に帰りすべてを話しこちらに行くように手配してくれました。自分も非があるし、自分も変われば変わってくれるはずと期待していましたが、相談して結局離婚し、子ども達の為に就職し頑張っています。離婚を決断して楽になり毎日平和に子ども達と暮らせる日々が幸せです。本当に辛い時こそ人には言えないものなので、少しでも多くの方が勇気をもって一歩踏み出し自分の新たな人生を送れるように体制づくりをお願いします。相談させて頂き本当に良かったです。ありがとうございました。
36	40～44歳	女性	人間市にこのような活動があることを全く知りませんでした。 何を目指し、何がしたいのか、今の私には良くわかりません。男女平等社会の実現でしょうか。私、個人としては、女性も平等に働く社会は恵まれていると思うし賛成ですが、そもそも男女が平等でいくわけがないとも思っています。基本的に体力や身体づくりも違いますし、ある部分、男性は社会に出て仕事、女性は家庭という考えは当然とも思います。自分でも矛盾しているとは思いますが… いずれにしても、男性が女性（家庭）に、女性が男性（社会）に興味を抱き、共に協力、共感できる社会、関係が私は最も重要と考えます。
37	40～44歳	女性	今の職場に、3ヶ月もしない赤ん坊を連れて働きに出ている女性がいます。経済的な理由などがあるかもしれませんが、（シングルではない）フルタイムで9時間も子供と離れている・・・帰っても、上の子のご飯を作り、夜中にミルクで起こされる。女は大変です。父親学級など、ぜっていに強制で男性にも参加させるべきだと思うし、保育所を増やせば良い！というだけの問題ではない！！と思います。
38	40～44歳	女性	世の中まだまだ男性は仕事、女性は家事育児という考えに縛られていると思います。性別ではなく、人として個人の向き不向き、得手不得手があると思うので、そういった区分けで誰もが快適に生きることが出来れば良いと思います。
39	40～44歳	女性	理想的な社会を作る為に、体裁を保つ為に行うのではなく、（時間とお金のムダ）社会の考え方を変える様な効果のある活動を期待します。
40	40～44歳	男性	優しさと思いやりを忘れずにいられれば、夫婦間の問題も少なくなると思うし、社会でも男女差別などの問題も少なくなると思う。男女共同参画の意見ではありませんが、私は優しさと思いやりを忘れずに生きていきたいと思います。
41	40～44歳	男性	市内でどれだけの住民が興味あるかは？それほどいない市で目指しても効果も得られずムダ金と労力を使うだけ。本当に目指すなら、強制と資金を投下するべきかと思います。
42	40～44歳	女性	まず存在自体が不明。 もっと活動内容などわかりやすい告知が必要。 意味のない活動をしてムダな税金をつかうならもっとピンポイントで有意義な税金のつかい方をしてほしい。
43	40～44歳	女性	問16-1→相談した結果は確認しないですか？相談をどこにどのようにしたか、解決したか。それにより、解決できないのであれば、「人間市男女共同参画推進センター」の出番では？相談窓口を設ければよいのですか？対策が必要なのは？ 育児支援と言われるが、主に就業前限定であり、小学生や中学生でも支援が必要だと思います。川崎事件を思い出して下さい。社会の縮図です。家庭、子ども（18歳くらいまで）へ、経済も含め支援の充実を願います。
44	40～44歳	男性	高齢化に伴い、特に政治への若者との格差が生まれていると感じる。若者の異見が尊重される体制・制度の改革をお願いしたい。

45	40～44歳	女性	女性の経済力をもっとつけたら「力」が発揮されるとおもう。 自治体の長がそういえば男性が多いのは不思議で、それに慣れてしまっている。
46	40～44歳	男性	安倍首相が、女性管理職の割合を数値化し、企業にやらせようとしているが、逆効果。 結局能力の無い女性管理職が多く誕生するだけ。 性別に関係なく能力のある人材を登用することが、自然と男女の比率がバランス良くとれてくるはずです。
47	45～49歳	男性	教育～生徒、学生の学級・学校の運営から、女子生徒や女子学生をリーダーとして活躍する機会を増やし、長いスパンで男女ともの意識を変えていく。
48	45～49歳	男性	わからない
49	45～49歳	女性	私自身の意識が低いこともありますが、現在の状況をよく知りません。 状況や、何ができるのかを知ることのできる機会が増えるといいです。
50	45～49歳	男性	人が田舎の人なので根深そう。 自治会を見ていると昭和50年代頃の慣行がそのまま残っているように見えたりする。年配者の引退が早期の実現につながると思います。
51	45～49歳	男性	意味ある？
52	45～49歳	男性	少子高齢化の中で、お金を儲けないでやることは無理ですが、次世代の為に明るい社会を残しましょう。
53	45～49歳	女性	「男女共同参画社会」と行政が枠組みを作るから、おかしい事が沢山あると思う。 世の中の「差」は性差だけではない。「女性」というだけで権利ばかり主張する人もいて、男性からはどの様に思われているかと思うとゾーっとする。同性でも腹立たしい。 決められた枠組みの中で、権利を讃歌する様な人間にはなりたくない。女性を人間として認めて欲しいと活動してきた先輩方に失礼だ。 「男女」にこだわらず本当の「弱者」の為に活動する市政であって欲しいと強く思う。そして能力ある人材を登用していけば良いと考える。(性別、年齢、国籍etc、関係なく)
54	45～49歳	女性	知らないことばかり・・・まずはみんなに知ってもらう事からだと思う。
55	45～49歳	男性	女性の均等だけでなく、男女とわず経済的格差による差別にも目を向けていただきたい
56	45～49歳	男性	市役所管理職の女性を増やし活動アピールすること。企業にも理解説明に務める。 ※市役所職員がまず最初に実行し理解を求めることが重要と思う。
◇50歳代			
57	50～54歳	女性	女性の活躍をあらゆる分野で期待しています。
58	50～54歳	男性	男性も女性も皆が笑顔になれる社会をつくっていきましょう。
59	50～54歳	女性	世代や地域、思い違い、暮らし方など、それぞれの場合があり、初歩的なことですが、個々の違い、事情をわかったり認めたりしたうえで、共同だ、平等だとするのが、どこまで可能か複雑な印象です。
60	50～54歳	女性	男女共同参画社会と言うことをはじめて知りました。
61	50～54歳	男性	推進センターの存在をよく知らなかった。広報活動を含めてもっと皆が知り得るような活動を行っていった方がいいと思う。 職場の事もあるので行政だけの取組みでは難しい面がある。 企業もまき込んだ対策が必要ではないか。
62	50～54歳	男性	小さな時からの教育方法(若い女性には専業主婦をのぞむ方がいる。)
63	50～54歳	女性	全てにおいて平等である必要はないと考えます。 でも、能力のある人、実力のある人が女性であった場合、それを生意気にとらえる人がまだ多くいる気がします。教育から見直していくしか無いのでしょうか。これから先を期待します。

Ⅲ－８ 自由意見・感想内容

64	50～54歳	男性	住民にわかる情報提供が必要だと思う。
65	50～54歳	女性	女性が働くことで、子供の成長期(乳児から幼児期)の愛情不足から精神的に安定せず、後々いろいろな問題に発展していく心配をしています。実際、犯罪も低年齢化している気がするし、いじめなど人間関係をうまくできない子供達が増加しているように思います。子供を育てる大事な時期は親は子供の気持ちに寄り添ってほしいと思います。 男女問わず個々の特性や価値観を尊重してほしい。みんなが同じように「働くべし!」「専業主婦(夫)はダメ」などと1つの方針を押しつける社会になってほしくない。
66	50～54歳	女性	以前に比べれば女性の社会進出はずいぶん進んでいますが、さまざまな男女での差異があることは事実です。まずはその違いに気付くことが第一歩ではないでしょうか。結婚・出産での退職を考える女性は(退職を実際にはしなくても)たくさんいるはずですが、男性が結婚・子供が生まれることを理由に退職を考えることは現在まずないでしょう。なぜ女性が退職を考えるのか…女性が社会に出ることこそ実現できることも多いはずですが、何かを犠牲にしなくても社会に参画できる日が1日も早く来るべきです。
67	50～54歳	女性	家事、介護、子育て等、すべて女性におしつけ、その上ただめし食らい扱い、さらに仕事もさせようとするのはおかしい。男性もやってみたらいいと思う。
68	50～54歳	女性	男性女性はもともと体の仕組みが違って、全体において平等と言う言葉が当てはまらなと思います。男性と女性は悩むことが全く違うと思います。お互い全てを話理し理解してくれると思うと悲しいことが起こります。お互いに触れられると痛いところには触れない事です。ずっと一緒に住むわけですからだんだんにどうすることが我が家にとってベストなのか分かってくると思います。男性女性だけだとうまくいくこともありますが、子供のことになる、やはり女性が我慢することの方が多いでしょう。
69	50～54歳	女性	上の教訓が下まで行くとどかないと会社としても栄えないとおもいます。
70	50～54歳	男性	本気で取り組んでください。
71	50～54歳	女性	動物として自然から考えるとそれぞれの役割があるのでは。
72	50～54歳	男性	女性が就業するための阻害要因を取り除き、男女同レベルの仕事ができるようにする。→敢えて専業主婦を選択した場合においても専業主婦を仕事として認めることで、男性の“食べさせてやっている”という自分だけが仕事をしているのを思い込みをなくさせる。
73	55～59歳	女性	フルタイムで仕事をし、子育てや介護、家事etcをこなす女性には、自分の住んでいる地域にもっと目を向けたくても時間が取れません。どうか、いいシステムを作っても女性たちに知ってもらえないと利用する人がいない事にもなるので、広報の方法を工夫していただきたいです。
74	55～59歳	女性	男性には男の仕事があると思う。 女性はまず子育て、子供の教育をしっかり(手助け)する事、日々の生活では女性がしなくてはいけない仕事(家事)ができる女性になってほしいし、しなくてはいけないと思う。 社会の中で女性が自分の身の回りのかたづけができないことをT.Vなどで報道していますが逆効果だと思っています。 女の教育(共同参画社会を言う前に)をしっかりして欲しいと思います。
75	55～59歳	女性	5年前に所沢市より入間市に転居して最初の印象は、市役所が暗い、元気が感じられない。医療・福祉の制度が遅れている。というイメージでした。 住環境は自然と都市が入り混じって生活はとても住みやすく、一生定住したいと思われるほどです。 入間市の活動には日々の忙しさに紛れ全くと云ってよいほどわかっていません。情報を収集する機会もないので意見を上げるものでもないのですが、男女共同参画社会は男女の枠はもちろん、年齢の枠も取りはずし老若男女入り混じったコミュニケーションの中で、色々な発想が生まれ、そこから地域活性が広がるのではないかな?と思うとそのようなイベントやコミュニティー等を企画して頂けると、楽しく興味を持って参加できるような気がします。これまで、彩の森のフリーマーケットや万燈まつり等には参加させていただきました。何よりも推進される方々の元気を届けて頂きたいと思います。

76	55～59歳	女性	まだまだ女性の地位は低いし、子育てをしながら働ける社会になっていないと思います。人間市での男女共同参画の事業についてもほとんど知りませんでした。もっと情報を知る機会がほしいです。現在は仕事を退職して家に居ますが、娘たちの世代が安心して、仕事をしながら育児、子育てができる社会になってほしいです。がんばってください。
77	55～59歳	女性	アンケートを取ったから終りじゃこちらの時間をもったいないんですよ。 男女共同参画の前に、やらなければいけないことがあるんじゃないの？こんな事(男女共同参画で)で不自由になっている市民なんてそんなにいませんよ！ 保育とか介護とか色々困っている事があるのよ。 皆がおだやかに暮せれば人権も守られるし、物事がスムーズになるわけ。 こんなものを2000人に送る費用がもったいない！税金は有効に使ってください。以上
78	55～59歳	男性	安心して子供が育つ。安心して老後を暮す。それは社会の責任で、家庭に負担を求めては、誰かが犠牲になるのは当然。社会で活躍しているように見える男性だって、結局犠牲者だと思います。
79	55～59歳	男性	こういうアンケートはネットが利用できると良いと思う。
80	55～59歳	男性	男女共同参画社会とは、根本的にどのようなことか、具体的にどうするのか、市民が分かるように推進センターが発信して知らせてください。大変でしょうが、頑張ってください。
81	55～59歳	男性	・女性の力を最大限に活用できる職種の窓口を広げる。 ・DV、ストーカー、高齢者虐待、児童虐待について教養の必要がある。そのための保護施設、環境を整備する。 ・性同一性障害者については理解できる部分とそれ以外が多様化して非常に難しい問題である。慎重に時間をかけて検討しなければならない。
82	55～59歳	男性	活動内容の紹介等は市報に定期掲載されていますか？私も少し関心を持って確認して行きたいと思っています。
83	55～59歳	女性	選挙権をもつ18才以上の大人の考え方も調査、研究をして男女共同参画社会に年齢層もある事を大切に考えていく事が大事だと思っています。
84	55～59歳	女性	人間市男女共同参画推進センターは旧保健所にあり、駅から歩けるという点では保健センターと違って好ましい。立地のよさを利用して女性が職業につけるように、管理職として活躍できるように。またそういった女性を支える男性が家事をする事に肩身のせまい思いをしないように、社会の偏見をなくしていけるように、家事技術が向上できるように、講習・講演を充実させて下さい。
85	55～59歳	男性	・周辺整備は重要事項であると思いますが、現在の実業においては、女性の意識の成熟性に課題があります。それを、社会全体で変革させるべきであると思います。 企業の中で、男女共同は、男女平等とは異なることをもっと確認されるべきです。個々で評価や判断されることが女性においては「女性だから」と、やたら個々の平等ということにすりかわるのは、社会、男性の問題ではなく、女性側も真剣に考える時だと思います。 ・仕事と家事という狭い考え方はあまりもたないで新しい社会の実現にむけて、ご努力いただけたらと思います。
86	55～59歳	男性	何の目的で存在するか、もっとPRしないと意見も出ない。
87	55～59歳	女性	人間市男女共同参画推進センターというものがある事を初めて知りました。今後はもう少し、関心を持ちたいと思います。
◇60歳代			
88	60～64歳	男性	講習会等、なるべく土日に参加できる様にして欲しい。
89	60～64歳	男性	・女性の再雇用を促進する。 ・低所得者(家庭)の教育支援を積極的にやってもらいたい

Ⅲ－８ 自由意見・感想内容

90	60～64歳	男性	行政として大きく宣伝するとともに、誰にでもわかりやすく、ていねいに説明して広く理解を得られるよう希望する。市職員として市民のための努力を期待する。
91	60～64歳	男性	質問に答える中で記したように、答えを出せる状況ではないので、まずは社会全体への問題提起が必要と思っています。 ただ、人類の歴史の中で、どうしてこうなっているのだろうかと考え、ある程度の必然もあったのかも知れないと思う。 1つ重要なことは、出産、子育てという人類行動の中での役割、力に余りにもその価値を低くみている向きが多いように感じる。会社運営も、利潤追求よりも、より一般的、普遍的ではあるか、大切なのだ…それを忘れてはいけないと思っています。
92	60～64歳	男性	男女共同参画の推進は一人ひとりの意識高揚が大切ですが、自治体が窓口になって進めてゆくのが良いと思われます。
93	60～64歳	女性	私たちの世代から始められることが具体的に思いつきません。 また若い世代も矛盾にぶつかっているのに解決できていないのではないのでしょうか。
94	60～64歳	男性	男女共同参画社会を行う事により、男女平等の社会に近づき、女性の社会進出につながると思います。 男女が平等に話し合い、互いの考えが分かるようになると思います。 女性の社会進出が早く進むと良いですね！
95	60～64歳	女性	入間市は雇用の採用年齢が60才までとなっていますが、これからの男女は、まだお元気な方もいらっしゃる、まだまだ働ける力をお持ちの方も、家でムズムズしていらっしゃる方も多いと思います。 東京都では、かなり年齢の方も働けるようです。入間市も考えるべきではないでしょうか？ お年の方も余裕ある安心して生きていける入間市になってほしいです。
96	60～64歳	女性	入間市男女共同参画推進センターという事業があるとは、この資料を見て知りました。
97	60～64歳	女性	事業を企画・開催にあたっては人が必要になると思う。地域にいる元気な高齢者の人たちにも力を借りるのも一つの方法だと思います。
98	60～64歳	女性	図書館の利用時間が延長され、大変好ましいことと思っています。(残業代やコストもかかり、大変かと思いますが) 最近、お年寄りの集まりの場ともなっているようすですが、「学生たちの勉強の場」としてのスペースを確保してあげてほしいです。図書館は、勉強も捗るし、集中できる場です。“若い人”に目を向けて地域で育てる事にもお願いしたいです。
99	60～64歳	女性	問24 最も情報が必要と思う。
100	60～64歳	男性	ガンバッテ下さい。
101	65～69歳	女性	私は入間市に生まれ入間で育ち今までの65年間入間から出たことがありません。23歳の時に小谷田から宮寺に嫁ぎました。姑と一緒に35年間苦勞してやっと主人と娘2人の生活があり私も幸せだと思ったのもほんの5年間で主人と二人っきりの生活になりました。私の娘が将来50才くらいになった時にもっと女性からいやな性的な行為をこたわれるような時代になってほしい。そういう思いでこのアンケートに答えました。
102	65～69歳	女性	これから老人社会、若い人達が頑張って働き、子育てが安心して出来る入間市をお願いします。 今の若い人達が生活向上の為に、入間市、先頭に立ち向かう事、望みます。 古いこだわりを捨て！！

103	65～69歳	男性	旗を振っても内容が外れていると効果は少ない。 女性にやさしいフェミニストの友人があるとき「女性ってバカだな」と言ったのでびっくり。逆に女性から「男ってバカでしょ」と聞いたことも。理由は学校でも社会でも「性差」を正面から向きあってこなかったため。「性差」は差別につながると避けてきたからです。20年前母が亡くなりおどろいたことがあります。姻戚の情報が全く入ってこなくなったのです。長電話の母が情報を入れ、伝えてくれていたのです。 女性の持つコミュニケーション能力、協調力、思いやりは真似できません。男の分析力、機械的理解力は優るでしょう。これらの違う能力を理解し、それぞれの力を出しあえば、家庭でも会社でも生きいきとした協力社会が築かれると思っています。 差には上下の差もあれば、並列の違い、差もあります。「相手性をバカ」と思うのは理解不足に起因しています。正面から性差に向き合い相手の長所を生かし、協力しあう。それが力となります。組織でも男性だけの組織は弱いと言われています。協力が必要で性差の理解不足が妨げとなっています。
104	65～69歳	女性	もっといろいろ知らなければいけないと思いました。
105	65～69歳	女性	男女共同参画社会がどのような物(内容)かよくわからないので社会全体がどう変わるのかをわかりやすく説明して欲しい
106	65～69歳	男性	男女共同参画社会を地域から作り上げることは本道と思いますが、国の役割が大きいと思います。 30年位前は、ある政党は主婦は家庭にいることが望ましいとしていた。しかし、高齢化社会になり働き手が少ないとして、主婦も外に出て働く社会を作ろうと呼びかけだけは景気が良いが、政治・政策でのフォローは何もしていない。 少なくとも子育て・介護から解放できる環境が必要です。 保育園の充実、介護施設の充実、そこで働く人々の待遇を良くする施策を国が中心となって進めるべきです。 入間市も頑張ってください。
107	65～69歳	男性	文化を変えることから始める必要がある。 学校教育など子供からその様な制度を学ばせ、数十年かけて、文化として定着させる。そのためには女性の地位向上と、女性自らTOPに立って変える努力も必要。 単なる数合わせでは、うまくいかない！！
108	65～69歳	女性	ぜひ実現されることを望んでいます。
109	65～69歳	男性	全ての施策では真に能力ある方を登用して下さい。
110	65～69歳	男性	「男は仕事、女は家庭」という考え方が根深く、ここを社会から壊さないとスタートが難しいと思う。企業経営者には特に強いと思う。
111	65～69歳	女性	他県に40年以上。 2年前から入間市にお世話になっています。年も重ねておりますが、いつでも(今でも)少しでもお役に立ちたいと思っています。社会に必要とされることが、人として希望がもてると思います。
112	65～69歳	男性	無理に男女共同参画社会とこだわる必要は無いと考えますが
113	65～69歳	男性	1.少しイベント、発表会を各公民館等、数を増やしてもらいたい。 2.人員不足していると思われる。
114	65～69歳	女性	問22と問23に関して内容をほとんど知らない。もっと入間市民が分かる様に具体的に幅広くPRしなかったら市民税使ってやっている意味がない。皆が参加出来る様に、もっとPRすべきだと思う。皆が興味を持って参加出来る様な内容をする事。
115	65～69歳	女性	少しずつ社会が変わっていているように思いますが、まだまだですね。若い人達に期待しています。
116	65～69歳	女性	市議会議員には女性がいるのに区長はなぜ男性ばかりなのか。自治会加入が下がる中、区長・自治会の組織見直しも必要だとは思いますが。

Ⅲ－８ 自由意見・感想内容

117	65～69歳	女性	男女共同参画は少しずつ前進しているとは思いますが、男性の本音は私が働きはじめた20代の頃と40年以上たった今もあまり変わってないと思います。 この共同参画の実現に向けて今まで啓蒙活動と情報提供などが主に行われてきましたが、これからはもっと積極的な施策を実施しなければ、飛躍的な前進はないと思います。 政府はここで「20年度までにあらゆる分野での指導的地位に女性が占める割合を30%程度」にする目標を下方修正してしまいましたが、むしろ50%に揚げそれを実現させる方策をていねいに推し進めていくことが重要だと思います。 それと行政の考え方の根本はまだ市民＝世帯主＝働いている男であり、女、子ども、老人、障害者、マイノリティーなどは特別で第二の市民という対応だと思います。 たとえばこのアンケートの間21の回答9に「防災の分野で男女共同参画の視点を入れる」とありますが、これは防災だけでなくすべての施策にこの視点が入らないのはおかしいと思います。また女性に限らず、働く元気な男以外もすべて市民ですから。
118	65～69歳	女性	家事、子育てを共に分担して働きやすい社会を作してほしいです。
119	65～69歳	男性	入間市の男女共同参画についての情報について注意していきたい。
120	65～69歳	女性	市内の他地区の友人に聞くと、地域によって社会参加への考え方に差があるようだ。(例えば豊岡地区と、野田地区の友人の話では女性の社会参加への考え方が違うなど)。その地域による差を何とかめなければと思う。その中には、本家と分家の関係もあるようで、古くさいようだが、まだこだわる地区もあるようだ。 本家分家という考え方は男女共同参画と直接関係ないようだが、“分家の嫁のくせに”という考え方をしている人がいるかぎり、男女の役割の差をうめるのは大変だと思う。法律よりも、そのように住まいの近くからの啓発ができないものかと思う。
121	65～69歳	男性	1.女性が安心して働くことが出来る保育施設の整備のための十分な施策が必要と考えます。保育園の不足、保育時間の不足、高額な民間保育園等、早急な施策が必要です。 2.男性が安心して育児休業できる職場づくりのための行政指導が必要と考えます。(育児休業による欠員補充のため人件費確保の内部規定、育児休業取得者の休業期間中の給与支給、休業後の復帰時人事異動の規制等、細かな指導を徹底しないと改善されないと思います。)
122	65～69歳	男性	物事、男性特有の物、女性特有の物と言われる物事以外、基本的に性別は関係ないと思います。 女性の方々は日本古来の習慣にて外に目を向けることが少なかったと思います。 これからは設間にも有りましたが、女性の方から積極的に世の中と交わり、知識や技術の向上を図り視野の広い意見を述べ世の中により以上貢献して頂きたいとねがいます。門戸の開くのをまつのではなく、開いて頂きたい。
123	65～69歳	女性	私事では、もう少し早く、いや10年この様な企画に出会いたかったです。
124	65～69歳	男性	①女性は弱者とみるような発想はやめよう。 ②生涯学習は両性が自覚と責任をもって実践するべきだ。 ③悪しきフェミニズムは“女”性の生むこと、育てることに対する生物原理を考えず(考えると差別と考えているようだ)社会的に平等(本当は両性共通と言っているようだ)という思想が声高である。不自然なものは不自然と認めることが必要。 ④男/女に違い(差異)があることを条件づけ、その上で女性の社会的地位のあり方を、現状の中で考えたらどうか。 ⑤④に関して。人間性とか制度設定を理想化して語ることは、主旨の実現を危ういものにする、と考えている。
125	65～69歳	女性	男女平等とは男と女が同等だとう考え方ではなく、男としての分、力量、女としての分、力量とゆうものが初めから、それぞれにあると思います。お互いに、その分、力量を十分に出し合って補い合ってゆく事が出来たらとてもすばらしいと思います。そうする事によって無駄な対立もさげられ、大きな事も、なしとげられるのではないかと思います。

126	65～69歳	男性	「入間市男女共同参画推進センター」という施設がある事をこの資料を読んで知りました。男女共同参画社会を実現するためには、多々苦労が必要と思われますが入間市民のより良い意見を収集され活動に結びつけ協力を得る事で達成出来るものと信じます。
127	65～69歳	女性	少子高齢化が加速する社会に於いて、女性も活躍する必要性が大であることは明かです。その仕組みを円滑にするためには何よりも行政の取組が重要と思います。又、その中をなすメンバーの女性登用の条件は、パートやアルバイトではなくしっかりと自立した女性を登用すべきと考えます。何故ならば、日頃から周りの女性を観察していて、男性並みに家計を支えている女性と腰掛的に働いている女性とは、仕事、社会に対する意識が相当隔たりがあるのを感じるからです。こういう人選にも行政の担当官の技量が問われると思います。
128	65～69歳	男性	“入間市の男女共同参画”の活動をまったく知らなかった。今後は情報入手に努力します。
129	65～69歳	男性	性別の特性を生かすことについて留意すべきだと思います。
130	65～69歳	男性	市としてどのような広報活動をしているのでしょうか？
◇70歳代以上			
131	70～74歳	女性	“三つ子の魂百までも”と言われる様に子供の頃から男女は尊重し合い、理解する様に育てていく事が大切だと思っています。
132	70～74歳	女性	わからない事だらけで役に成れませんでした。
133	70～74歳	女性	私の育った年代ですと学校教育は戦後の男女差別のないじゆうな教育を受けましたが、会社に入ってから男女優位の社会に驚かされました。学校で習った事と実際はちがうのだと思い知らされました。それから50余年世の中は大きく変わり男女平等の社会となってきましたが、まだまだなところが多くあります。男女共同参画推進センターのような地道な活動が必要だと思います。
134	70～74歳	男性	何と無意味な質問事項が多いのか？此の主旨には全く興味も意見も出ない。
135	70～74歳	女性	高齢者なので解答ががむずかしい。適切な解答ではありません。申し訳ありません。
136	70～74歳	男性	“男女共同参画社会”は必要とは思いますが、総花的に展開しても実質的な改善を市民に示してゆくことが大事と考える。 市政全般的な話として、それにしても入間市にミリョクはあるのだろうか？若い人達は、「入間市はこういう町に向かっている」と言える明るい方向性はあるのだろうか？ 市はそれをどう考えているのだろうか？
137	70～74歳	男性	女性の働く場所や、働きやすい環境を積極的に推進して欲しい。
138	70～74歳	女性	なによりも今までの男性、女性の考え方を変えること。女性が外へ出ることの時間のやりくりそのためには、何より家族の理解を得ることが第一なので年寄にも理解してもらえる活動をお願いしたい。 介護の必要な家族をかかえた時、相談を気軽にできる窓口を作る。その窓口を作るときは、実際に、介護で困った経験のある人の意見をぜひ取り込んでもらいたい。
139	70～74歳	男性	どちらかというと他人まかせで無関心でした。申し訳ないと思います。

Ⅲ－８ 自由意見・感想内容

140	70～74歳	男性	1.女性の社会参加、労働力不足対策等の一方、少子化対策に有効な手立てはと考えると難しい。 2.不安定就業者の増加で不安定でも共働きが必要となっており、それに男女共同参画社会運動が悪乗りしているようにも感じる。 3.抜本的な雇用対策の改善、職場、地域社会での女性の登用が望ましく、介護、育児支援等、の充実等も有用と考えるが、その経費をどうするかとなると一朝一夕には進まない。安倍のミクスのような形で国をあげて進めないと容易ではないと思う。 4.なお、子供にとって、家庭と保育所(幼稚園)のどちらが育つ環境として良いのかも踏まえて欲しい。(子供を犠牲にしての男女共同参画社会の推進は望ましいのか)
141	70～74歳	女性	とてもよく出来たアンケートだと思います。 ただ難かしい問いかけが多く、作った人の自己満足に感じられ答えづらい気がします。 この問題の会議の中味が固い話ばかりでなく、ざっくばらんな方向をさがす努力が必要と存じます。 例えば、自分だったら今、何をすればよいかなど女と男がよりそう新しい「形」などを考えますが。
142	70～74歳	女性	うちの場合、夫が人付き合いが下手で(年令的70代)、時間があるのでボランティア活動にもと、行事、講演など誘ってみても、私との外出も好まず、さてどうしたものかと悩んでいます。視野が狭く会話ははずみません。このような人がおおいのでしょうか？性格でしょうね。 世間的に見て、われわれの時代と違って男女平等が進行していると思います。
143	70～74歳	女性	色々な思いはありますが、具体的なことを文章になるとまとまりません。 これから男女共同参画に関する情報等に目を傾けてみたいと思っています。
144	70～74歳	男性	特にありませんが、女性は家を守り、男性が外で働き、給料を多くもらった方が良いと思う。
145	70～74歳	女性	私も若い時は官庁に勤務して居りました。 30才になるとバタバタと結婚し、40位で独身でいるのがおかしい様な空気。 若い子は男性にチャホヤされました。今の時代は解りませんが、男性はもちろん、女性に対して区別なく理解し、若い女性も足を引っぱってはなりません。私も今考えて、あの頃の自分はどうかだったろうと反省して居ります。まず、女性が強くなり、自分はどうしなければならないかを考える事です。男性ばかりが悪い訳ではありません。参考にはならないでしょうが現代社会にうとい私の思いを書きました。申し訳ありません。
146	70～74歳	女性	保育施設、介護施設の充実
147	70～74歳	女性	男女共同参画社会は大切と思うが、女性自身があまえている面が多い今、まだまだむずかしい。心と自覚する事が大切と思う。しかし、子供は3才までは親の愛情が大切だと思うので、産んですぐに他人にあづけようとする若い女性には反対だ。まわりの手をかりながらでも、手元におくのがよい。
148	70～74歳	女性	情報のお知らせを市報にのせてあるが、回覧などにものせてもよいと思います。
149	70～74歳	男性	私は恥かしながら人間市が、男女共同参画都市宣言をし条例を作り、参画センターを設置して活動推進していることを知りませんでした。 国が推進していると思っていました。 早速推進センターに行ってみたく思います。 男女平等に関しては、法律等は充分整備されて来ているは思いますが、社会通念・慣習・しきたりはまだ追いついていないのが実態だと思います。 但し、女性、男性それぞれに身体や先天的性格等特性があるのでそれを踏まえた「平等」が大事だと思います。

150	70～74歳	男性	男・女と区別し職別する時代は変革しつつあります。 法律を変えたり、保護、優遇策自体が、女性軽視な政策であり、全ての政策の文語に、男性とある所を全て男女とすべきです。女性にしか出来ないのは母親になる事(男性はなれない)ただ一つで、他の事は子供の頃から男女差別なく教育していれば、今までのような、男は〇〇、女だから××などの慣習や、職業選別、役割選別の意識が変化育成されると考えます。 女性には弱い者、慣習の差別、女性だから、の言葉は必要ない。男性と同じ全てに権利と義務を主張する女性が増えているが、すべての女性にそれ自体を聞きたく思う。
151	70～74歳	男性	男性と女性はそれぞれに異なる特性を持っており、法律や制度で無理やりに平等の名のもとに社会を規制することは、かえって悪平等だと思う。自然の成り行きとして、平等が語られるのは良いが、特に他民族からの圧力とか他文化と比較してとかが、その源(みなもと)であれば、日本人としての文化の中でどうあるべきかを考えるべきではないかと思う。
152	70～74歳	女性	今回この様な市民意識調査表を戴きまして50年市民としてくらし、おはづかしい事ですが入間市男女共同参画都市宣言他まったく知りませんでした。 私が若い時とは、だいぶよく成っていると思いますが家庭に於いてはお互い配偶者が理解しあう事が大事な事だと思います。これが基礎と成って学校、社会に出てからもいえる事ではないかと思っています。
153	75歳以上	女性	先づはじかんがかかるかもしれませんが、日本人の労働時間について長時間労働が評価されるという現状を改変し、男性が仕事の他に、家庭、育児、社会活動に参画できる社会を実現する方向にもって行って欲しいと思います。
154	75歳以上	女性	介護でお世話になるヘルパーさんの賃金が安く、男性、女性も就業に厳しい。 結果、男性は更に介護職から遠のき、安い賃金で女性ヘルパーさんががんばることになっている。
155	75歳以上	女性	男性と同様女性にも男性よりすぐれた能力を持っている人もいます。そういう人を発掘して最も住みやすい町を目指してほしいと思います。猫や犬もいやしの為協力していることがたくさんあります。動物も命のある人間と同じ価値があります。猫の住める町として外国並みにもう少し窓口を広げてかぎりある命を動物と同様いつくしみながら生活できたらと熱望してやみません。
156	75歳以上	男性	啓発活動の推進
157	75歳以上	男性	男女共同参画推進センターの目的が理解できない。 女性が不利益を受けているとは思っていない。
158	75歳以上	男性	男女共々お互いに、偏見に満ちた悲しい生き物であり、永久に平行線を辿ることが自然かとも思わないでもないが、どちらも賢い生き物として捉えるならば、自ずと去勢をはったり、卑下するような社会から抜け出す風潮を作り出さなければならない(相変わらず封建社会の名残りが目立つ)まずお互いに忌憚のない意見を出しやすい環境作りから、ブレーンストーミングを試行する。 それには、他人の意見を批判したり、中傷したりしないこと。数多いアイデアほど称賛されること。様々な意見を集約検討し、実行できるものから優先し、行政コストとのからみが生ずるので役所との理解と協力が絶対となる。 男女はお互いに自分自身を知るためにも、基本的な考え方に対する意見交換会のような公的な機会を期待します。
159	75歳以上	男性	年金生活で一人暮らし。このアンケートには応えられません。直だ女性が職業を持ち強くなると男性は、捨てられる事です。
160	75歳以上	女性	いっしょうけんめい活動していっしょやる方もいると思うのですが、表面にあらわれてきていないようにも感じられます。力を合わせてやっていけるようになるといいなあと思っています。

Ⅲ－８ 自由意見・感想内容

161	75歳以上	男性	政治的・経済的・社会的・文化的・文化的利益を均等に享受するって何ですか。マニュアル的な質問、とっつきやすい自然と必要性を感じ入りやすいものに教養や知識がないと近づけないという感じを与えないようにしていただきたいと感じています。
162	75歳以上	男性	方法論より、先に時代の流れ思考論を中心とした活動を一、と期待します。思考を新たにする基点を一、と思います。
163	75歳以上	男性	1.公民館等身近かな場所で啓発活動を推進する方法が目的にそうものと思う。 2.相談者の秘密を守ること。 3.相談をたらい回しにしないこと。 4.意欲のある人を相談員として置くこと。 5.市として職員全体として取り組むこと。
164	不明	男性	同じ人間なので、できる限りすべてを平等にすべきだと思います。
165	不明	不明	男女共同参画社会という構想が云われはじめて久しいような気がする。しかし具体的な形というものが理解できない。(必要かどうか判らない) ただ「女性が差別をより受けている」ということに関してはずいぶん意識の向上により改まりつつあるのでは(※個々具体的にはかなりあると思うが・・・)

